

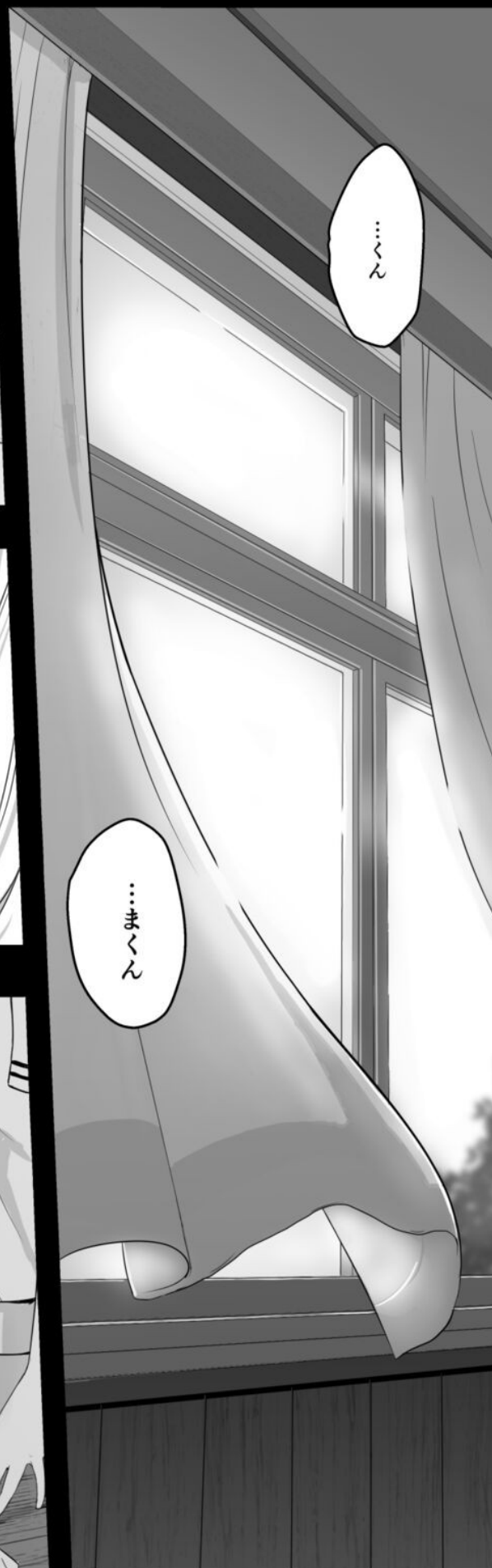
君がため。

4



君がため。

CHAPTER 8

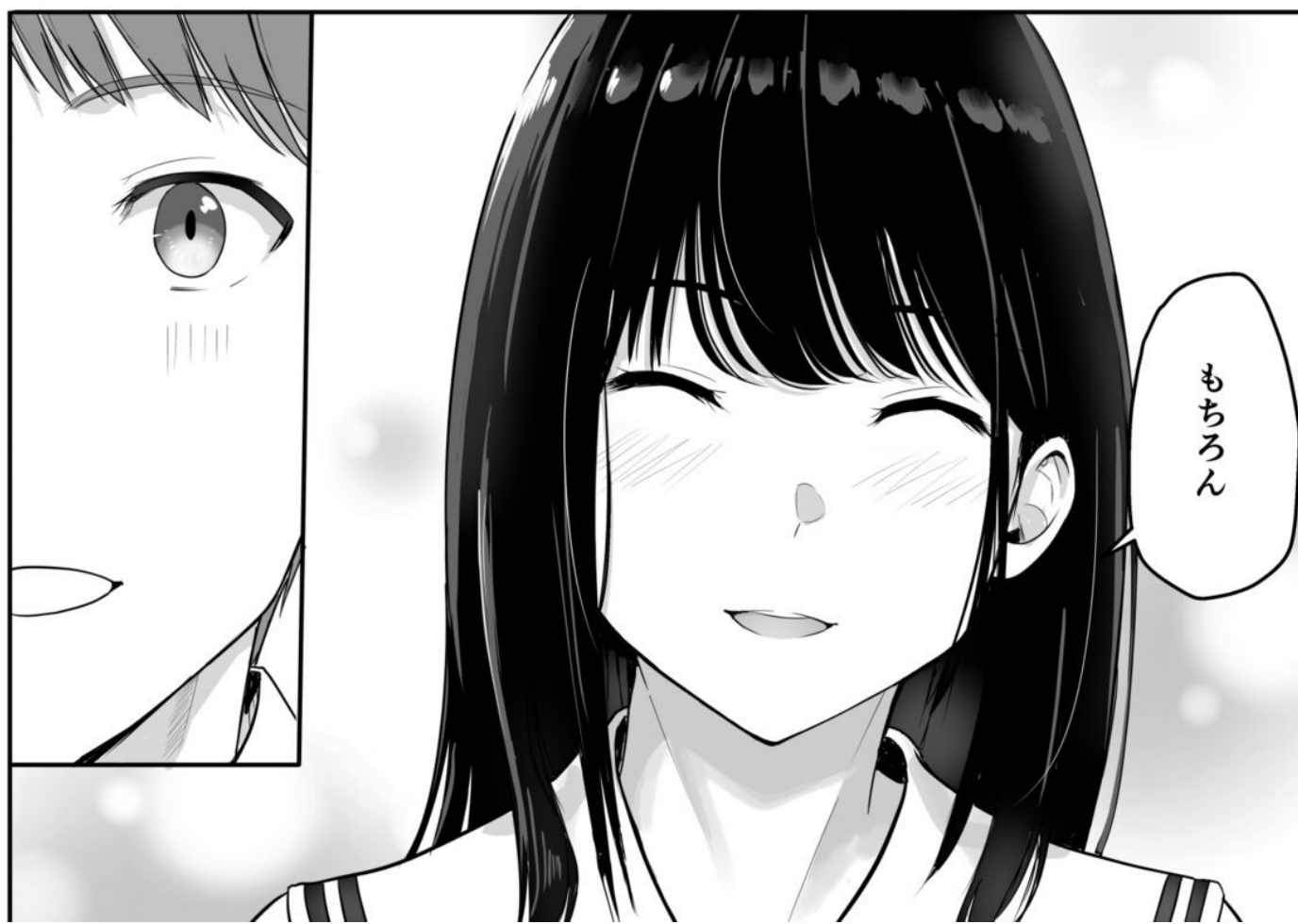












どこに
行くかは
決めてるの？

あ…
ごめん
まだ

そうだ
何も不安になる
必要なんてない

7スッ

お互い行きたいところ
候補あげてみようか

スッ

市河さんとなら
部室以外でだつて
きつと楽しく過ごせる

・遊園地
・図書館
・水族館

もっと
前向きに
なろう

市河さんの
私服って
どんな感じ？

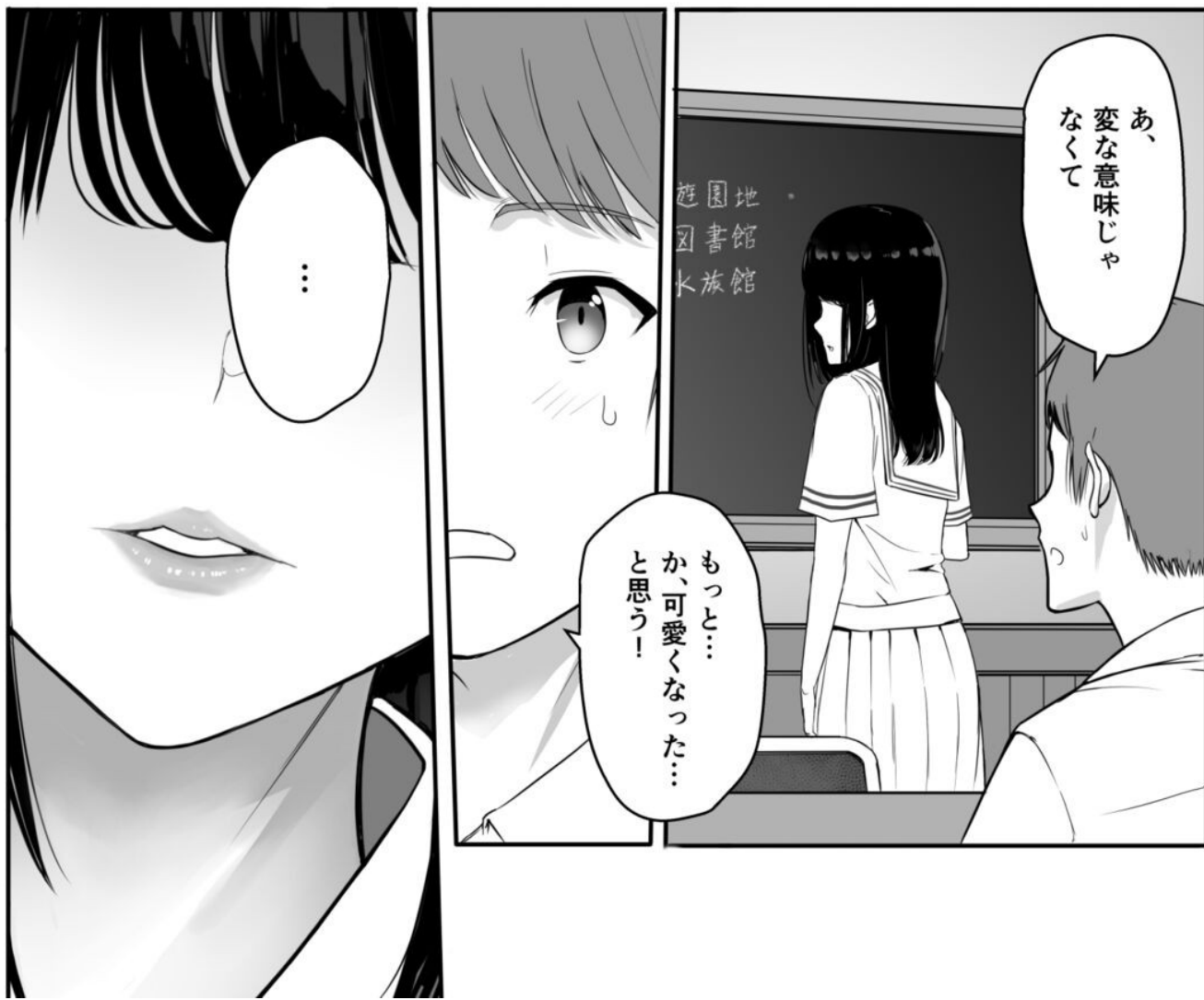
え、え？
普通だよ？

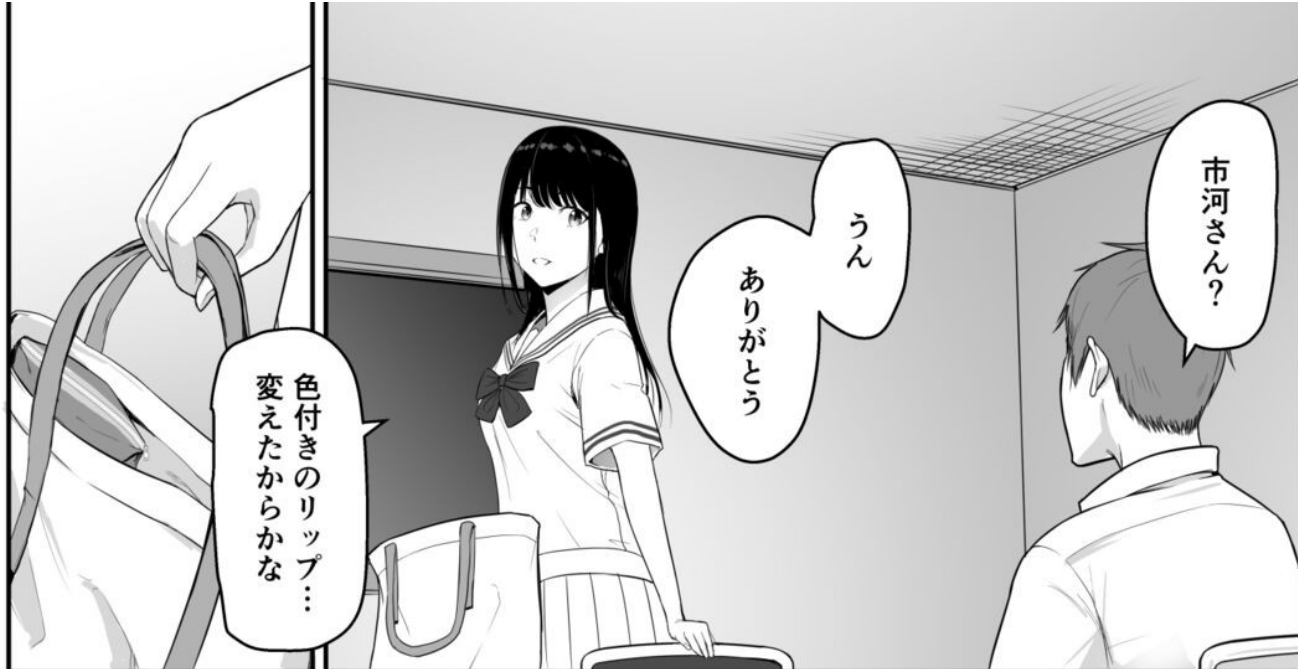
ちよつと
前から雰囲気
変わったよね

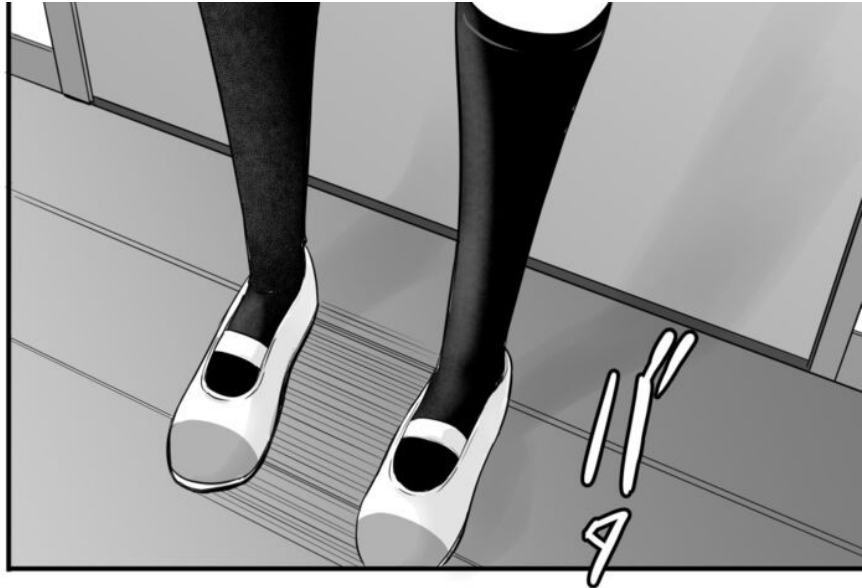
…
そういえば
市河さん…

ピクッ

・遊園地
・図書館
・水族館









ここで失敗はできない

下着は！

よし！

陽太くんの
急な呼び出しでも
いつでも対応可能

香奈は香奈の
できること全力で

他の女に勝つ！

H

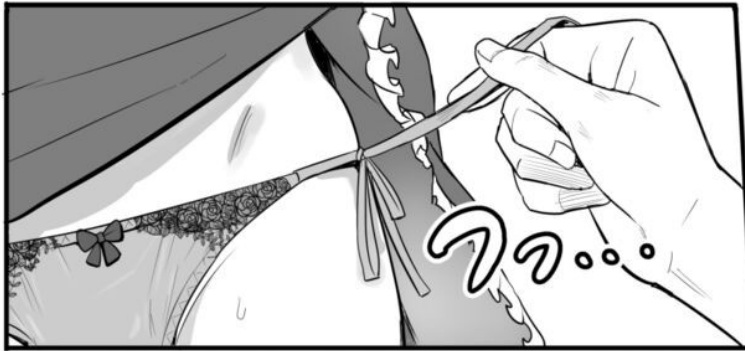
帰れって
言ってるんだろ!!

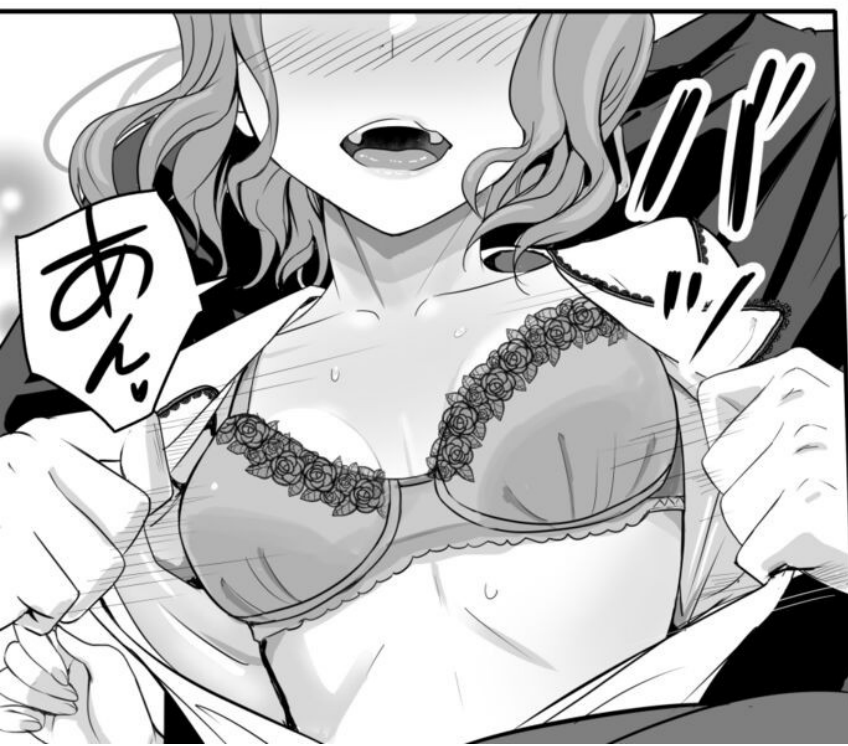
32

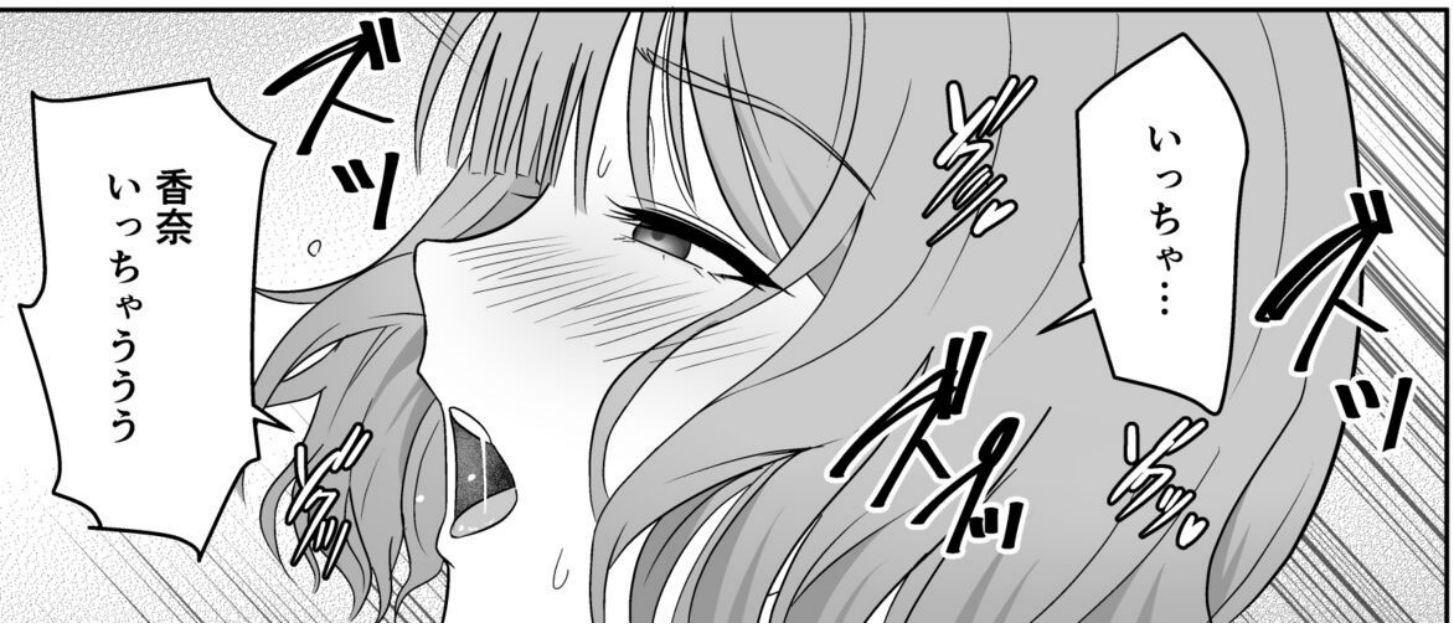




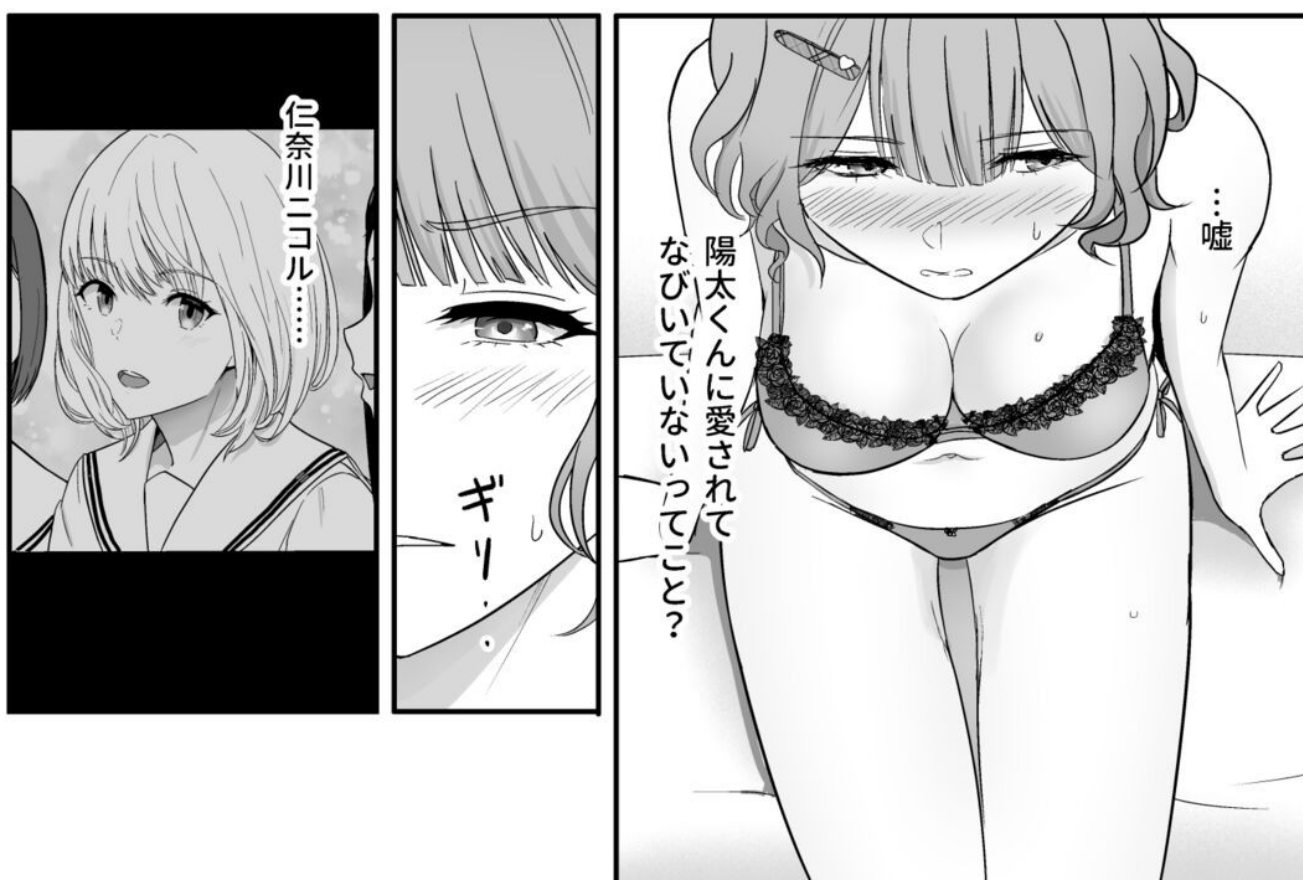
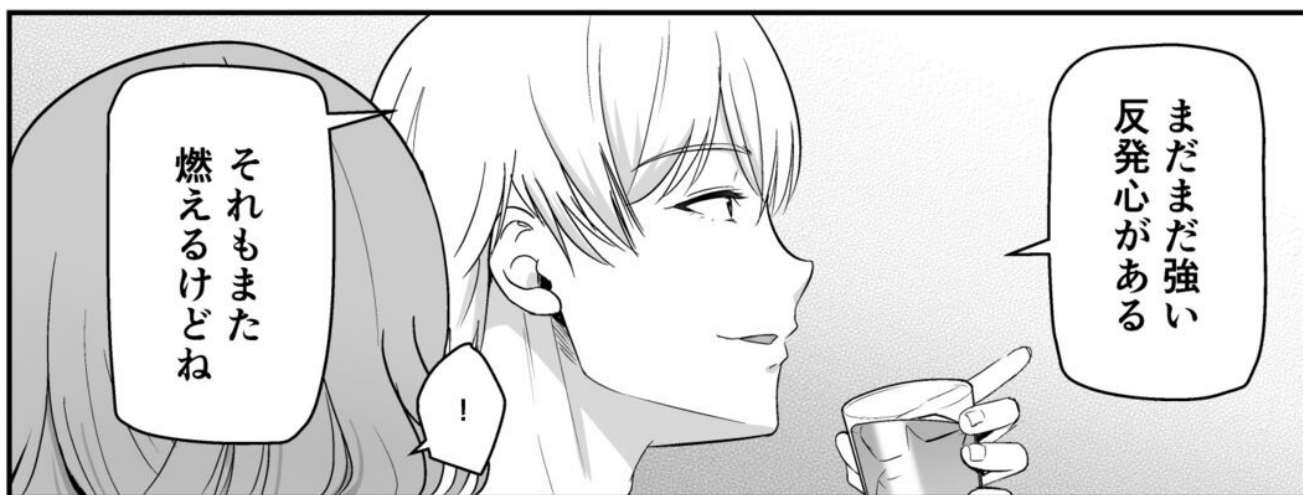
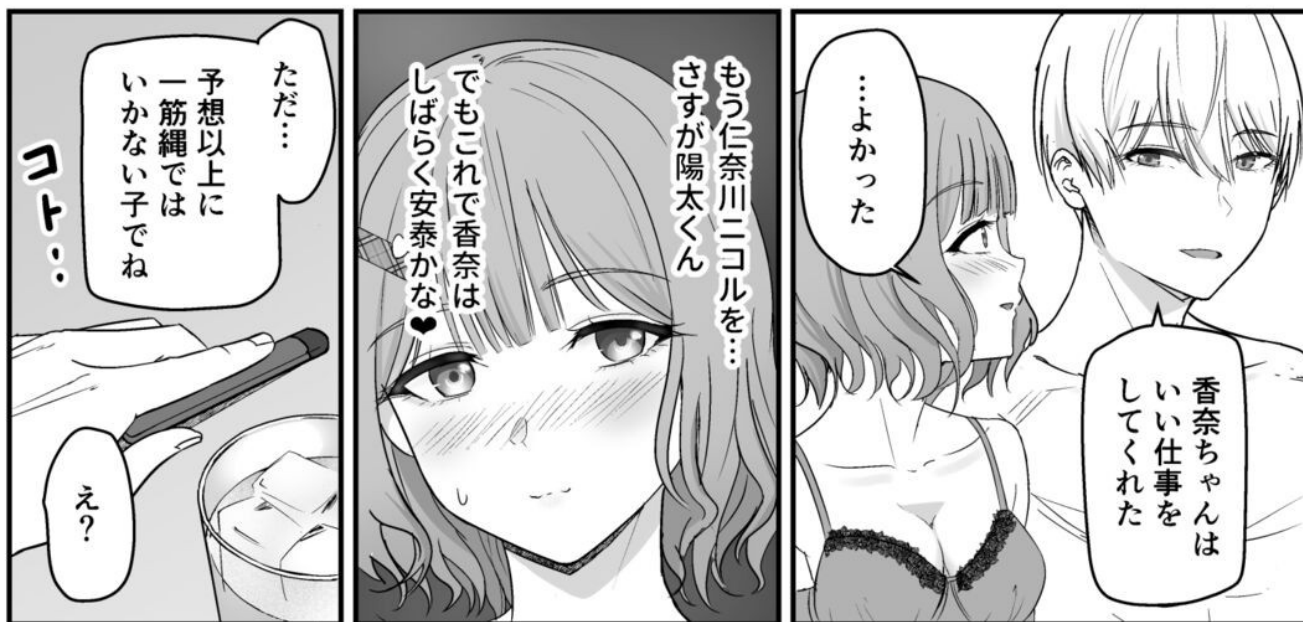


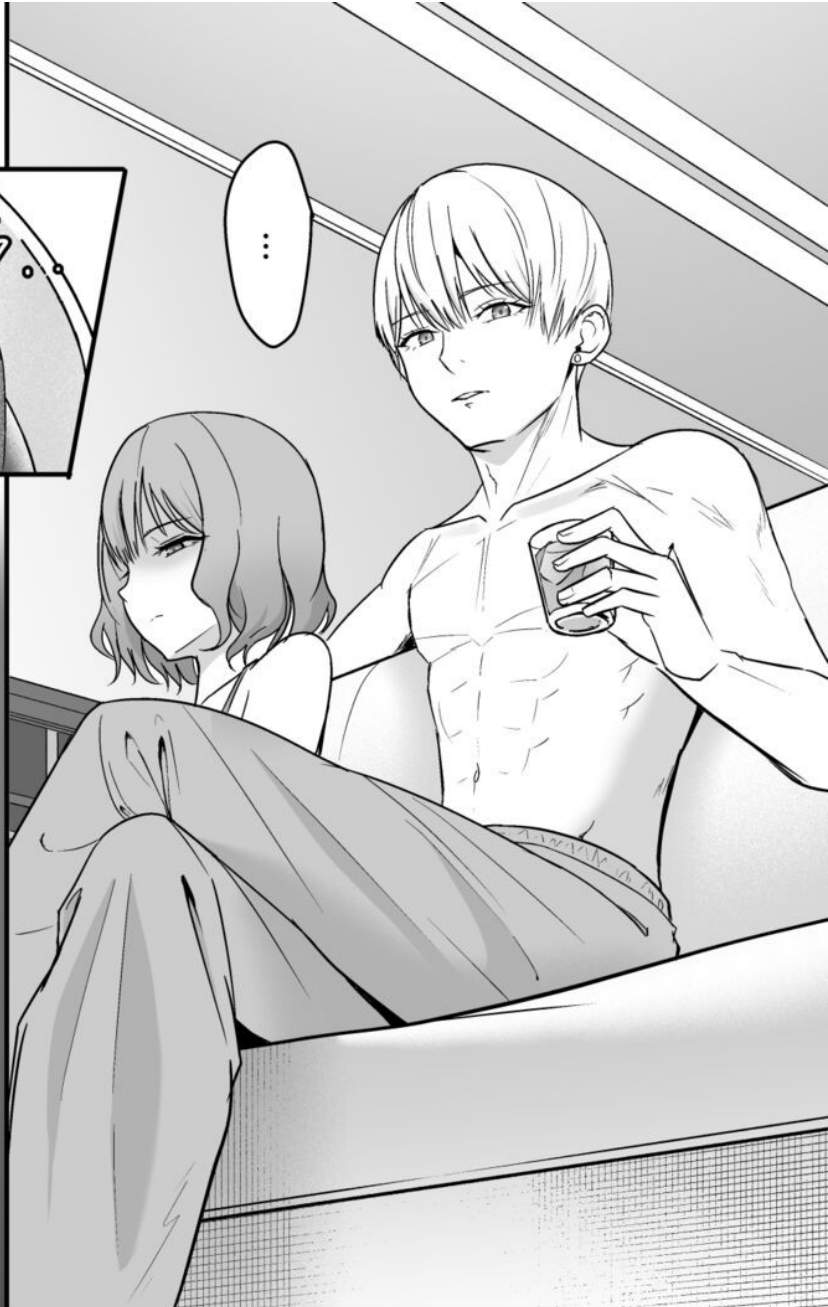
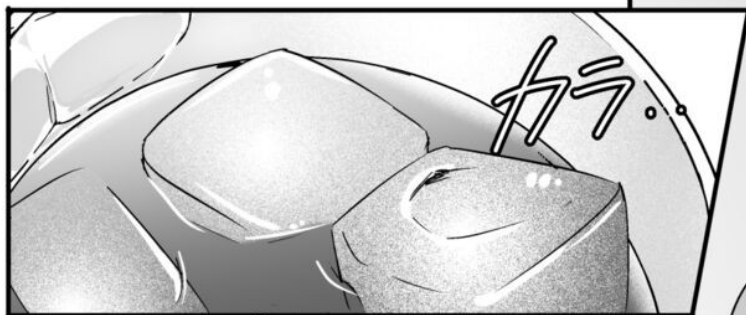


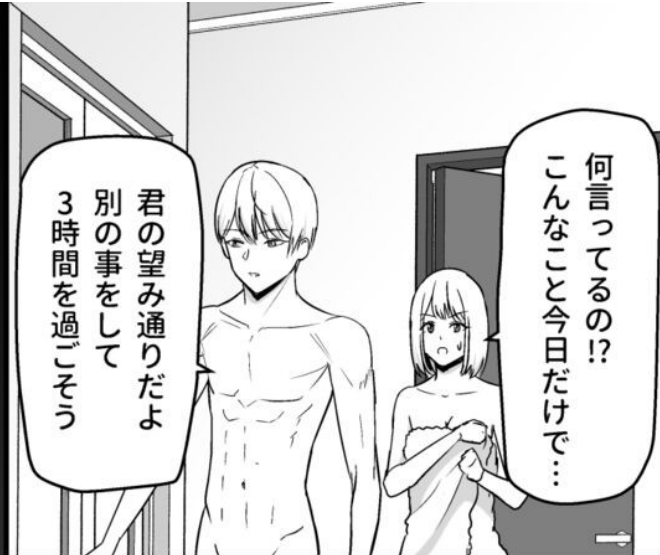












君の望み通りだよ
別の事をして
3時間を過ごそう

何言ってるの!?
こんなこと今日だけで…



シャワー
浴びてくる

残り3時間は
別日にする

っ!?



それとも…
本当はこのまま俺に
抱かれて過ごしたい
のかな?

えっ



このままで
すすすつもりはない



カラ..



ますます
興味が出た…

あんな啖呵を
切った女は
初めてだ



精神的に
揺さぶって
必ずその鎧を
はいでやる

あれくらい
堅固な方が
堕としがいが
あるというもの

仁奈川ニコル：

陽太くんをここまで
執着させるなんて…

ブルッ

そんなに特別なの…？

待つて

ひっ

これじゃ
香奈が負けを
認めてるみたい

まずは敵を
よく知らないと…

ギシッ

陽太くん

ん？

どんな感じ
だったの？

ニコル
ちゃん…

画像見る？

ゴッ

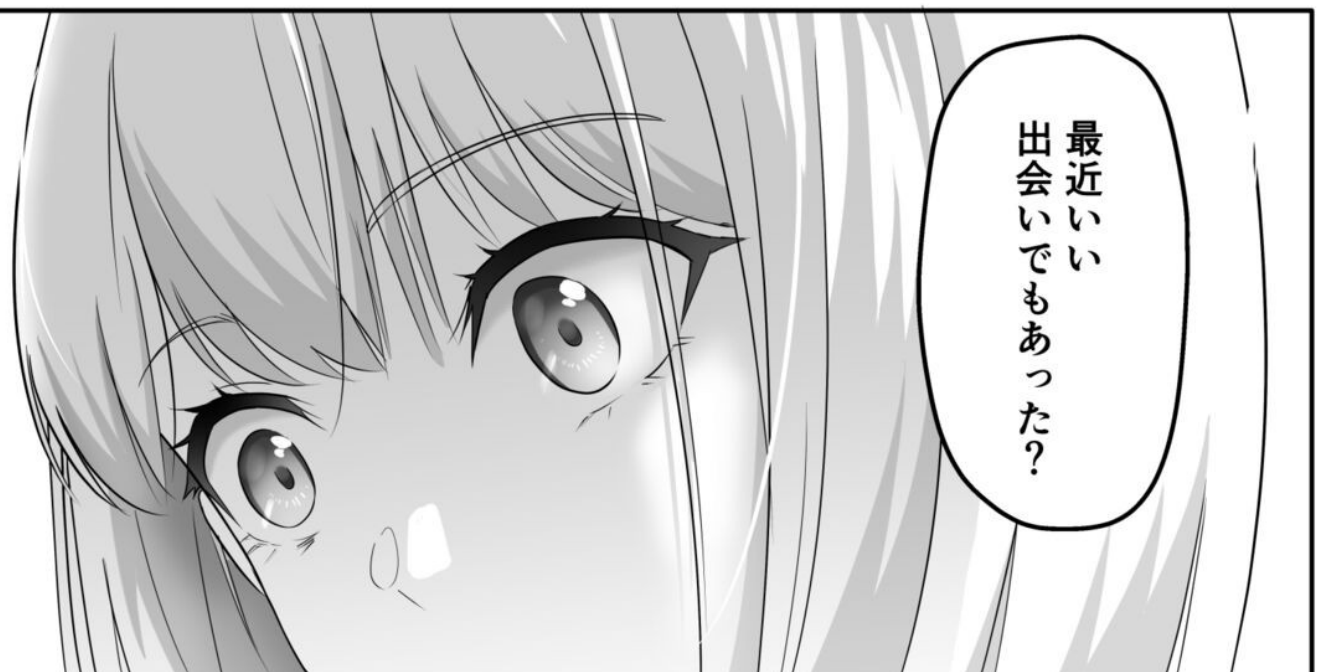
いいの？

見たい

アッ

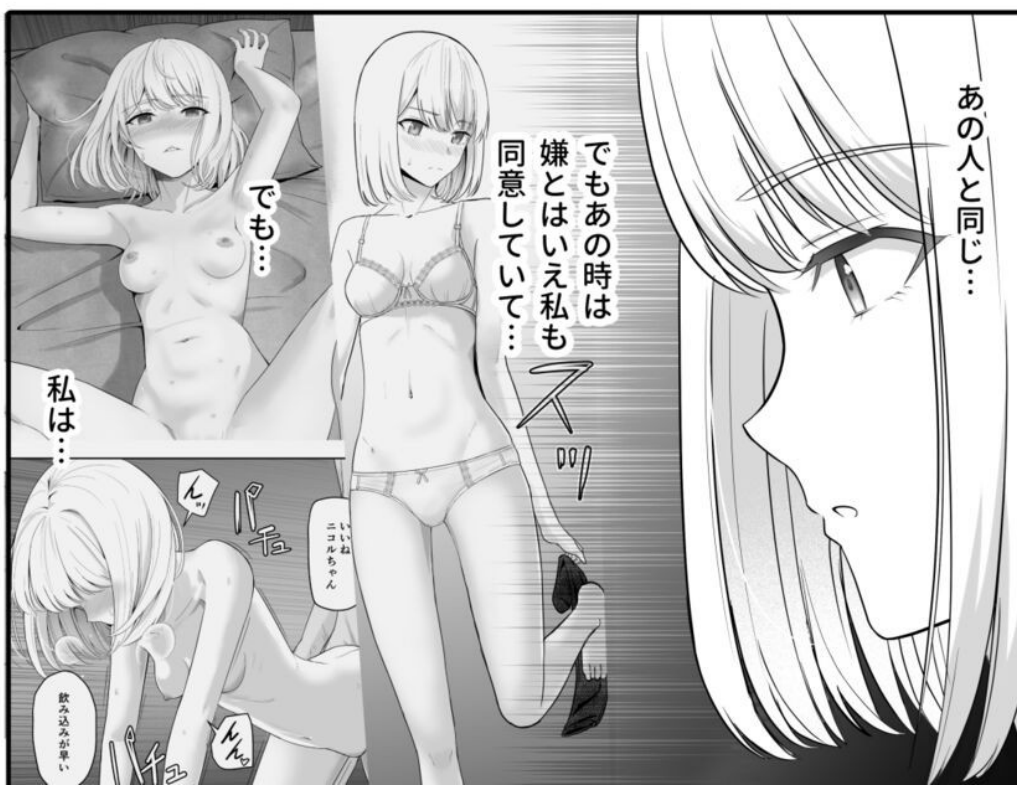
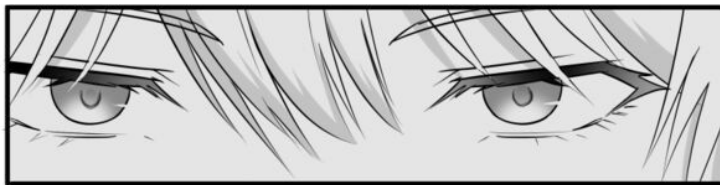


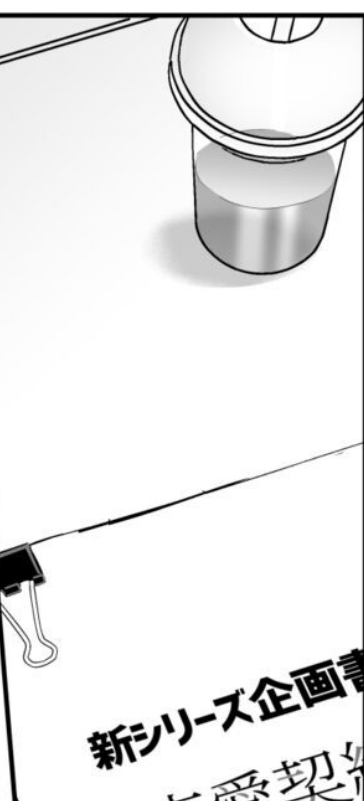
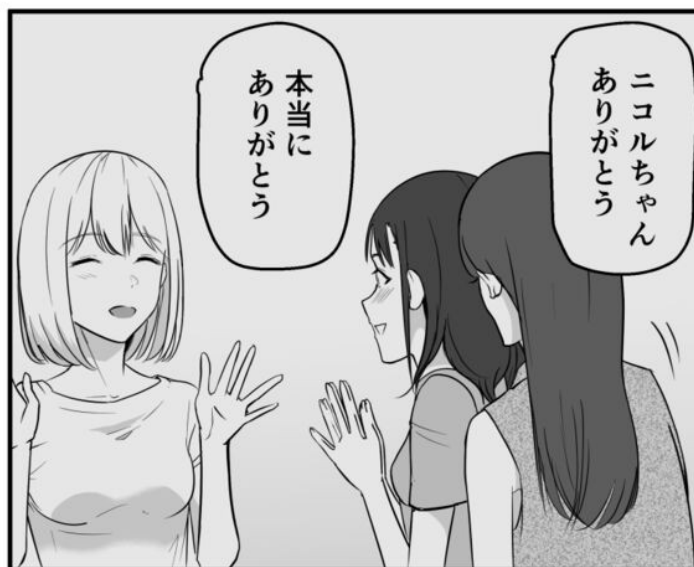
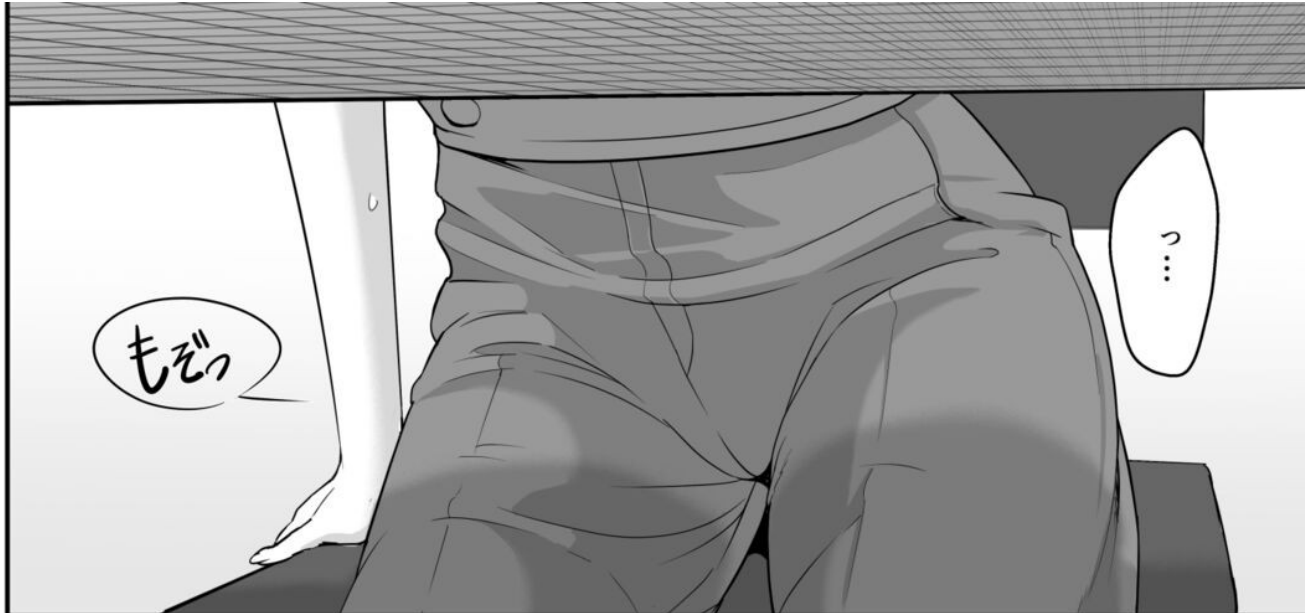












君がため。

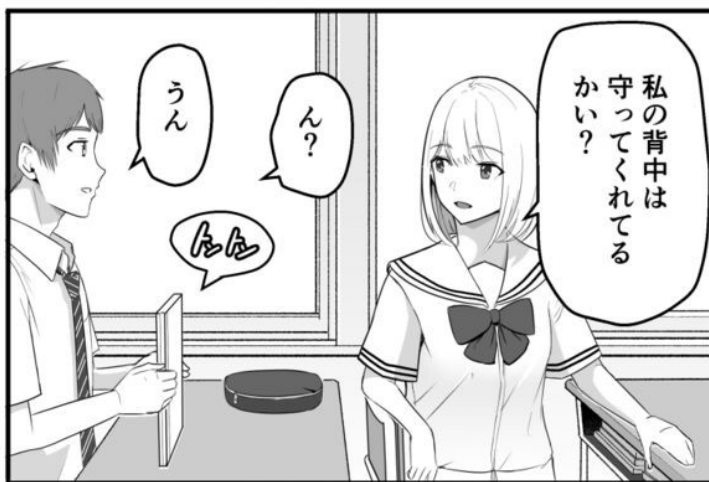
CHAPTER 9



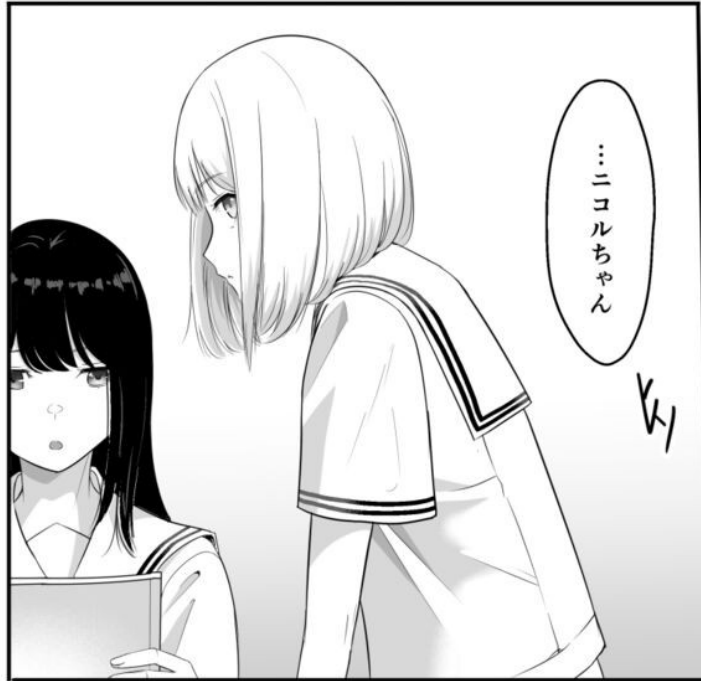
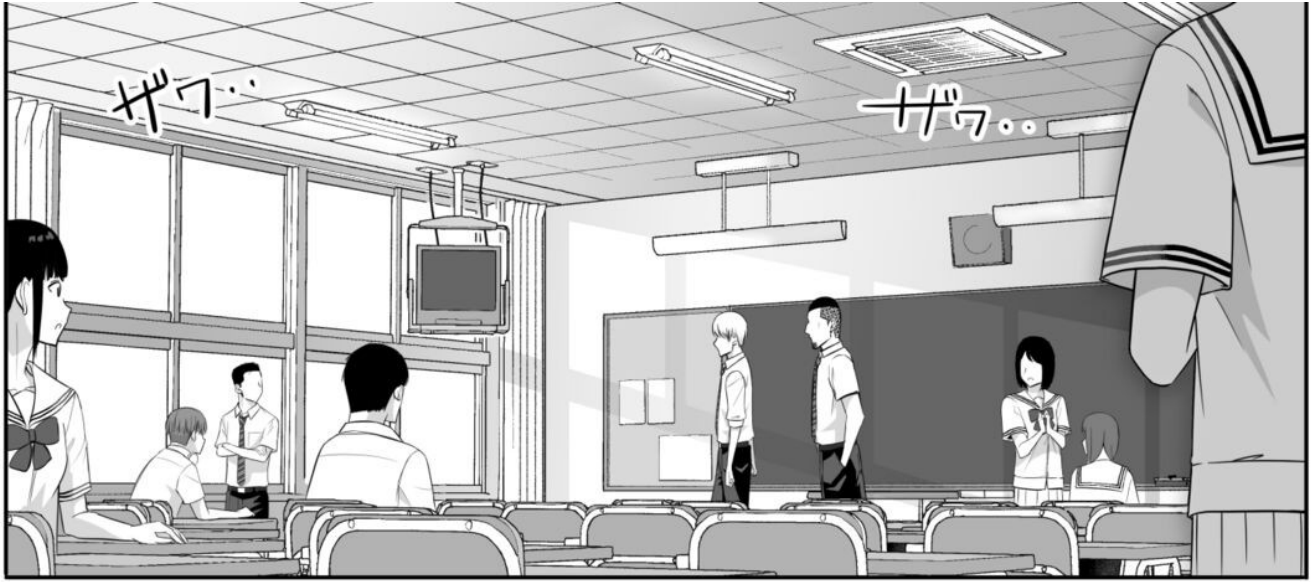








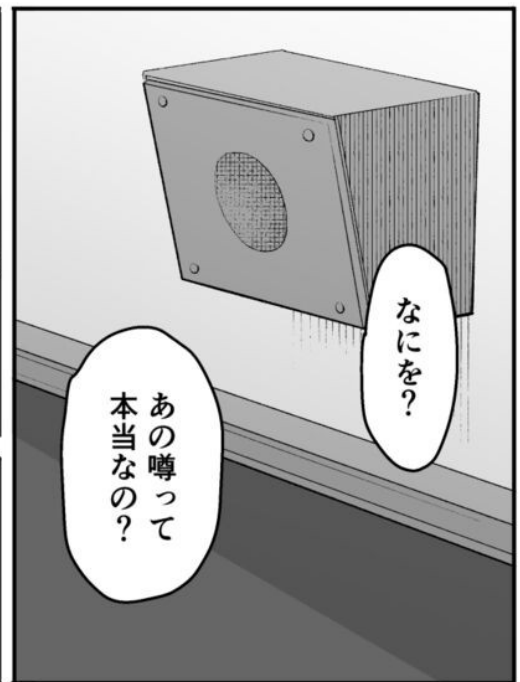






何...?

なんか変な空気...



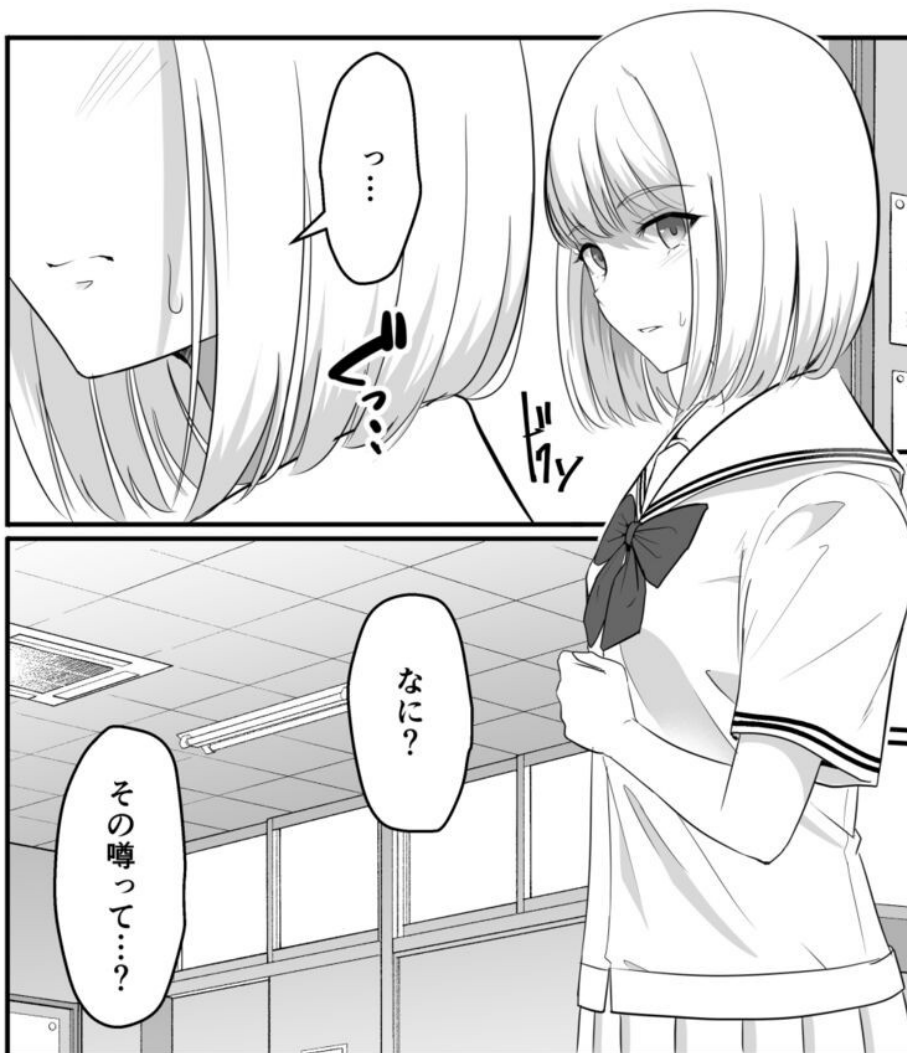
なにを?

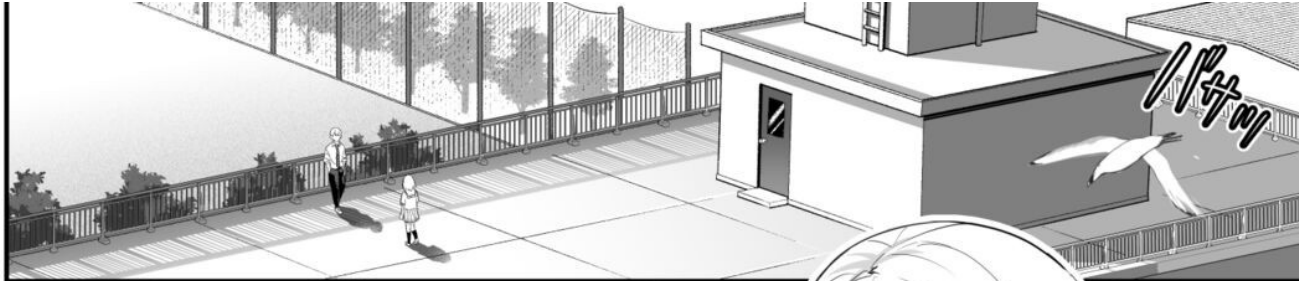
あの噂って
本当なの?



聞いたら
ダメだよ

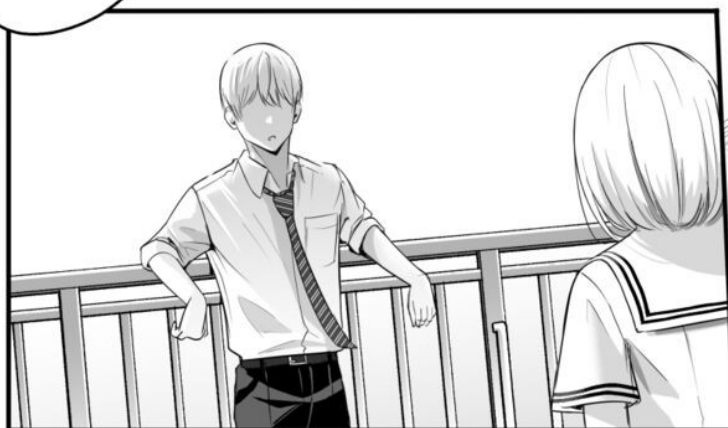
ニコルちゃんは
有名人だし





どうして私が

キミと付き合ってる
ことになってるの!?



...



それが
必要な策だった
からだよ

なにが…
何を言ってる…?

どこから
説明したらいいかな…

まず…

俺をめぐるって大勢の
女子が争ってる

それを収めるってのが
条件の一つだった
よね…?

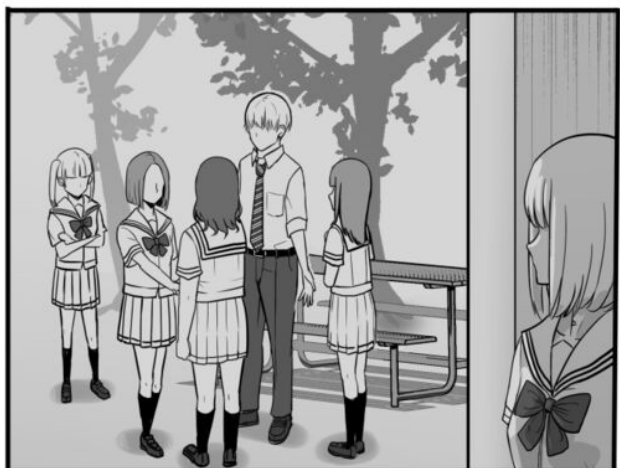
…そう

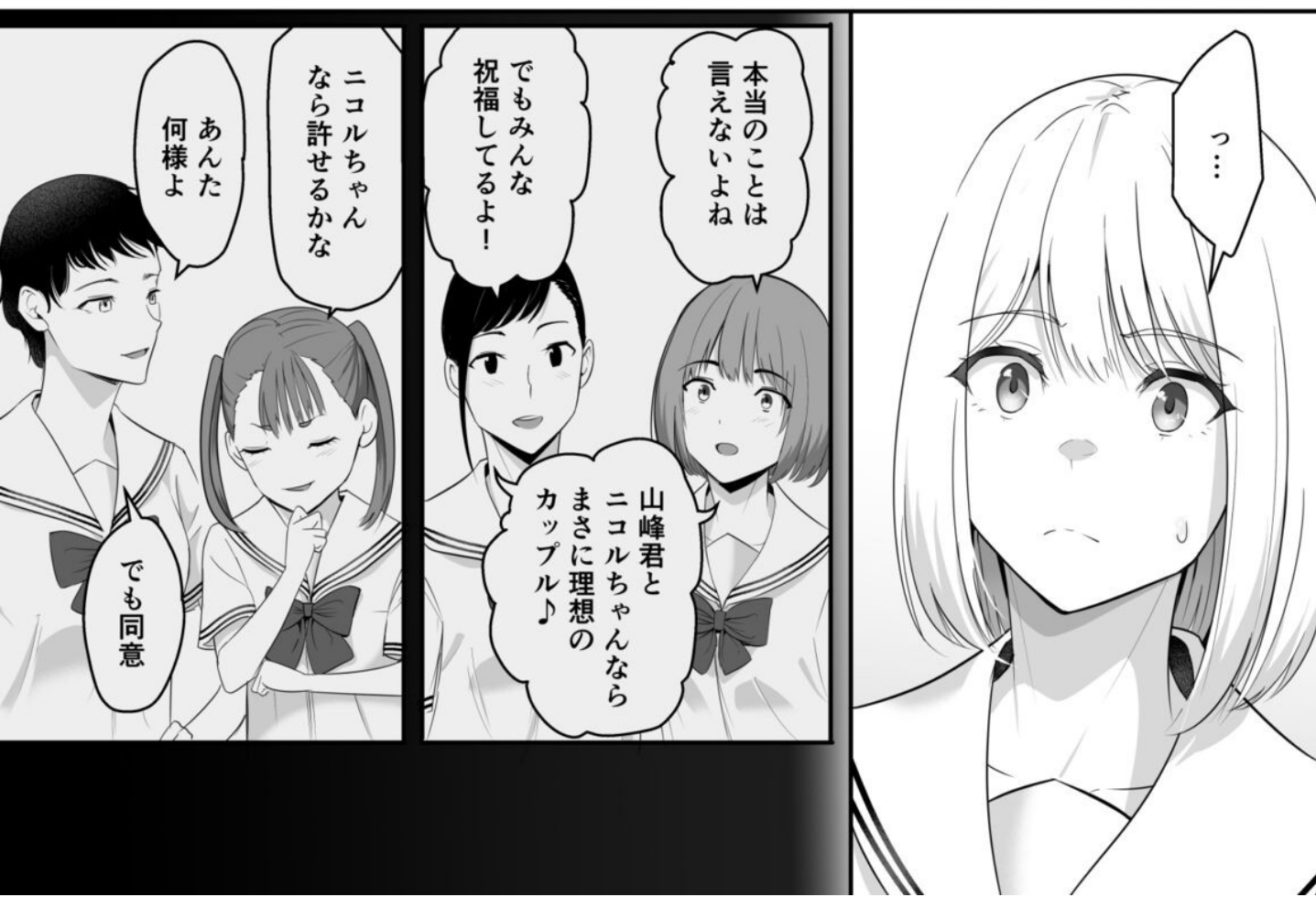
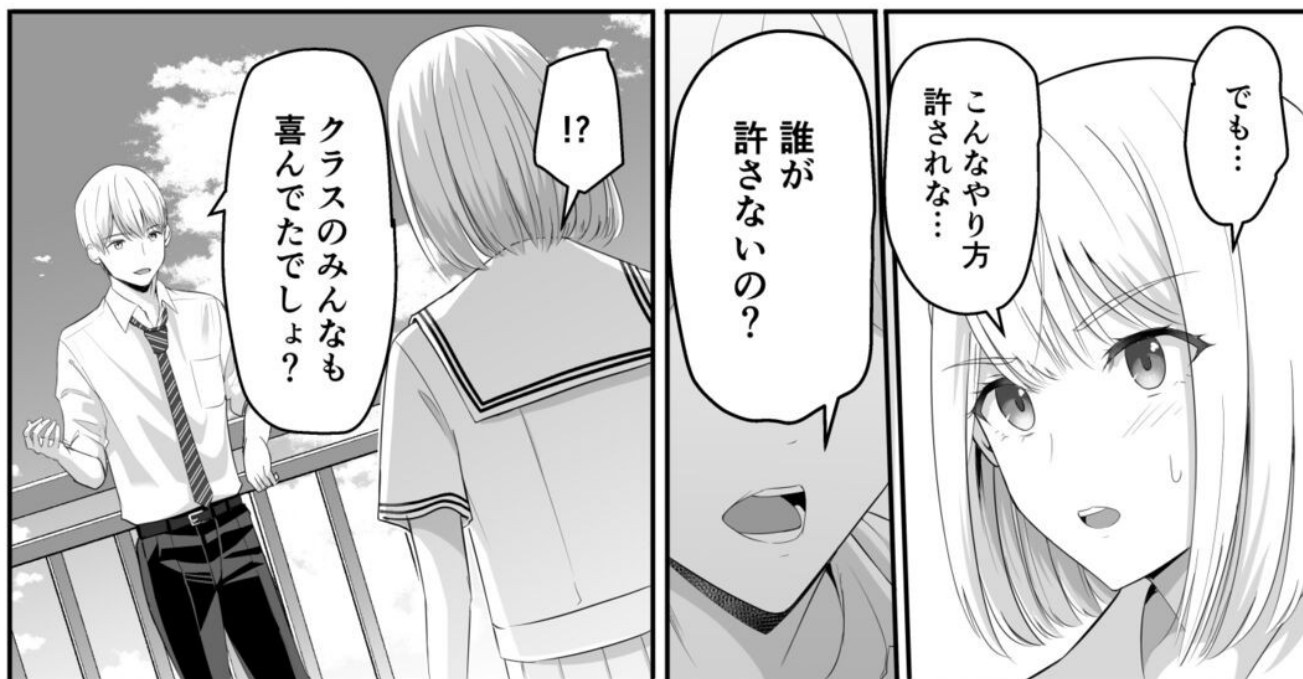
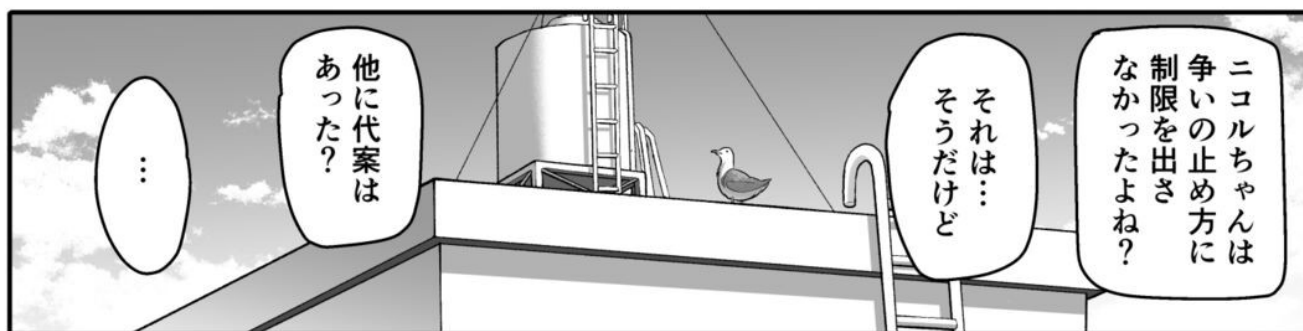
それが?

そもそも
ファンクラブにしろ
なんでそんな抗争が
起こってたんだと思う?

それは
だって…









確かに――

私さえ何も言わずに
噂を飲み込めば

全てがうまくいくようには
なっている



でも放置するってことは
この人と付き合ってるって
既成事実化していくかもしれない

でも私のはっきりと否定したら
また争いが起こるかも…



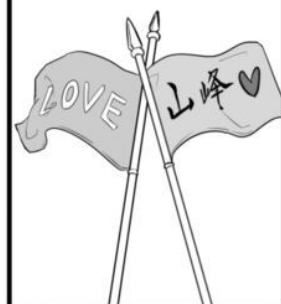
そうだったら
また元の状態

この人もフリーに戻って
やりたい放題に女遊びを
するようになるだろう



こんな都合よく…？

最初からファンクラブの
抗争を利用する
つもりだった…？



でもこの条件は
私から自分で提案…

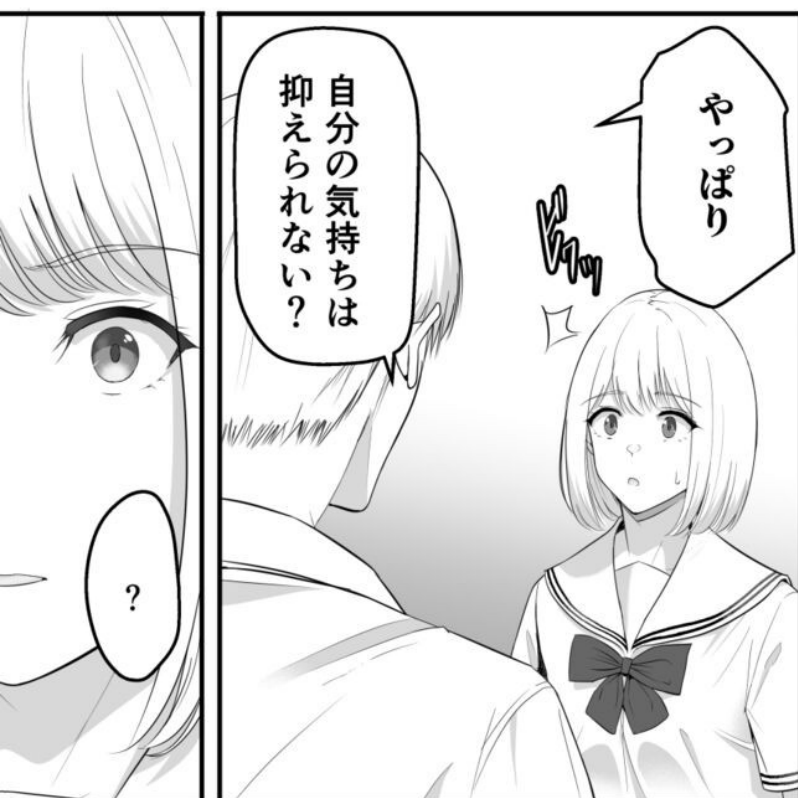


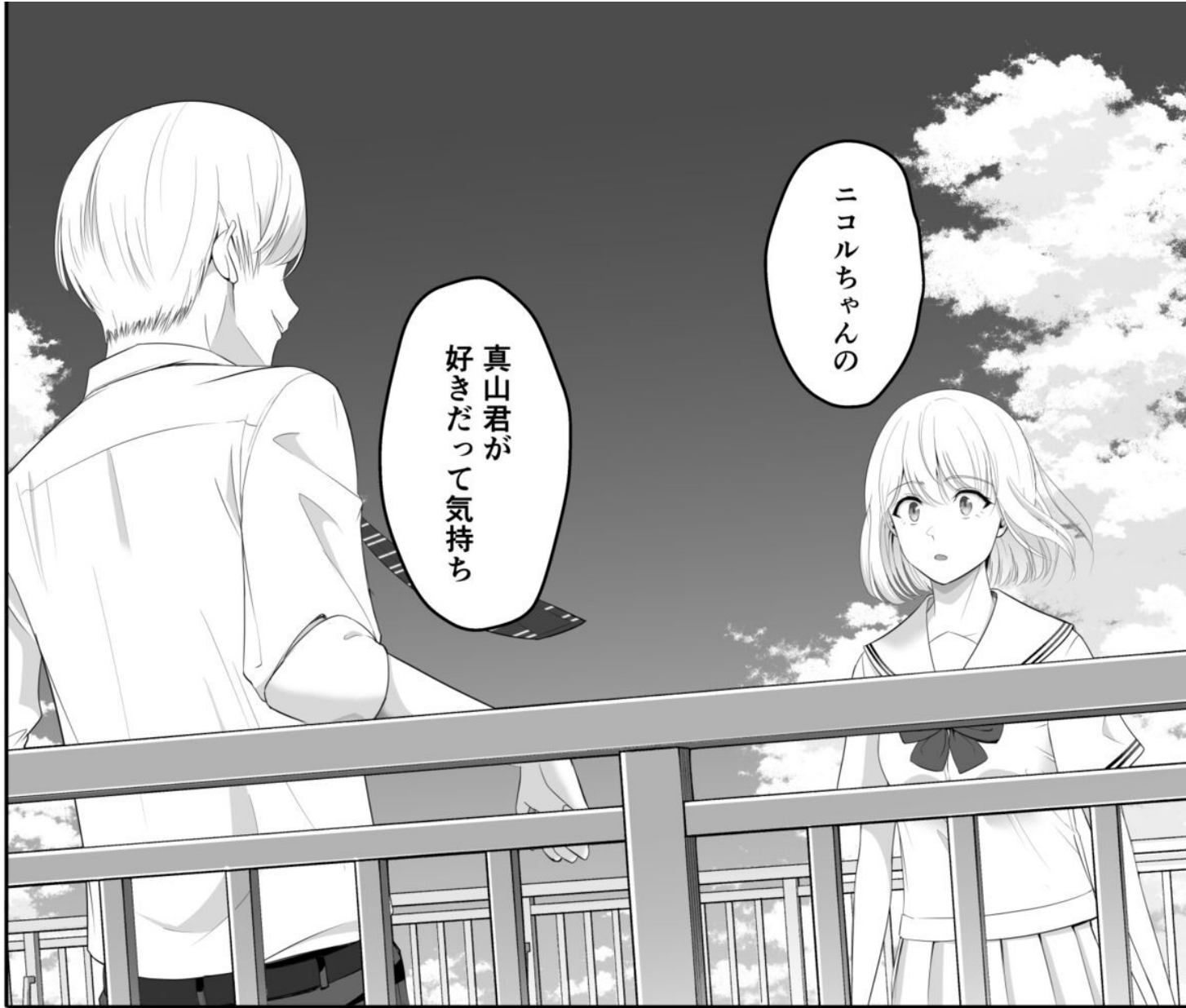
そうだ
相談があつて…



やっぱり

自分の気持ちは
抑えられない？





ニコルちゃんの

真山君が
好きだって気持ち

は？

な…何を
言ってるの？

…

!?

見てれば
わかるよ？

俺
その辺の勘は
いいんだよね





人は見かけに
よらないっていうか
まさか市河さんと
付き合ってるのに…



ニコルちゃんって
クールに見えてけっこう
わかりやすいよね

ははっ



あの日の感触で
そうかなと思って
鎌^{かま}かけてみたけど…

キスは初めて？

にしても
真山君やるなあ

違うけど？



…



最低な…

仁奈川さんに
まで手を出す
なんて…



違う!!





真山君は
悪くない

私が…

私から一方的に…

……驚いた

それって

まさか
不意打ちでとか？

そりや真山君も
驚いただろうね

ただニコルちゃんが
そんなことするなんて
正直信じられないよ
だって

相手は
仲のいい友達の
彼氏だよな？



節操なく男子に
手を出すような
子だったのかな

ニコルちゃんって
派手な見た目通り



黙って



っ！



…っ

なんでこの人に
フオローされて…



ニコルちゃんは
人のために
動ける人間だ

身を削ることもするし
義理堅い——



気を
悪くしたなら
謝るよ

ちょっと
冗談が過ぎた

約束を反故^{ほご}には
できない子だろう

すす..

1/9=1/7

続きがしたいのなら
好きにすれば？

それで終わり

それで何？

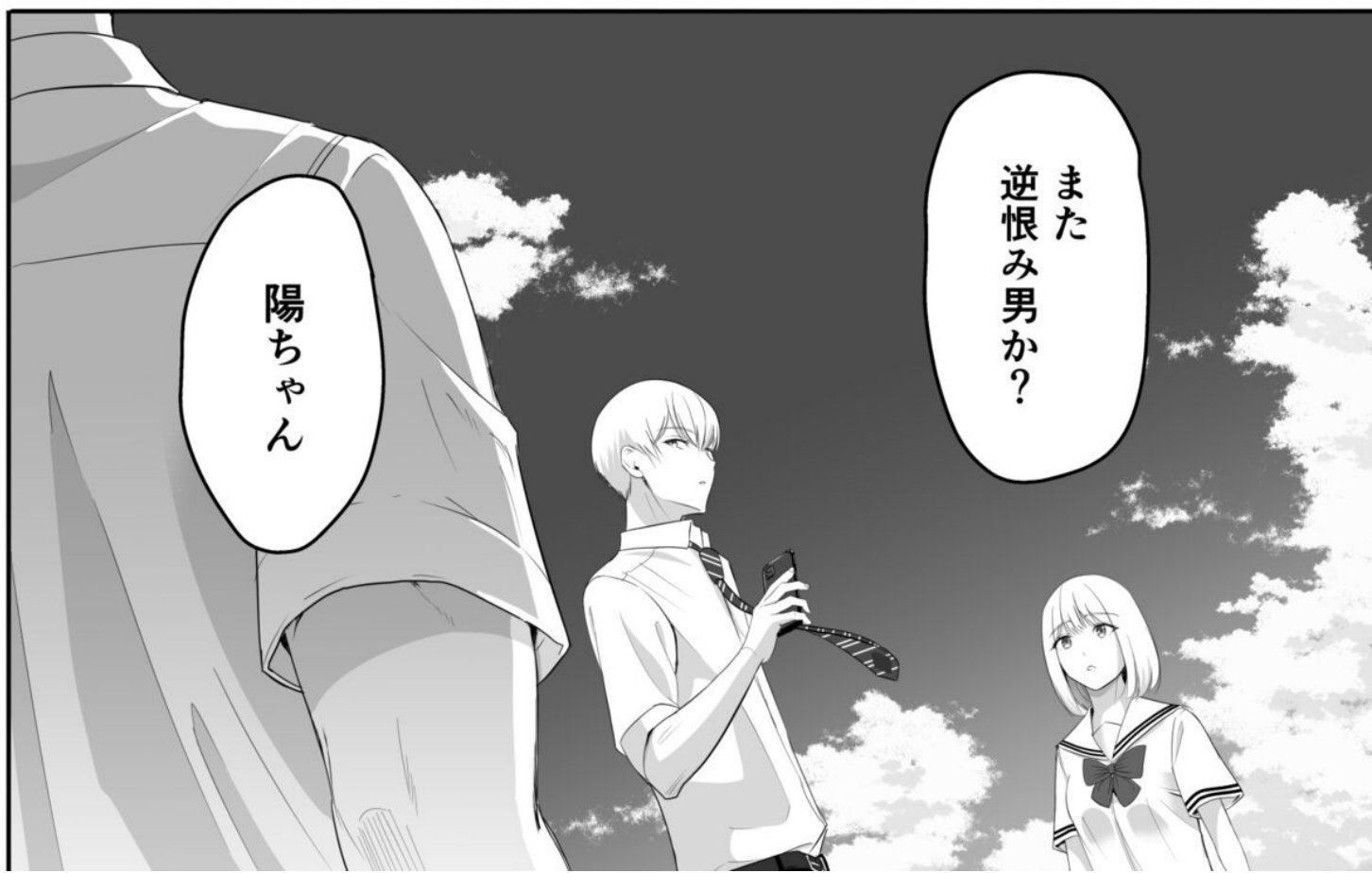
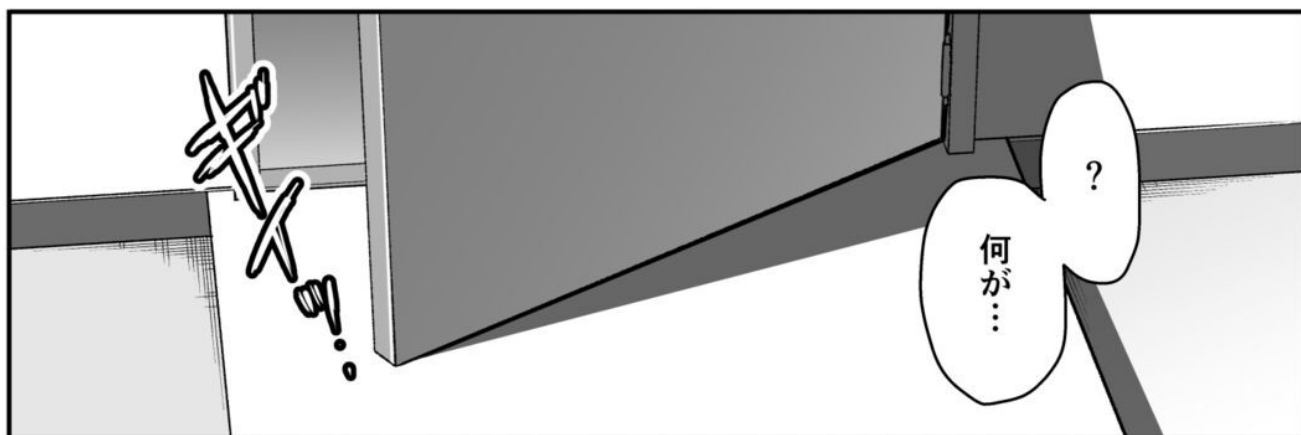
私に言うこと
聞かせようって..

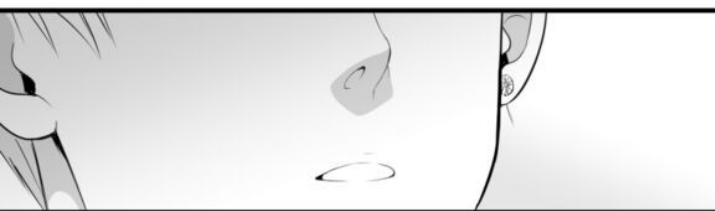
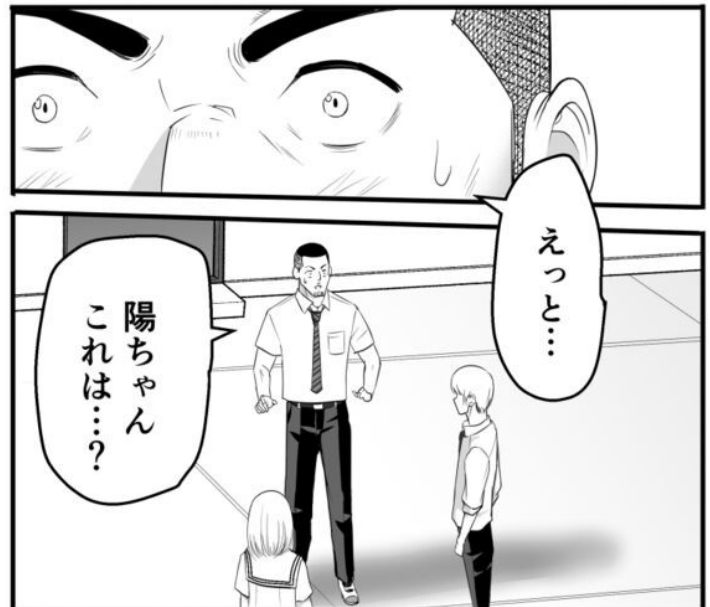
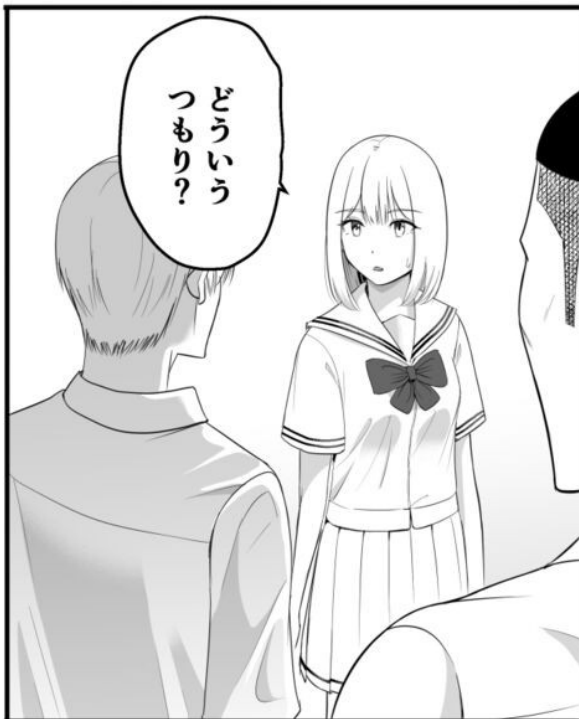
結局それでしょ？

キミとの噂は
噂にとどめる
だけ

思い通りには
ならないよ

この女は..

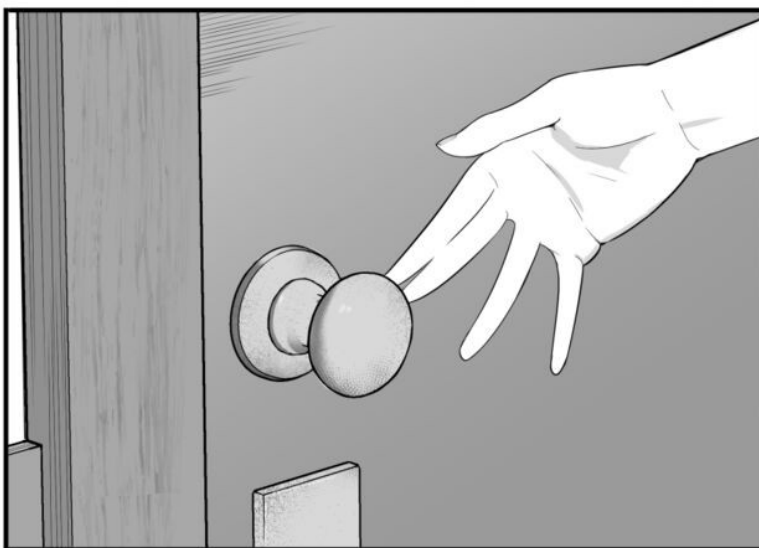


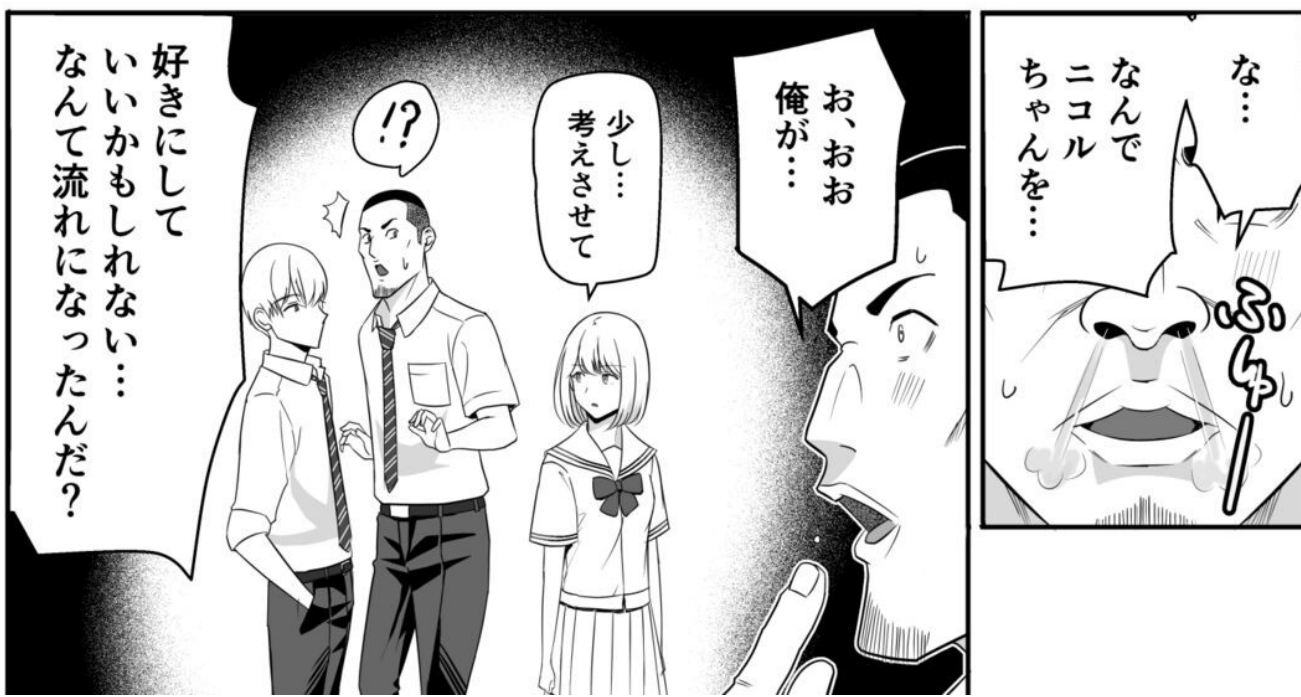
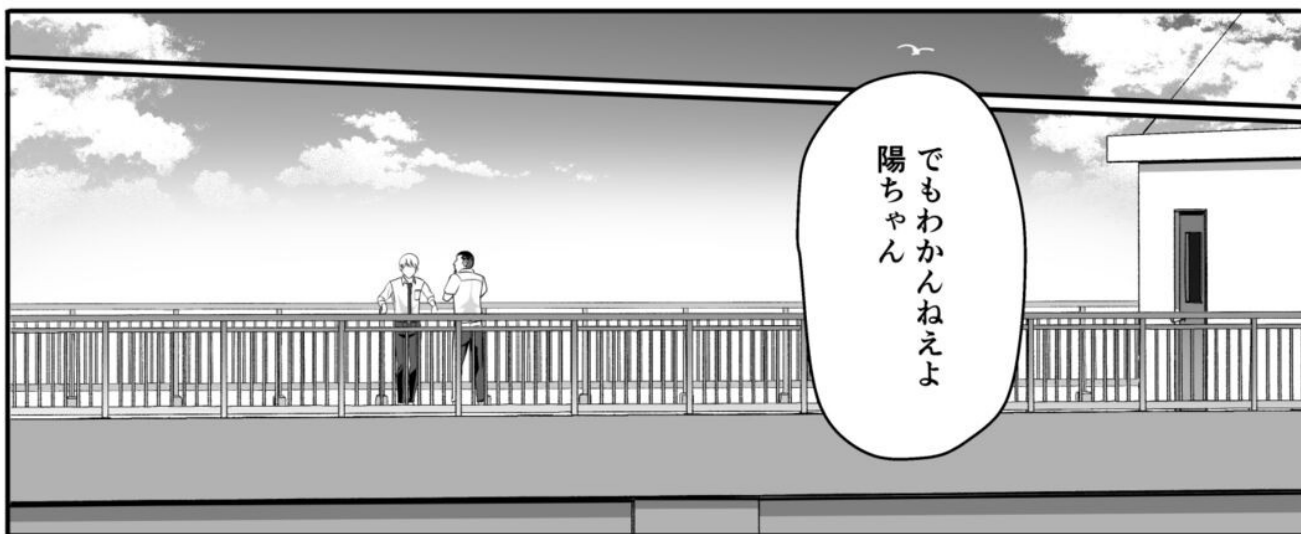
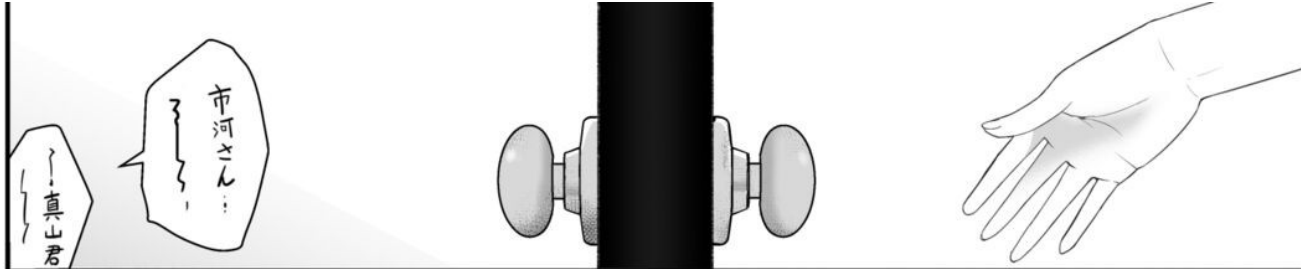




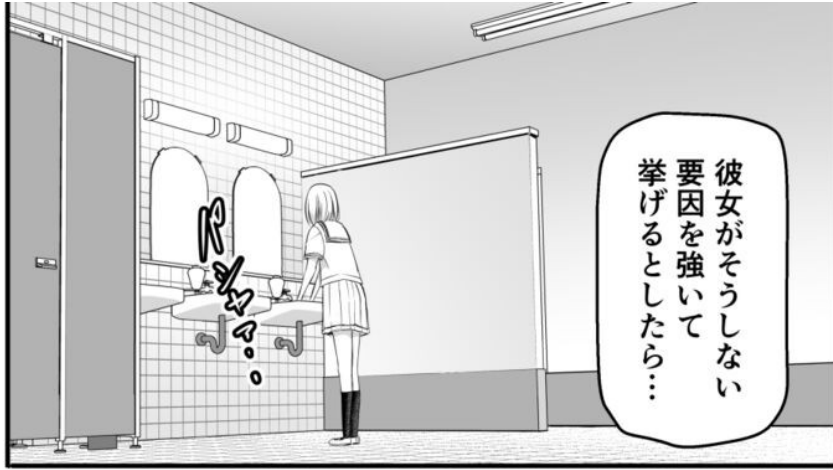
君がため。

CHAPTER 10

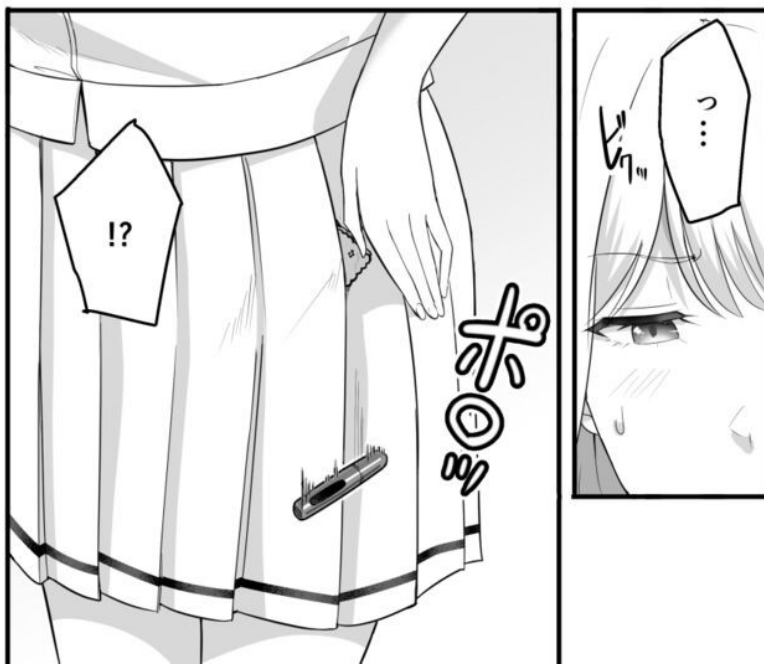


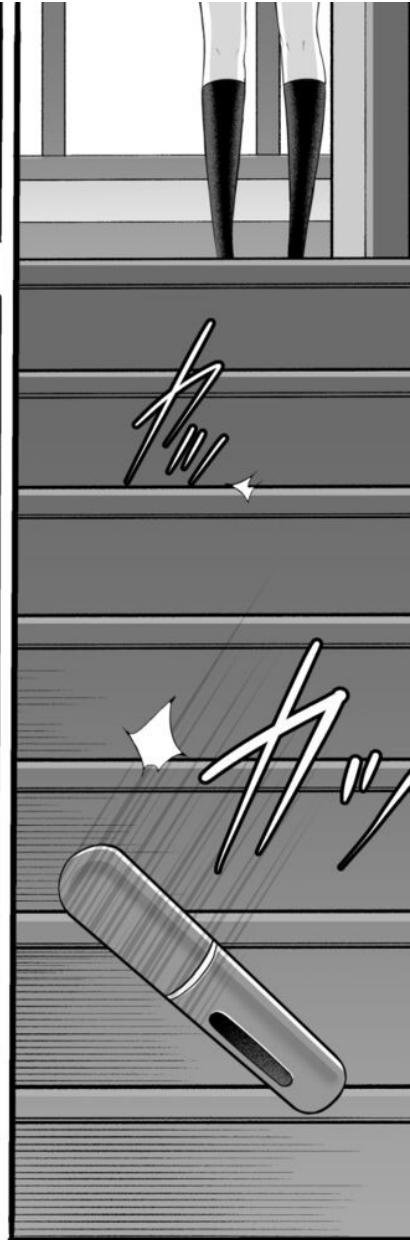
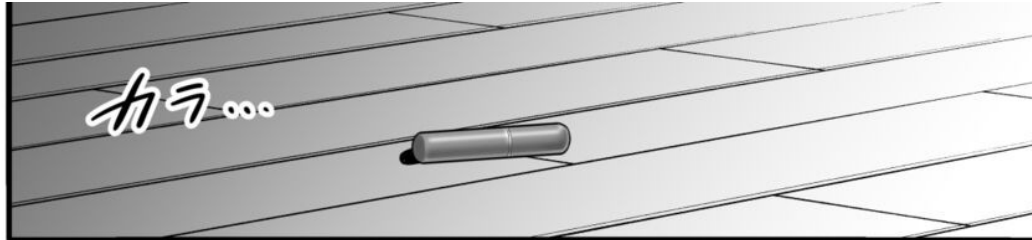




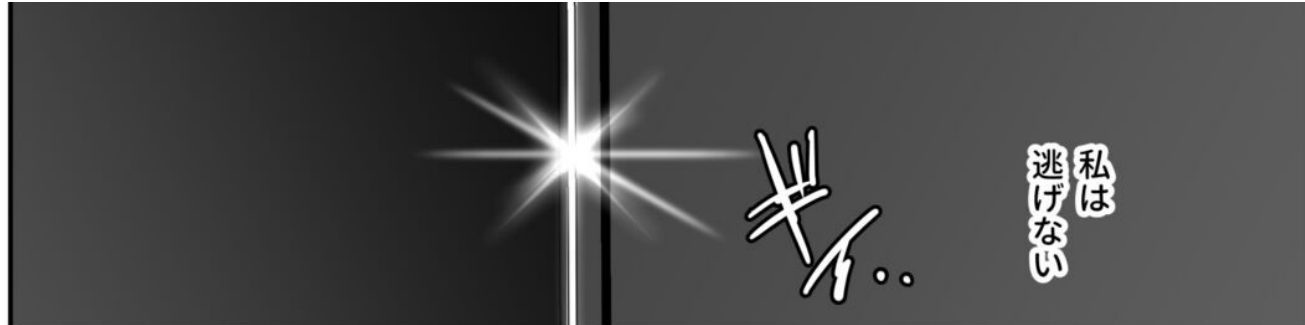


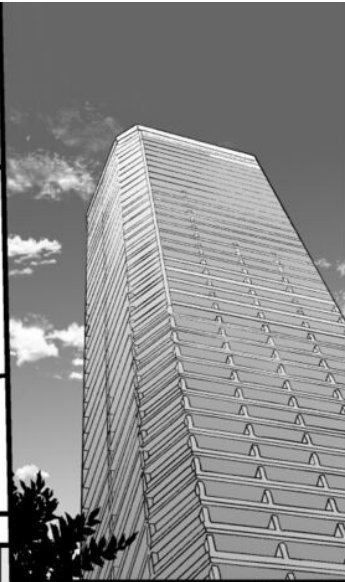
こんな条件
無視したって
誰も咎めやしない
『3時間残ってる』
なんて話だって
バツクしたって
いいレベルだ















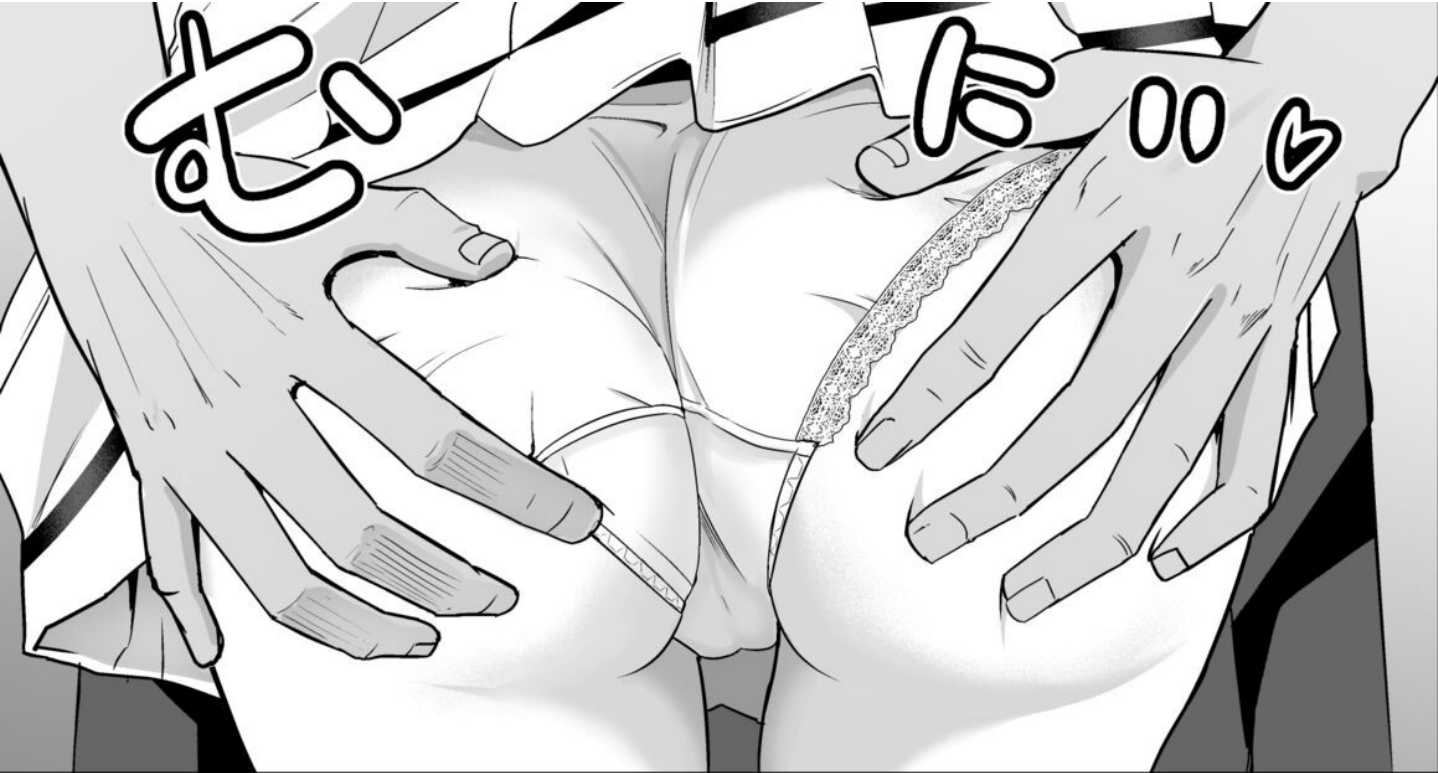


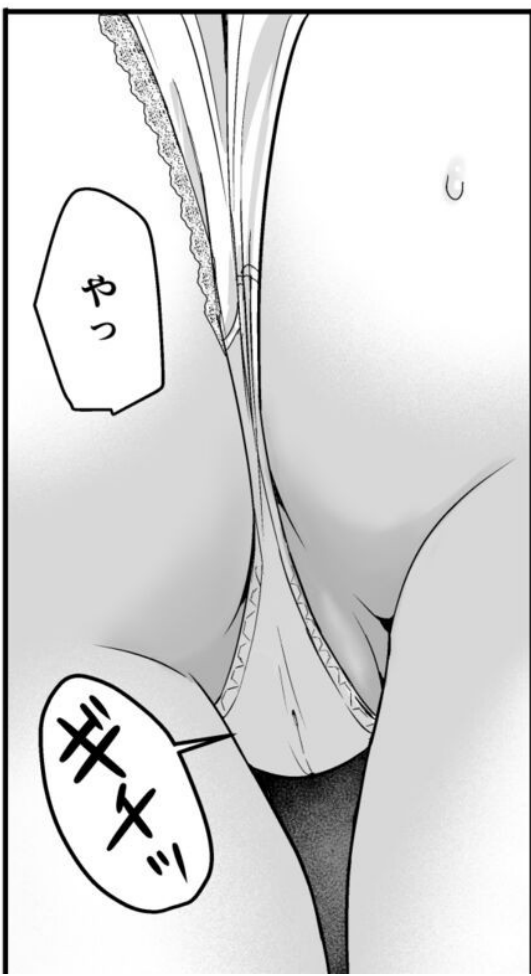


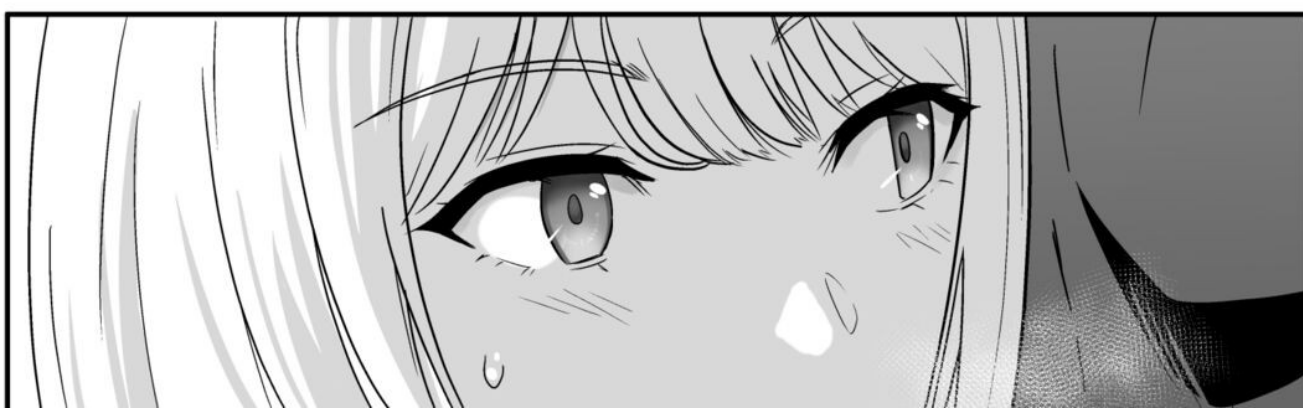
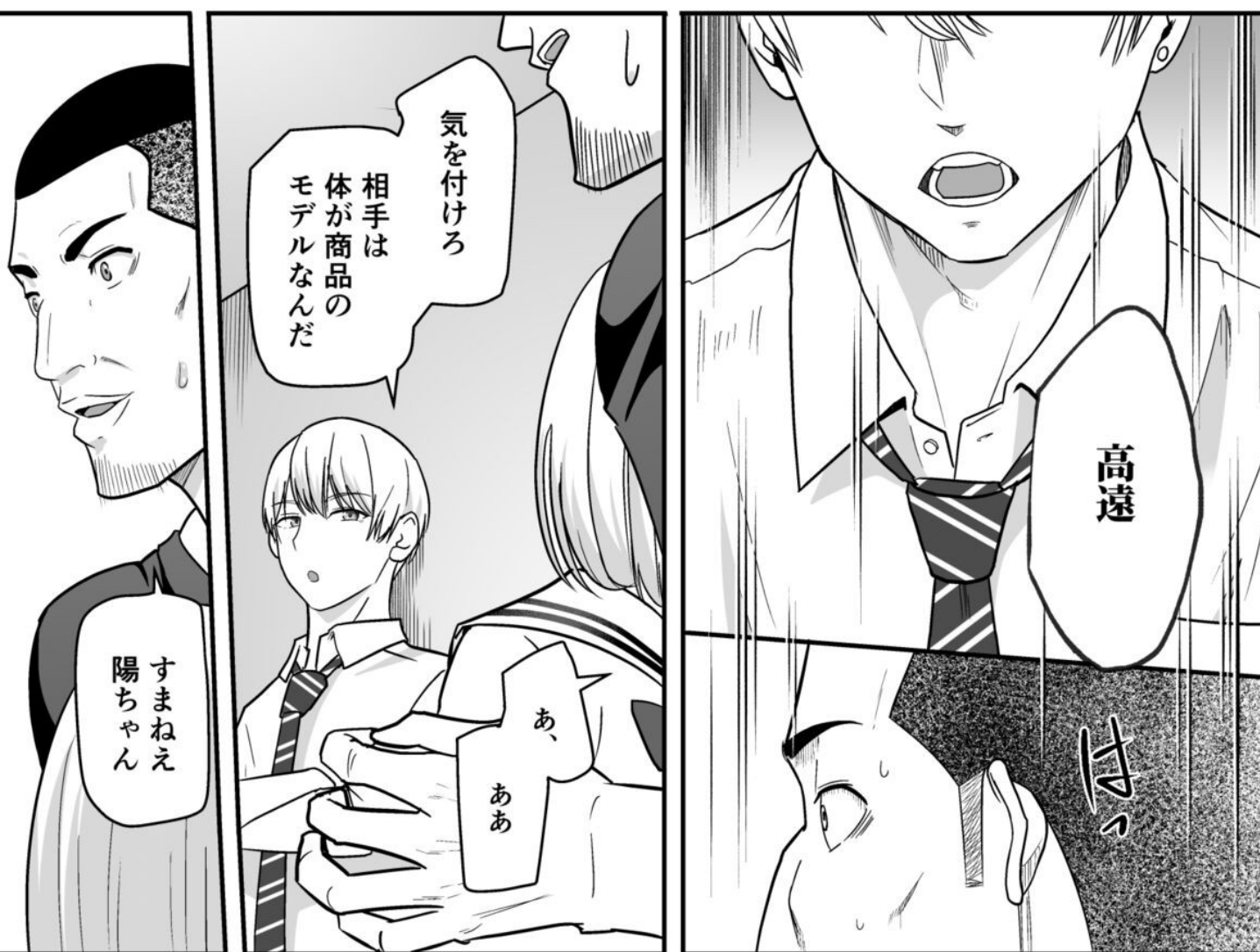


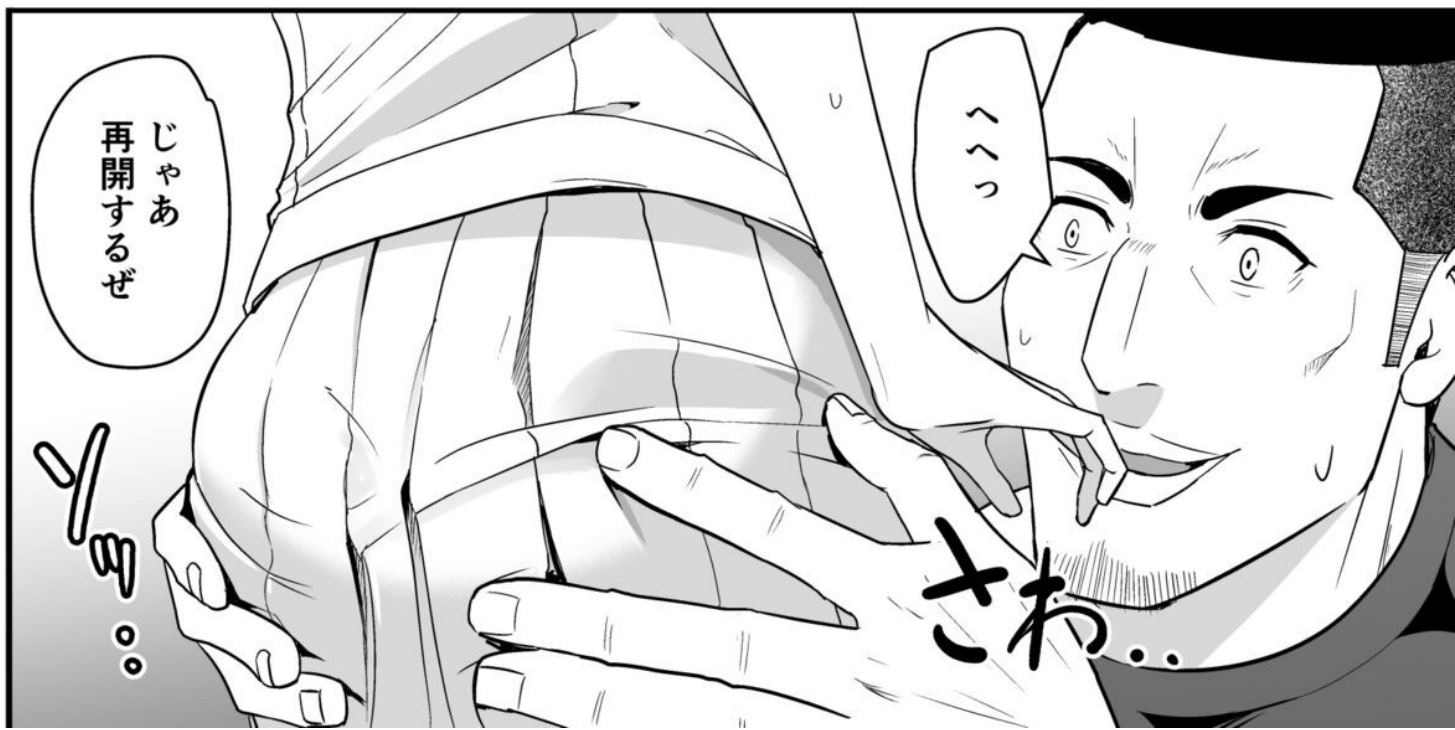


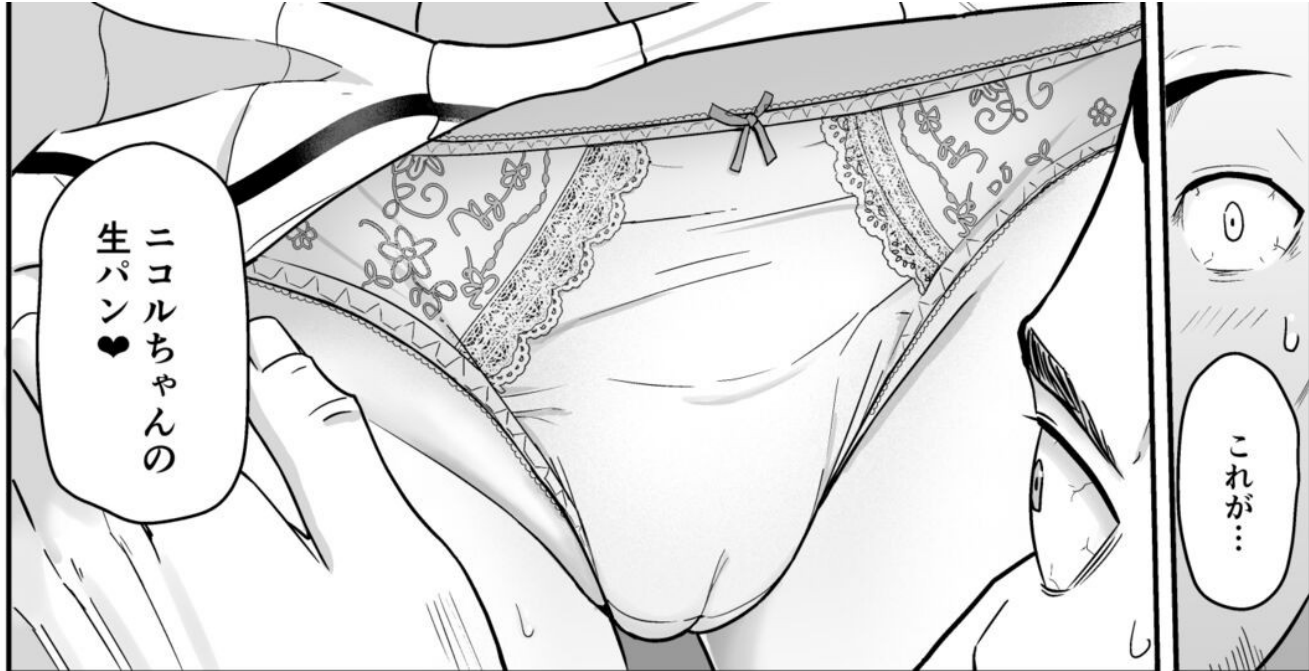




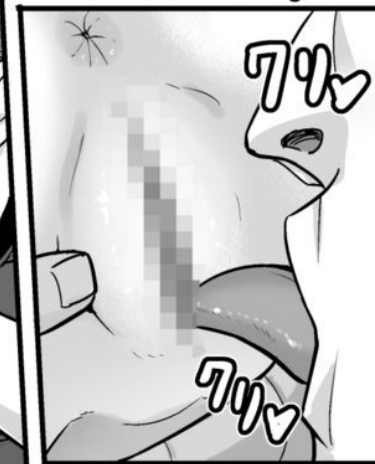


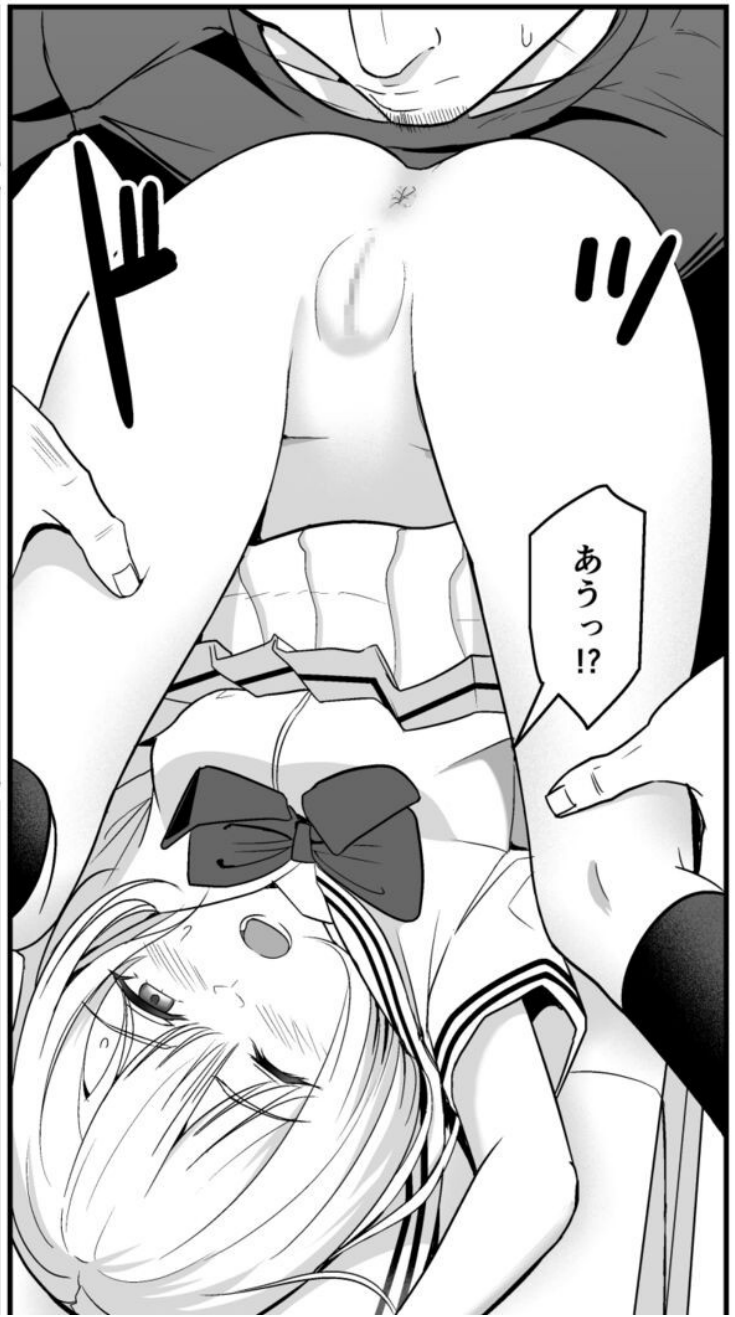
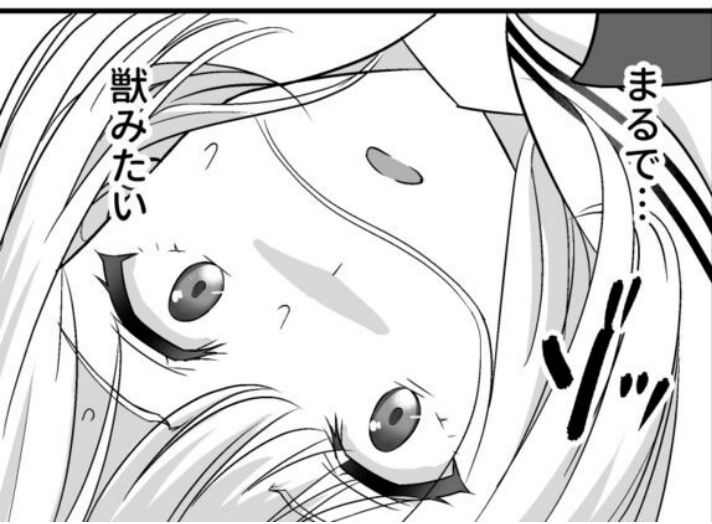
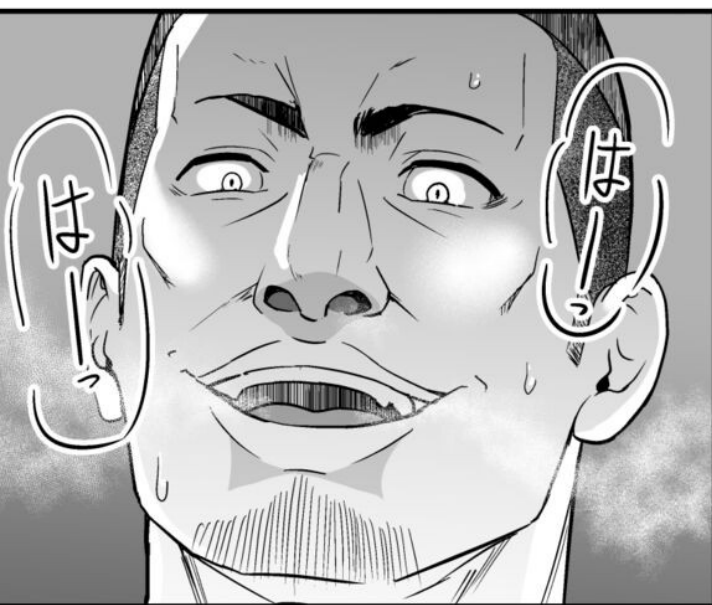
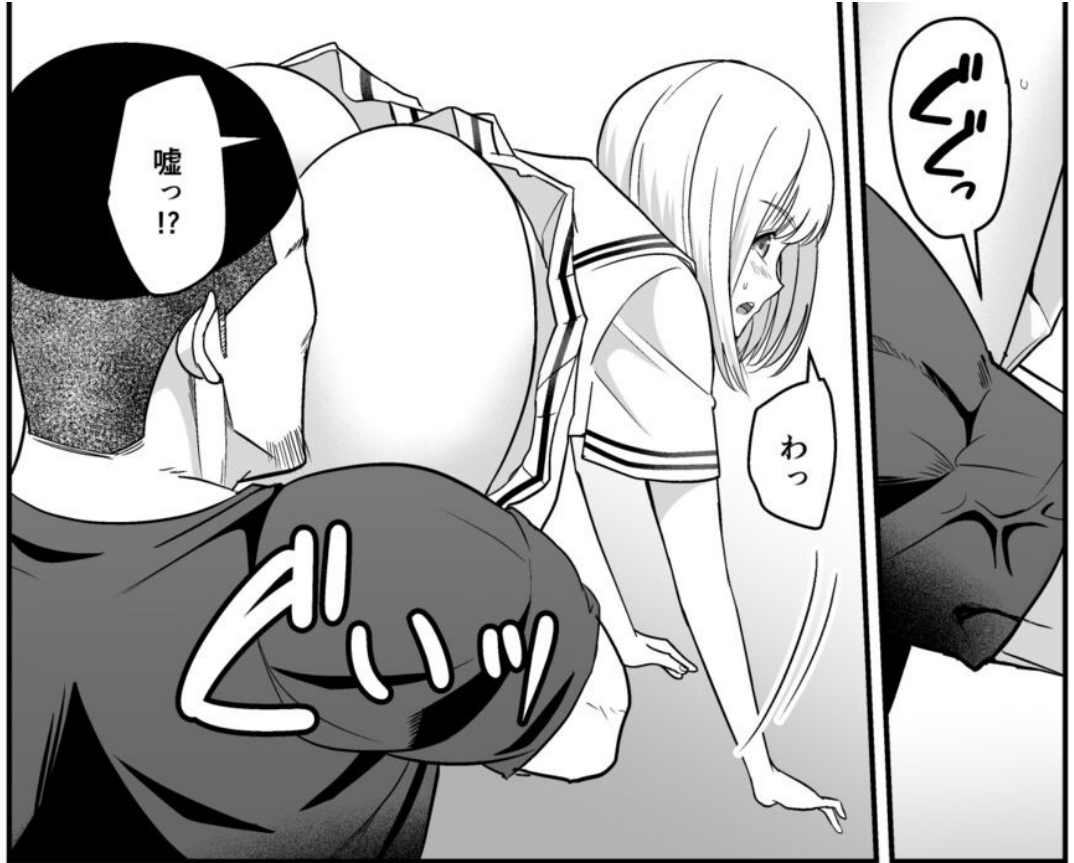




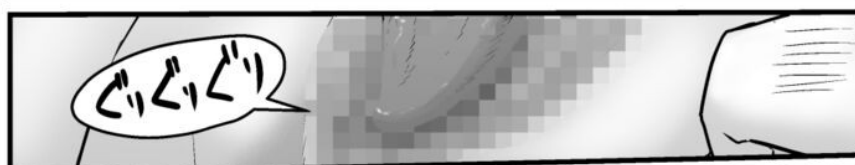


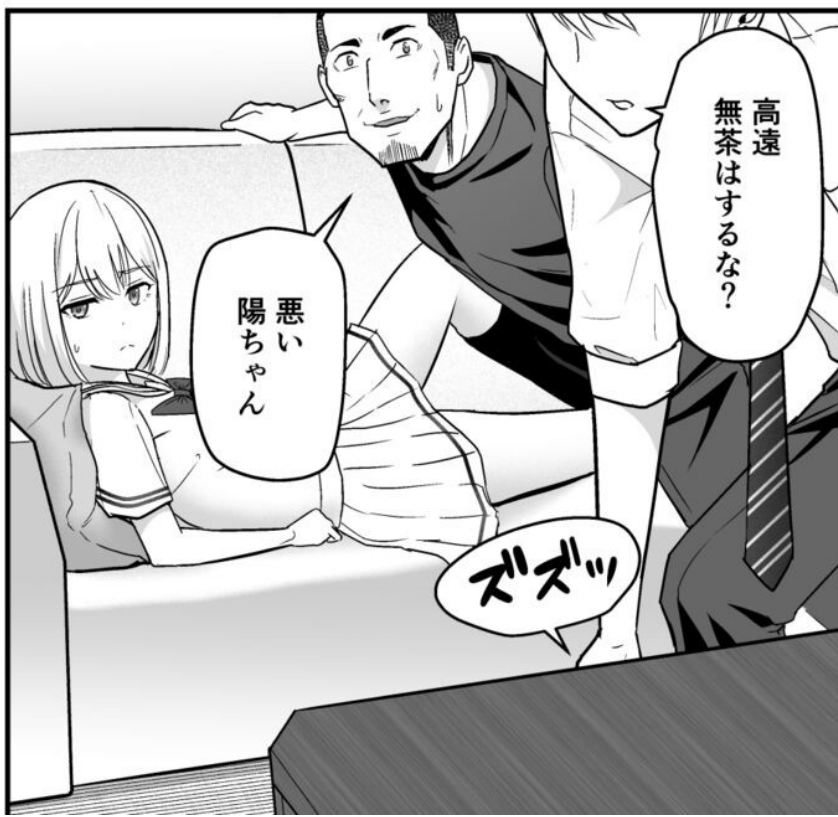


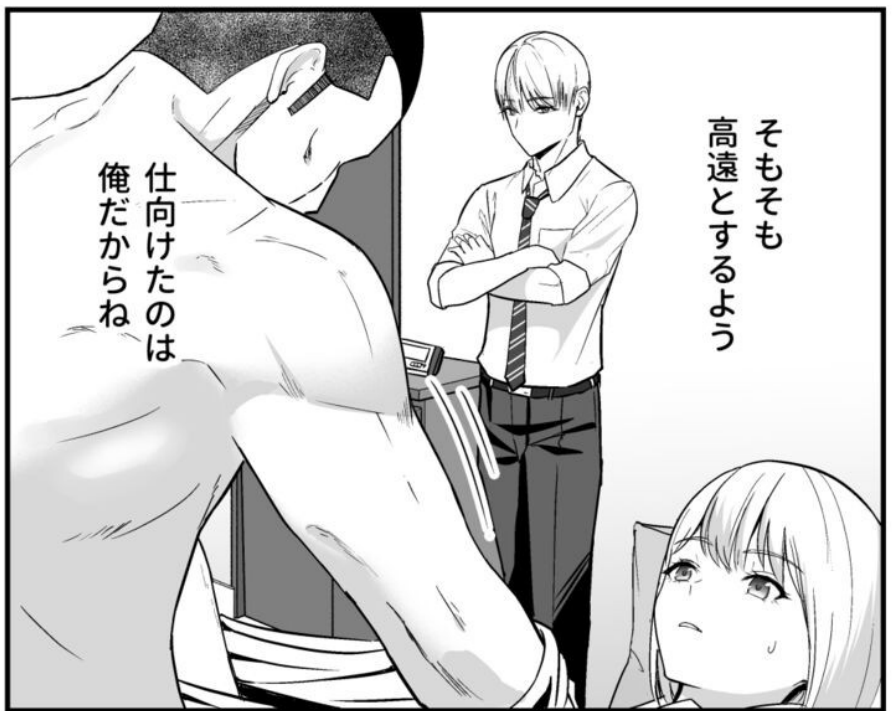
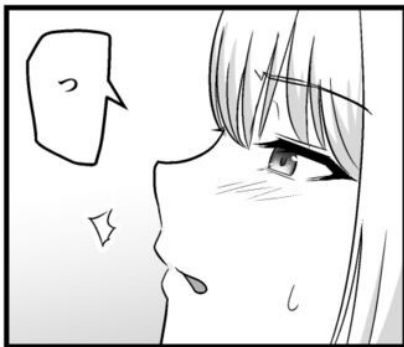


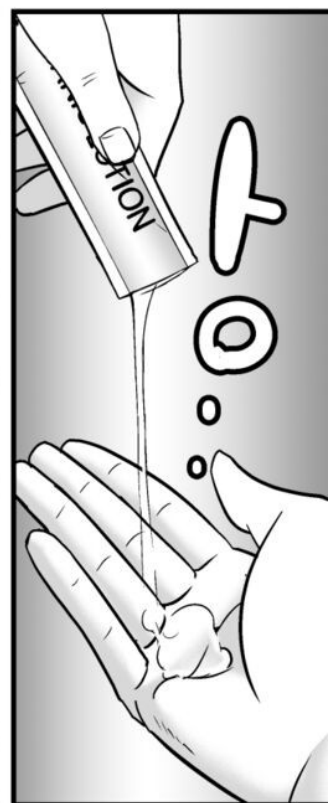




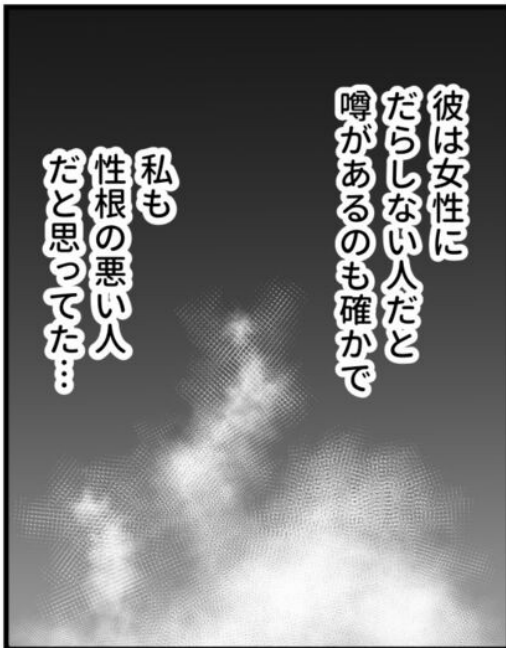




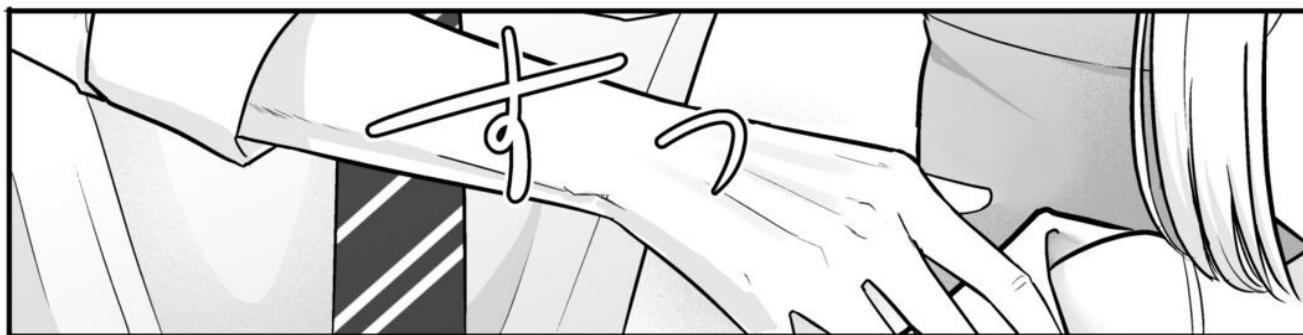
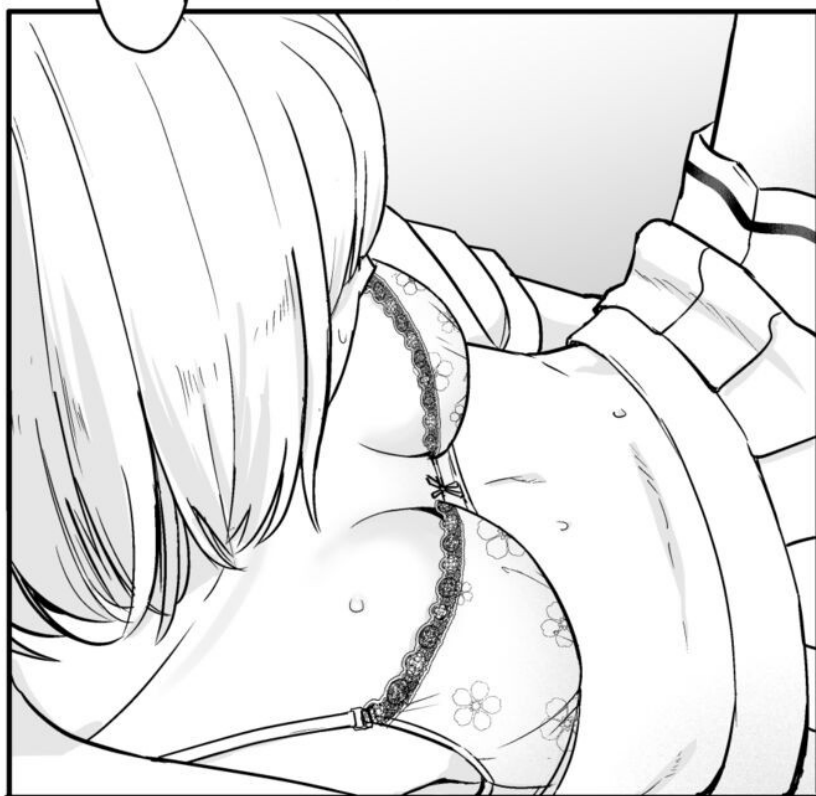


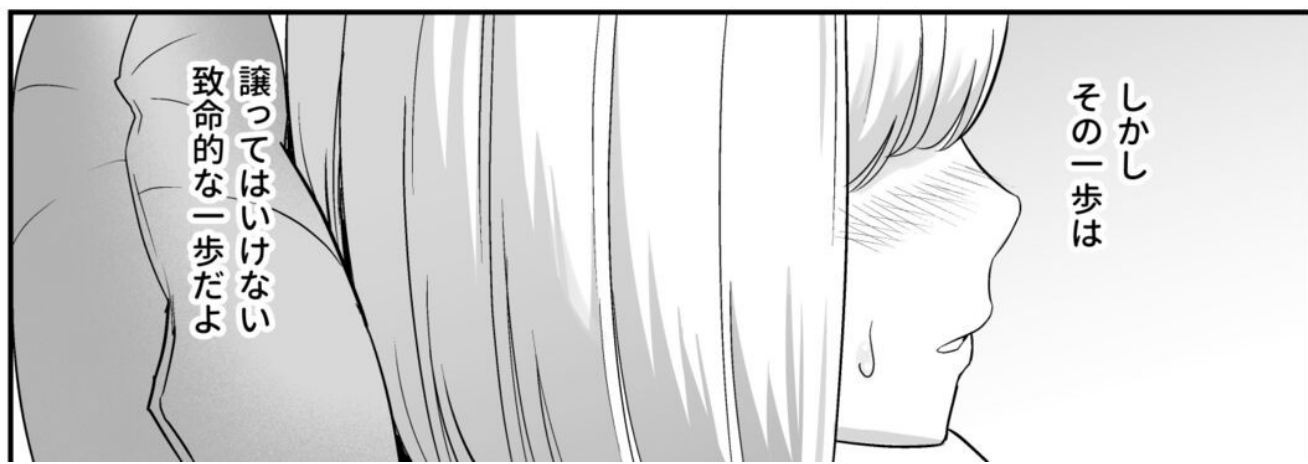


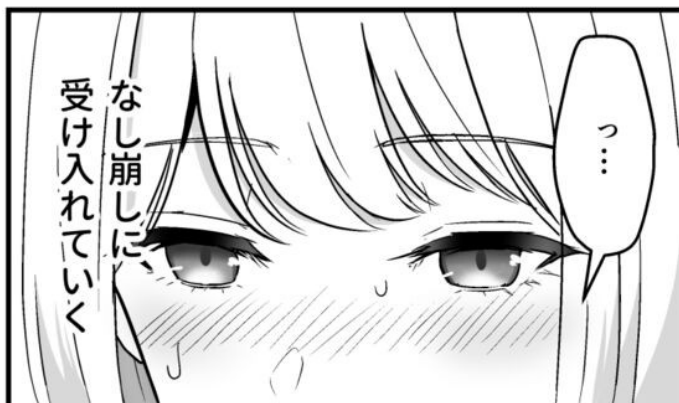
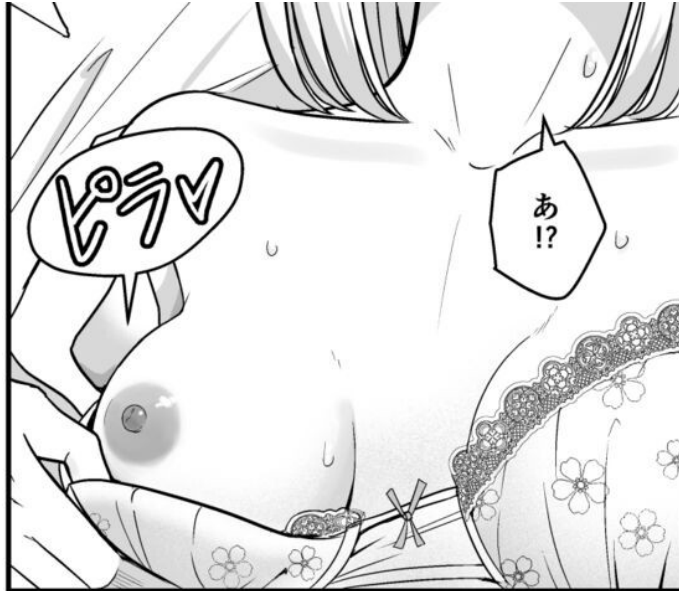




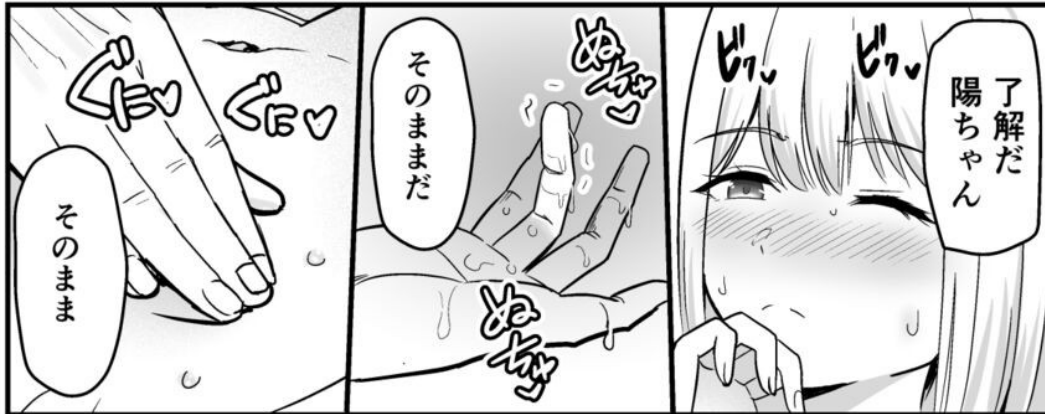
















啜^{くわ}えて



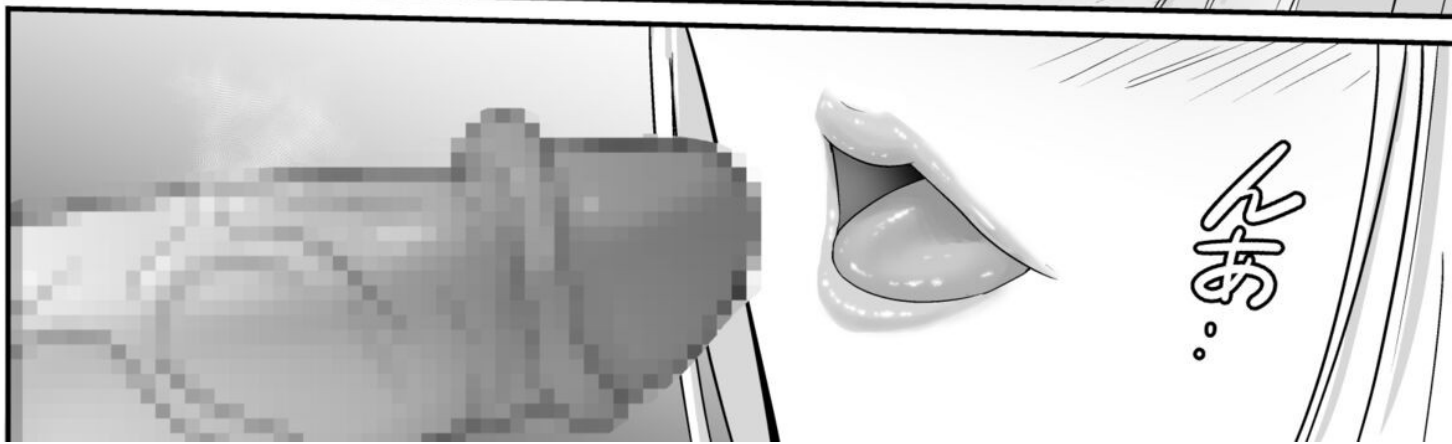
ニコルちゃん



グイッ

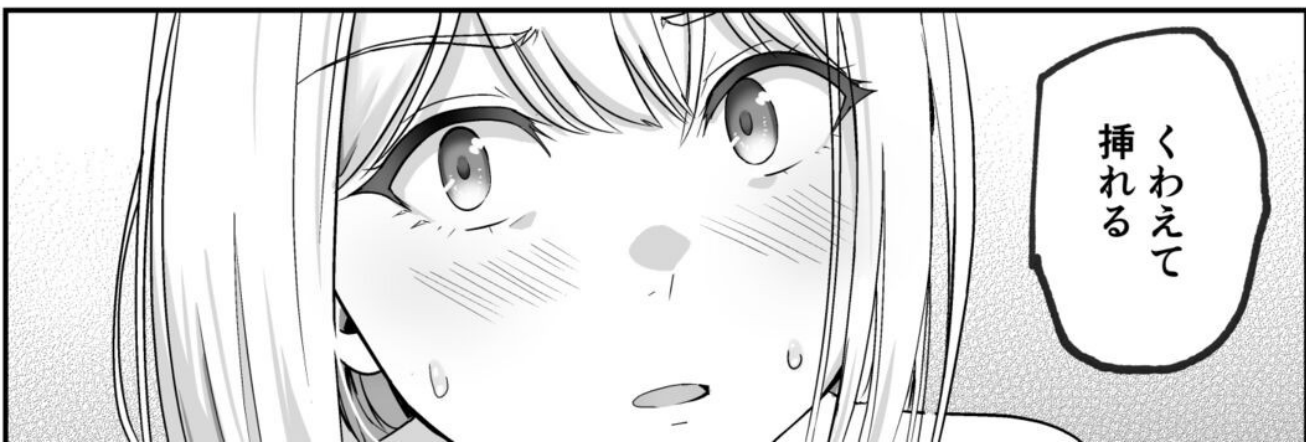
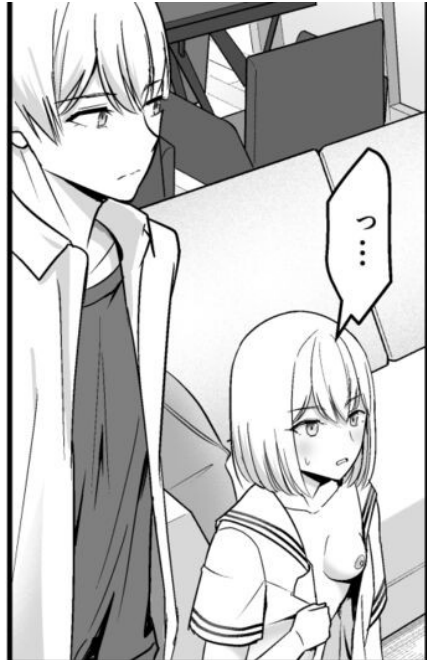


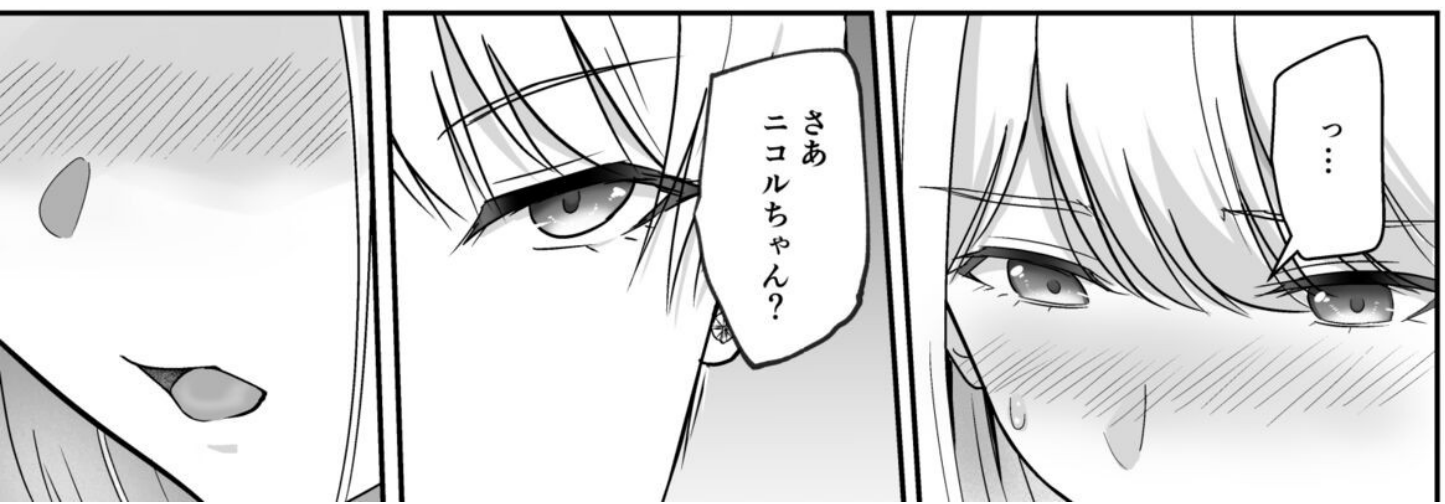
...

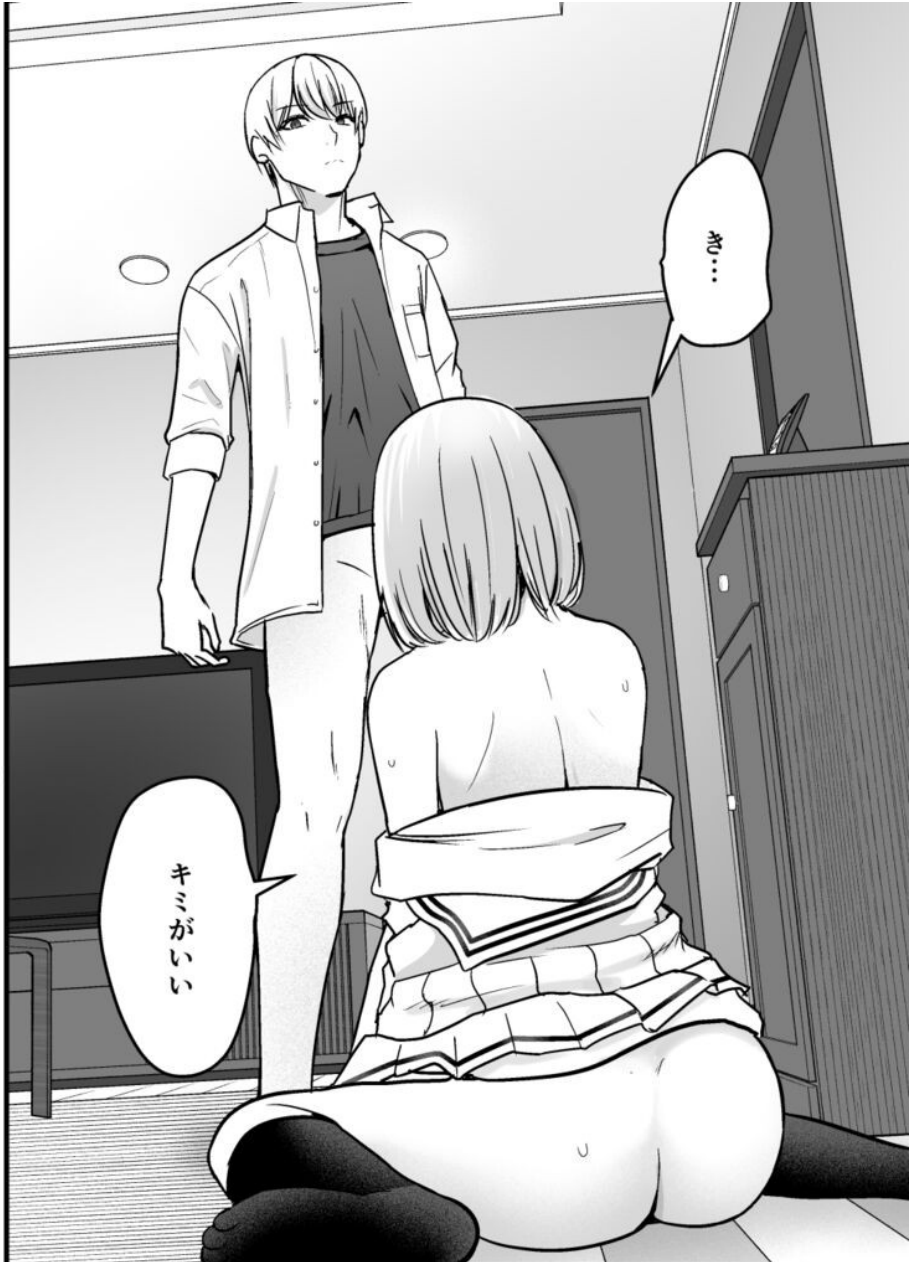
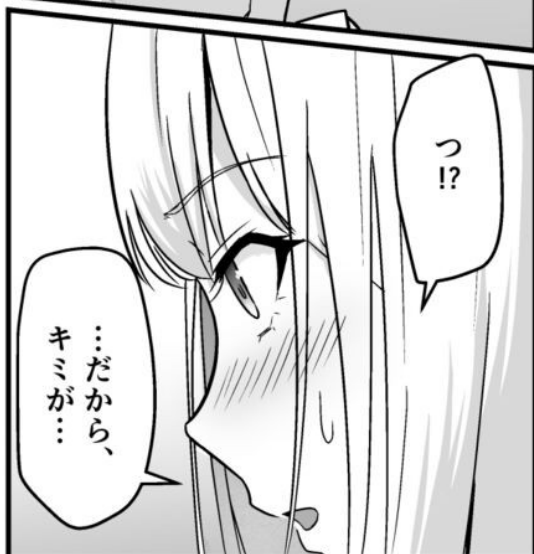


んあ...















じゃじゃ馬が
おとなしくなったもんだ

なでなで



いいよ
ニコルちゃん



あ



んっ

ドクドク



『セックスしてみたが
悪いものじゃなかった』
とニコルちゃんの
無意識に刷り込まれて
いたからに他ならない



そしてここからは
次のフェーズ—

ニク



高遠の相手など
大したことない
だろうと思って
いたのだろう

もっと強く
握ってくれ
ニコルちゃん

ビク

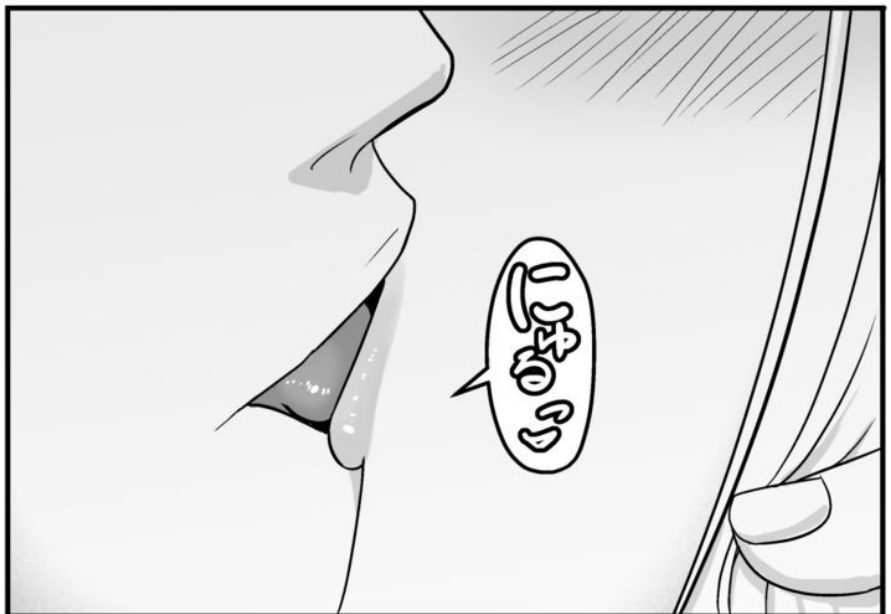
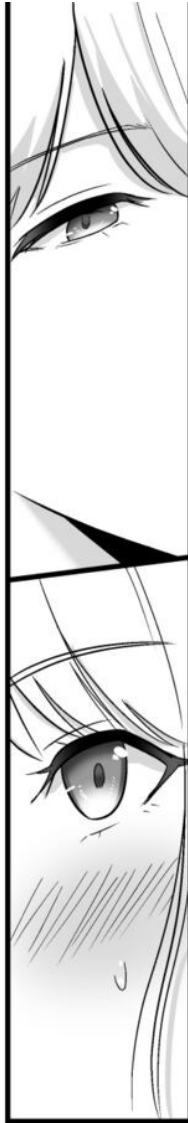
だからあと
3時間くらいなら
してもいいと強気に
受け入れられた

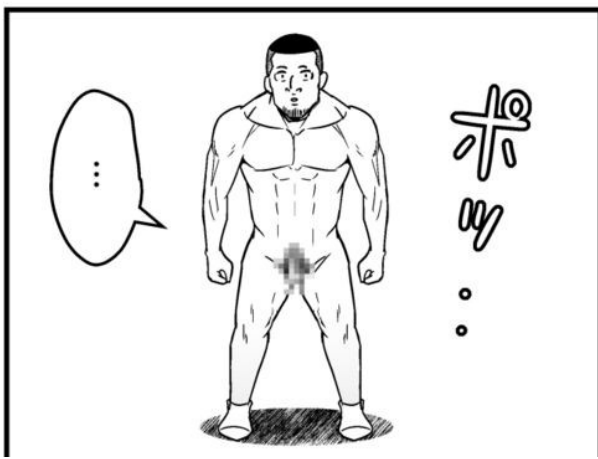
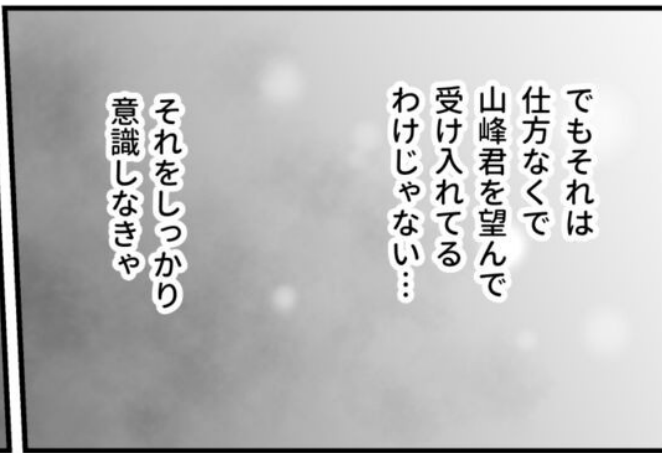
んふっ

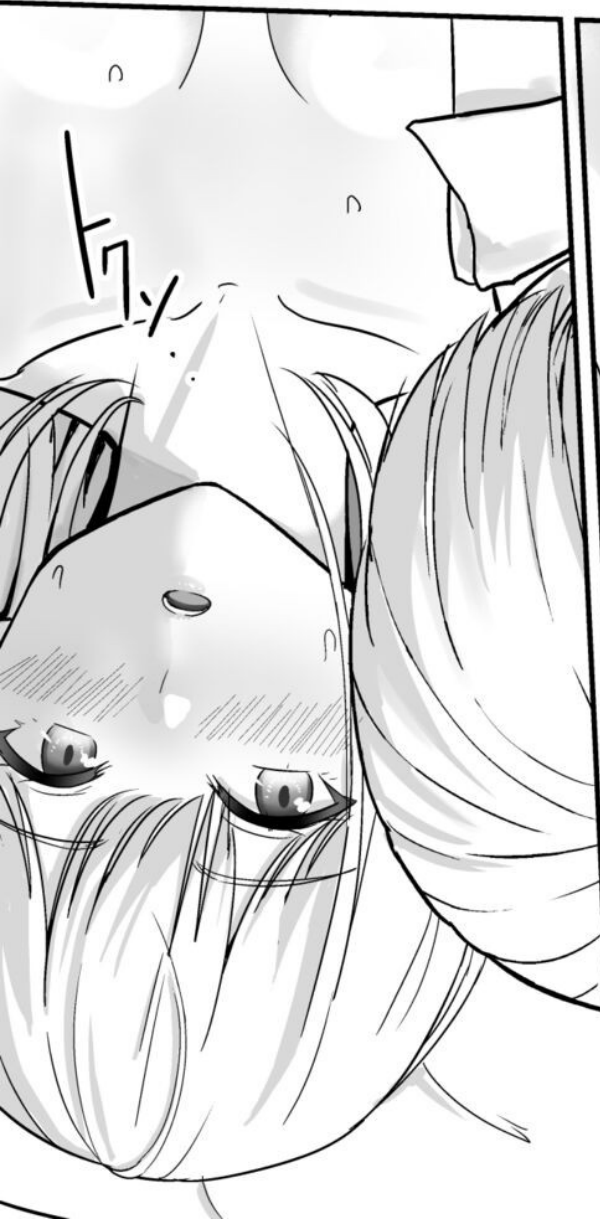
んふっ

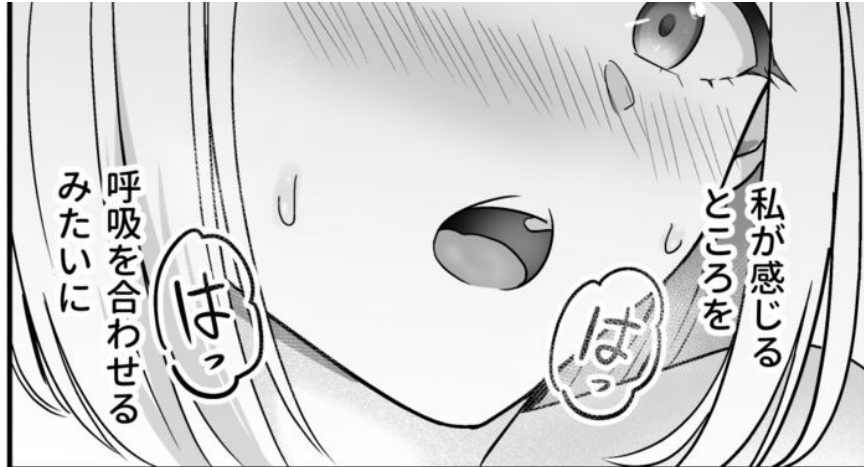
んふっ











確かに整った顔をしてる

共演したことある
どの俳優より…

モデルの子たちも
好きになっちゃう
って言うのも…

トーン…

ダメ…

サッ

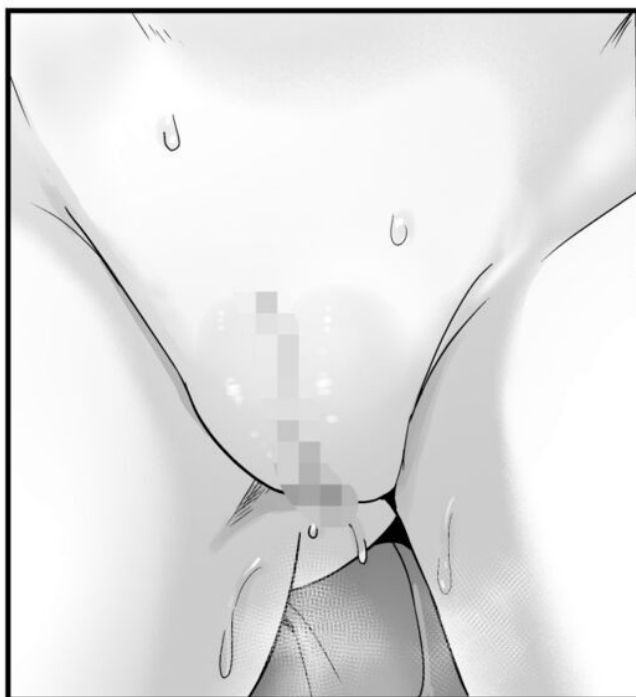
私は…

今一瞬
俺に見惚れたな

ニイ…

仁奈川ニコル



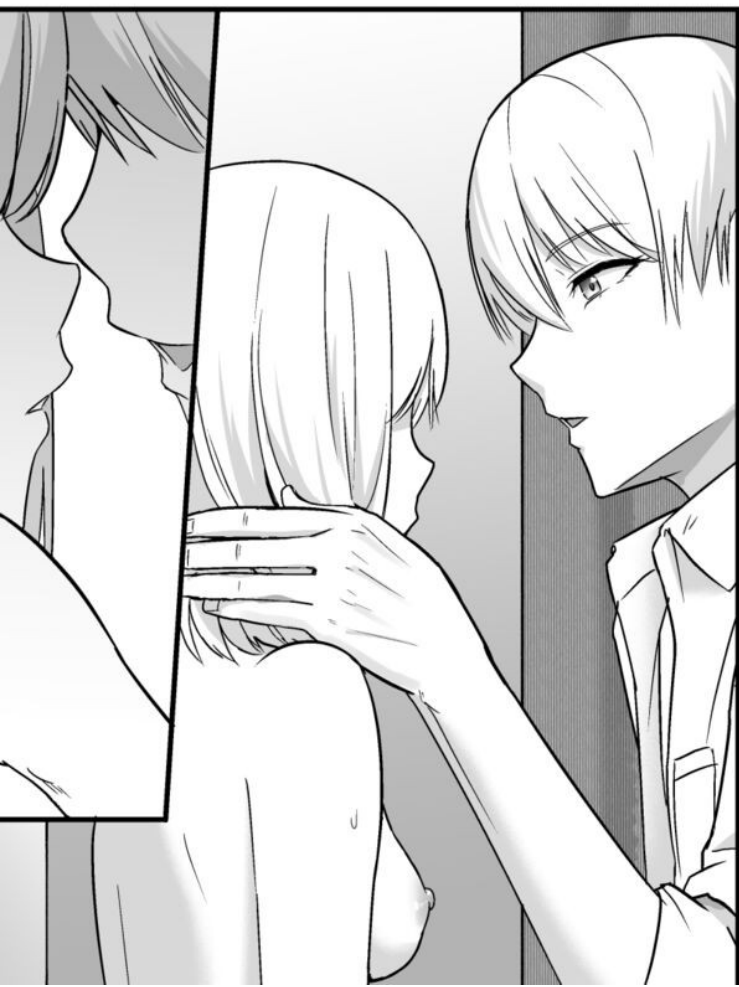




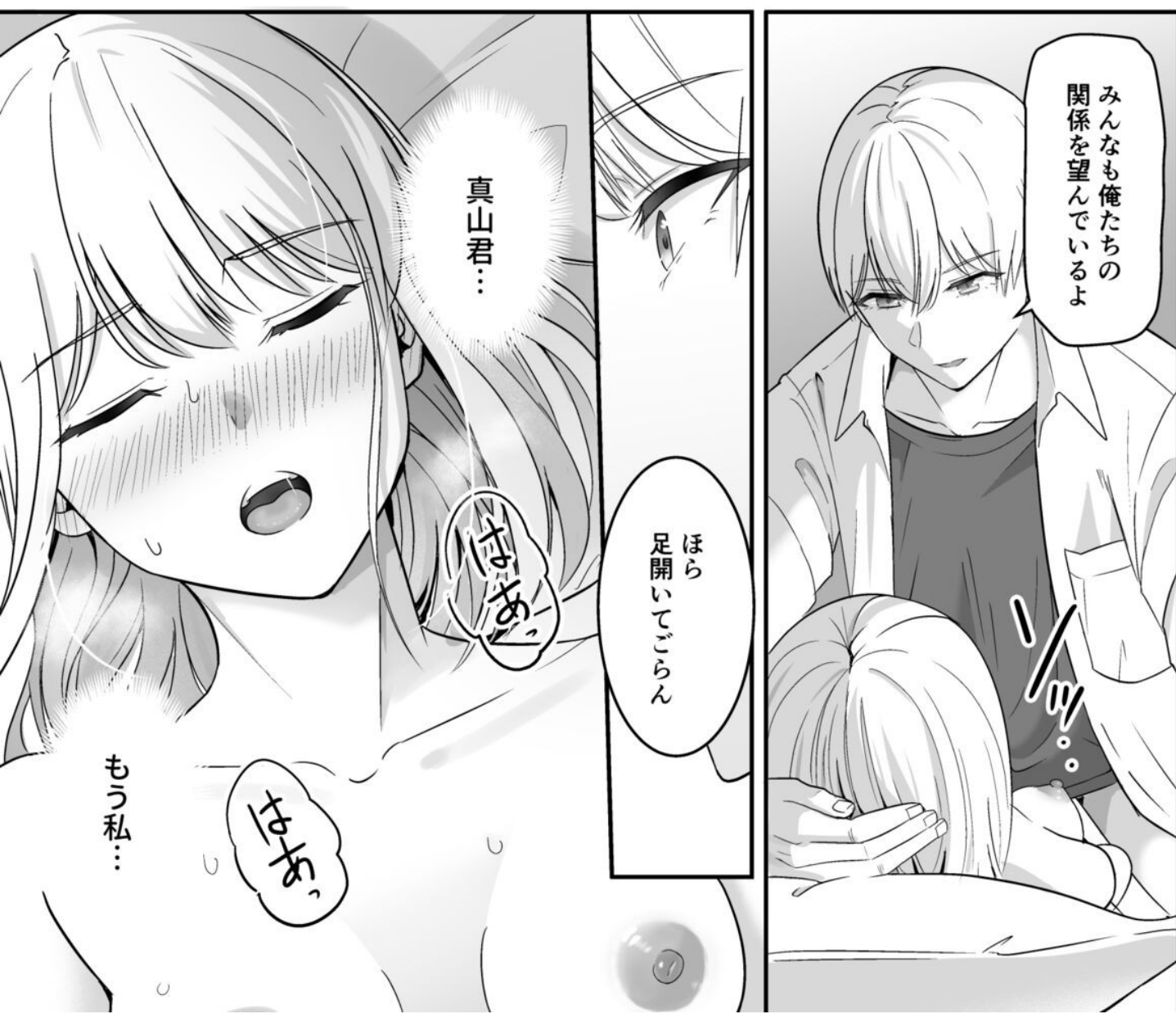
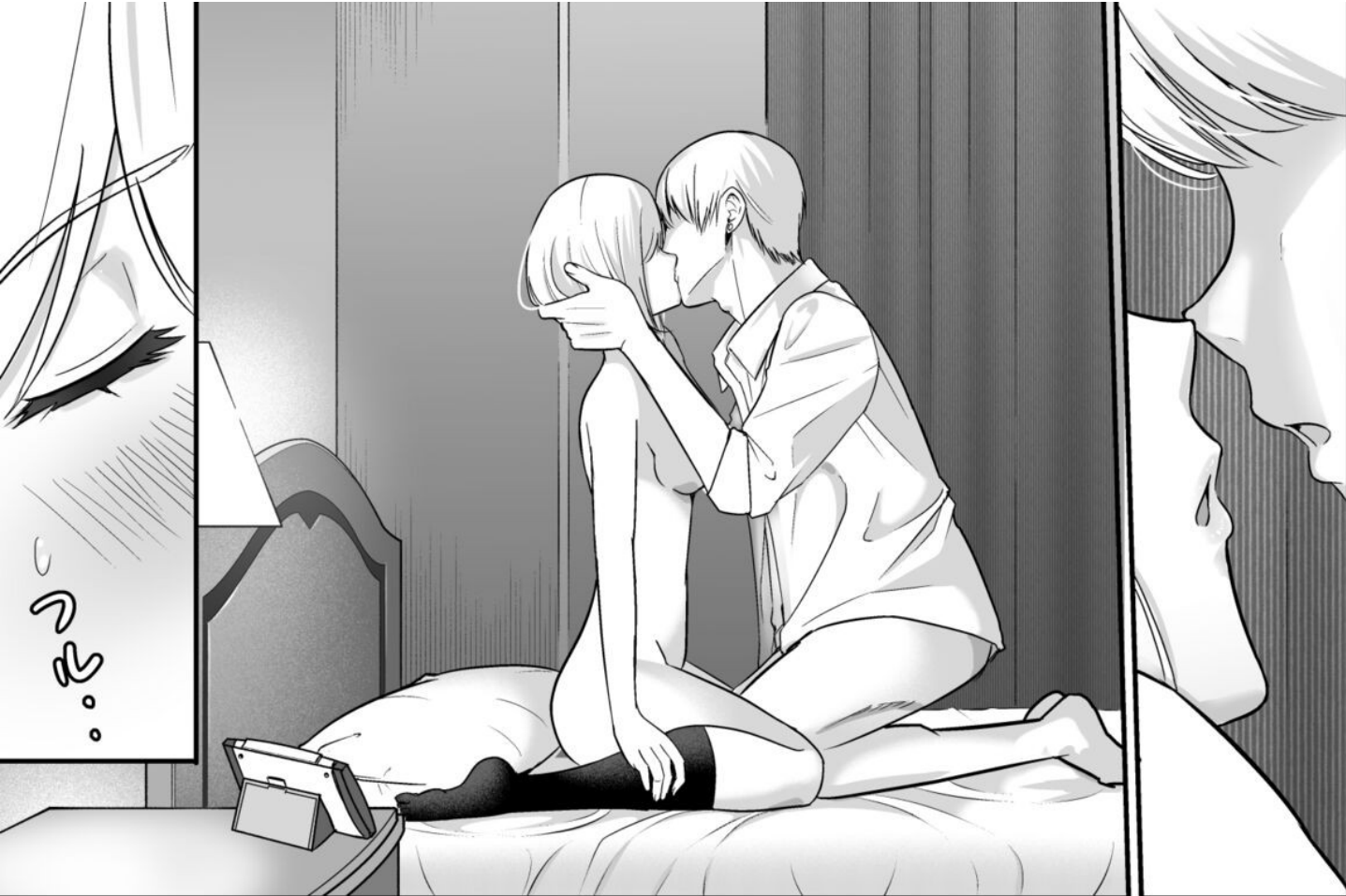


















あんなこと
言ってたのに

ワッ..

余裕でまた俺と
しちゃってんじゃない笑

すっ

ん

あッ

すっ

すっ



やっぱ
ニコルちゃんの
膣内最高♥

うあッ

きんきん



好き放題に
まんこ使われ
ちゃって

あッ

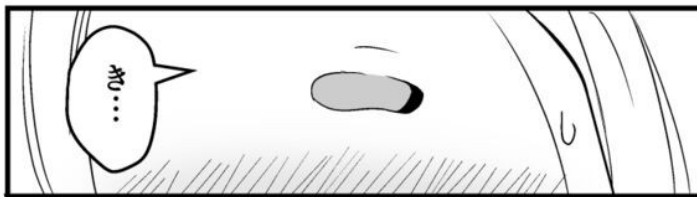
きんきん

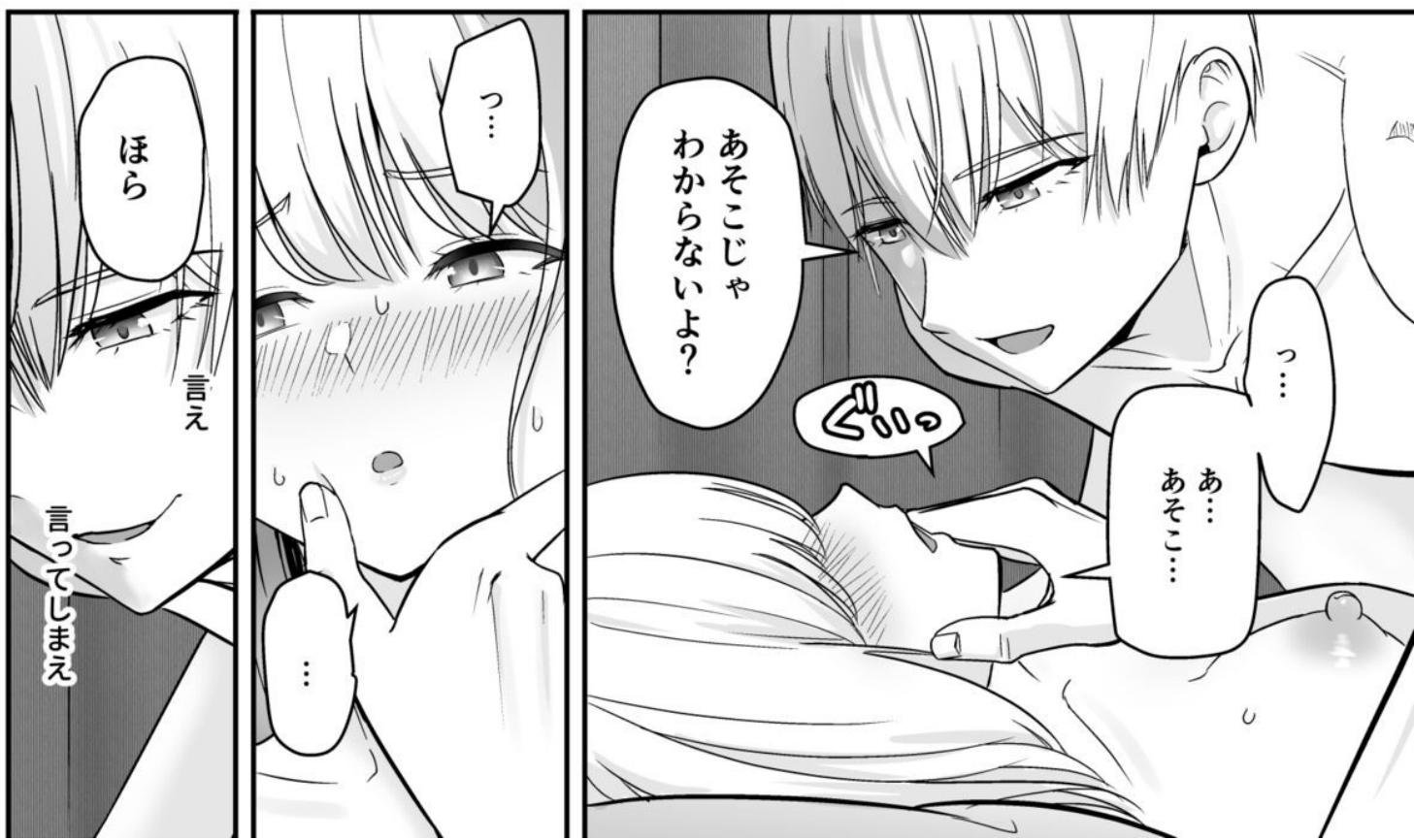
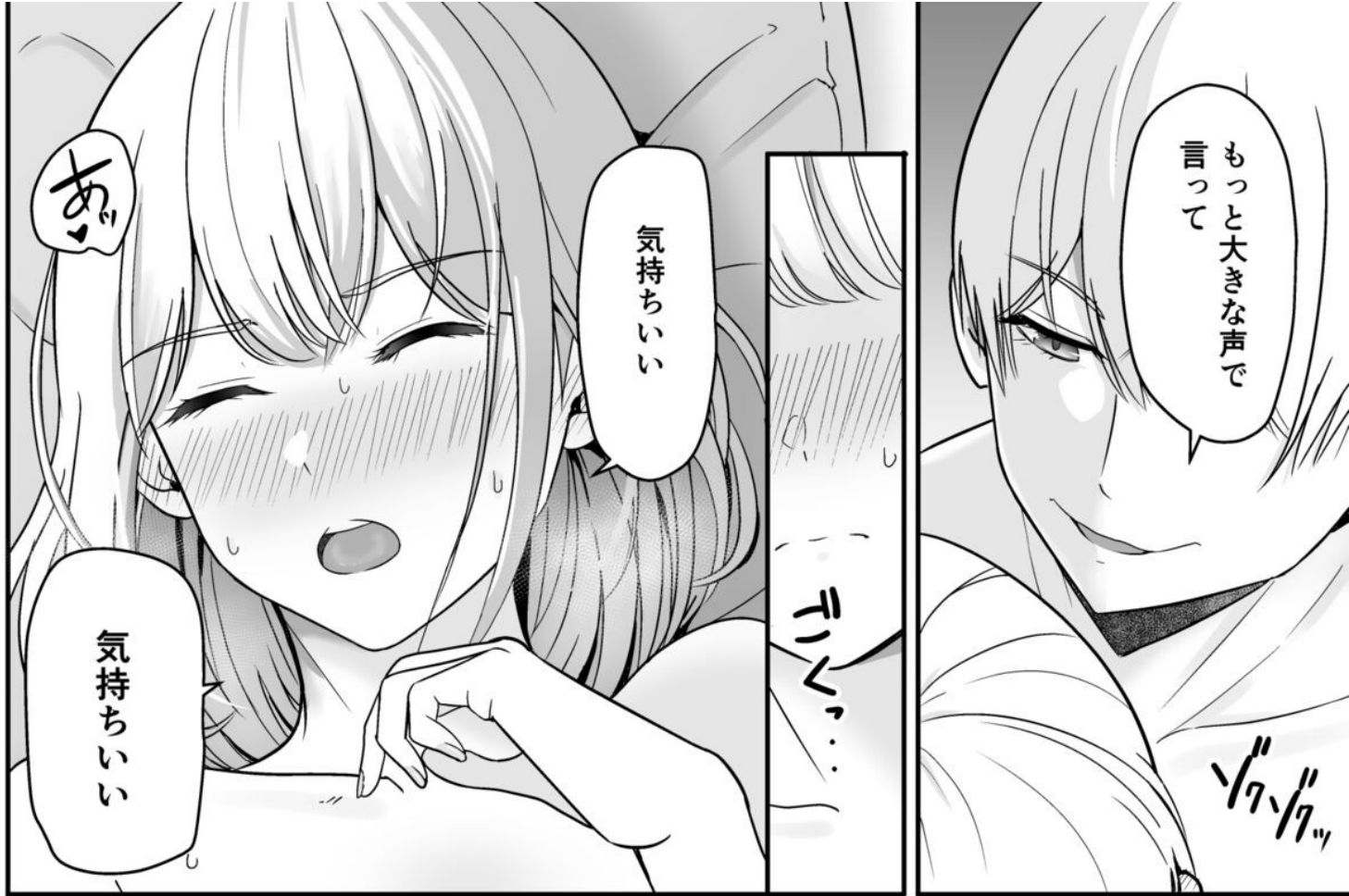
あッ

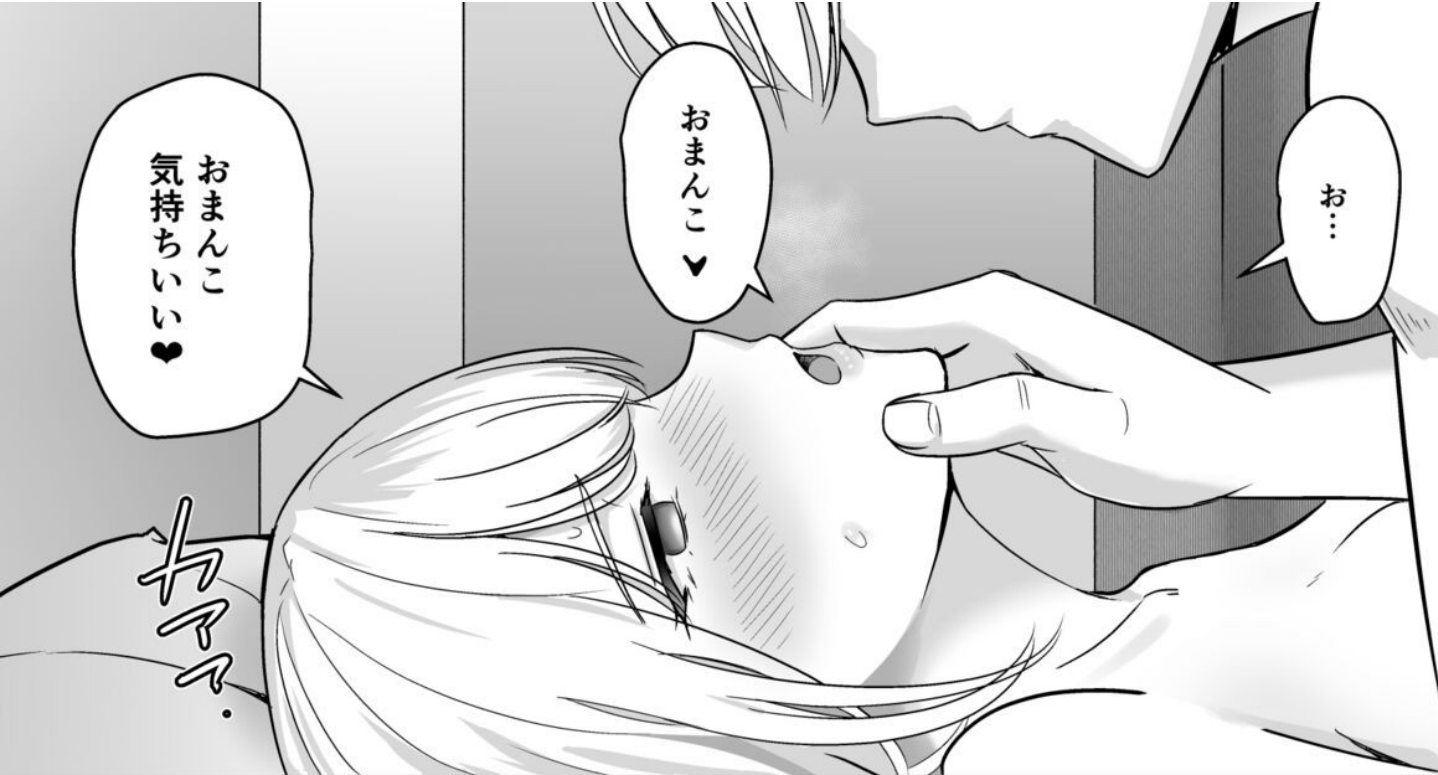


しかも今回は
好きな人がいるって
認めちゃった上で

あッ

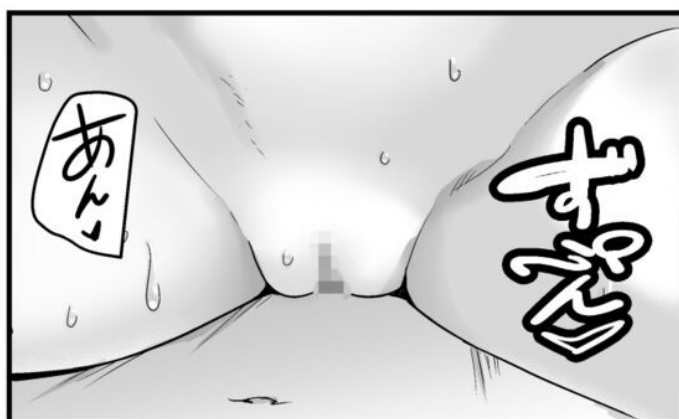
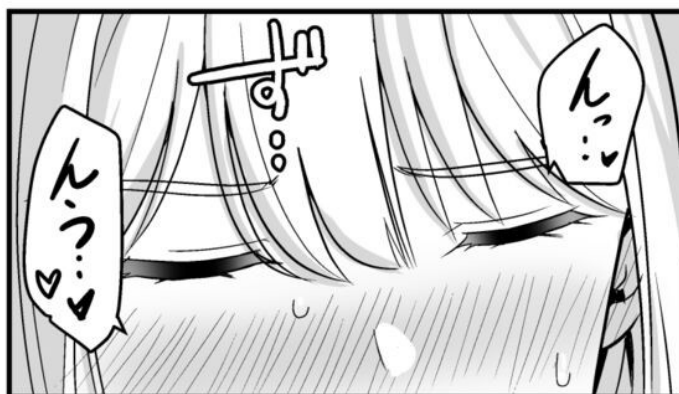
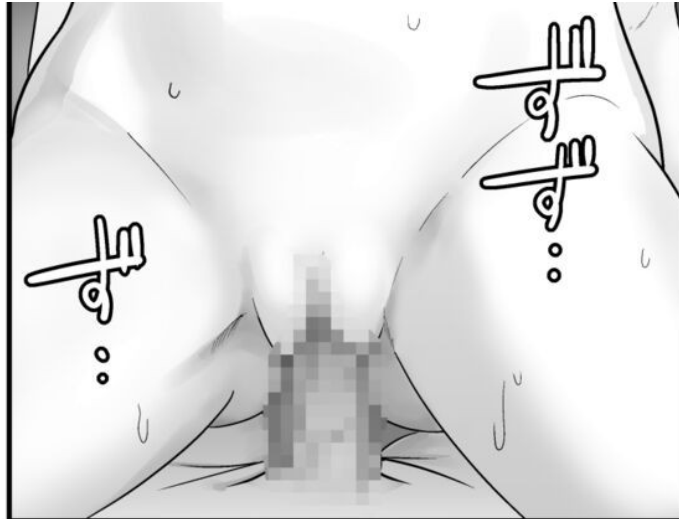




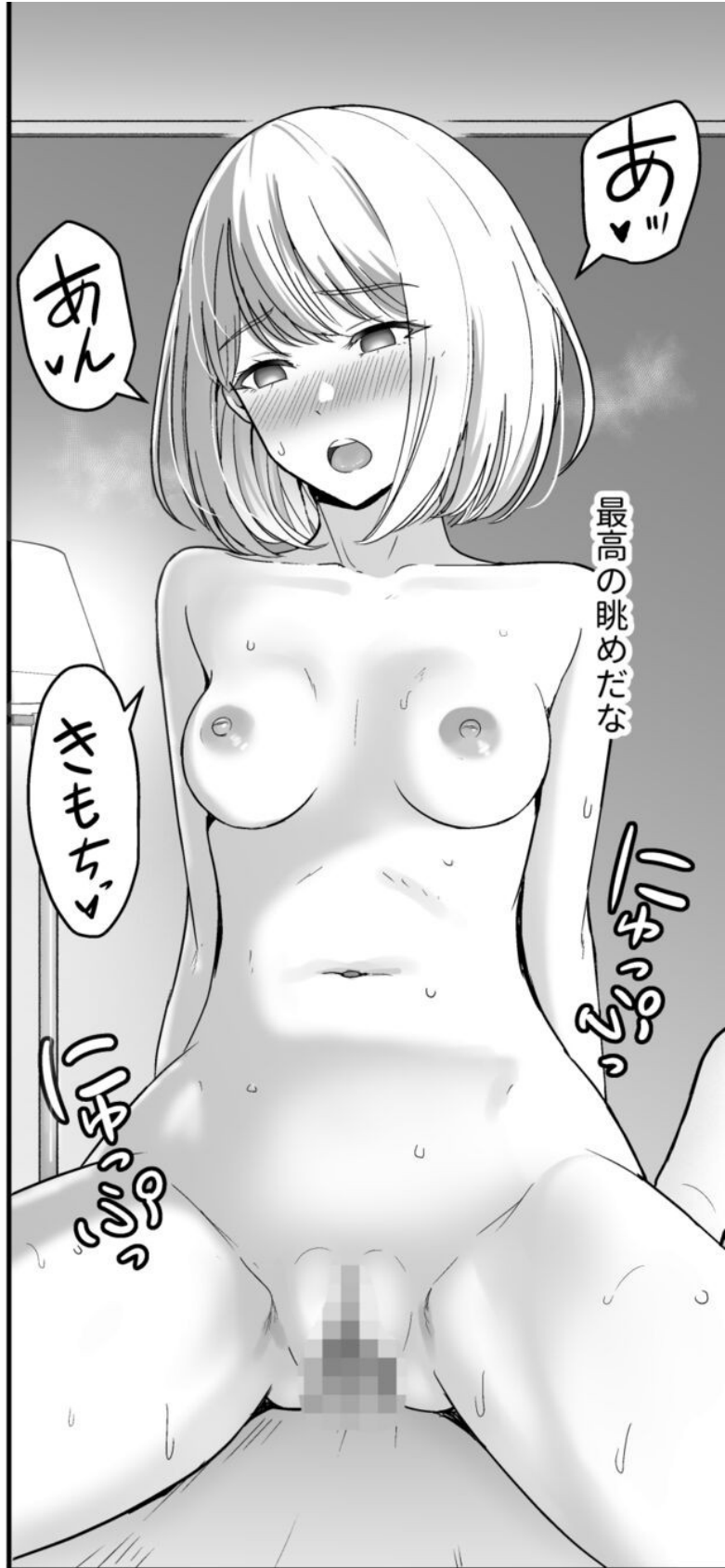
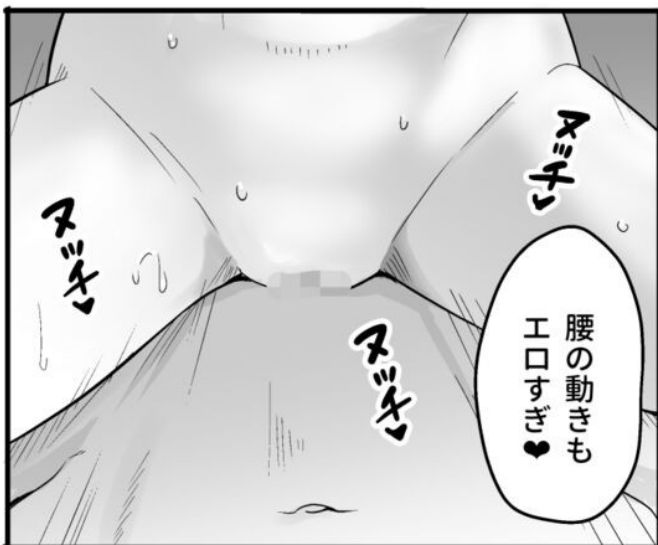


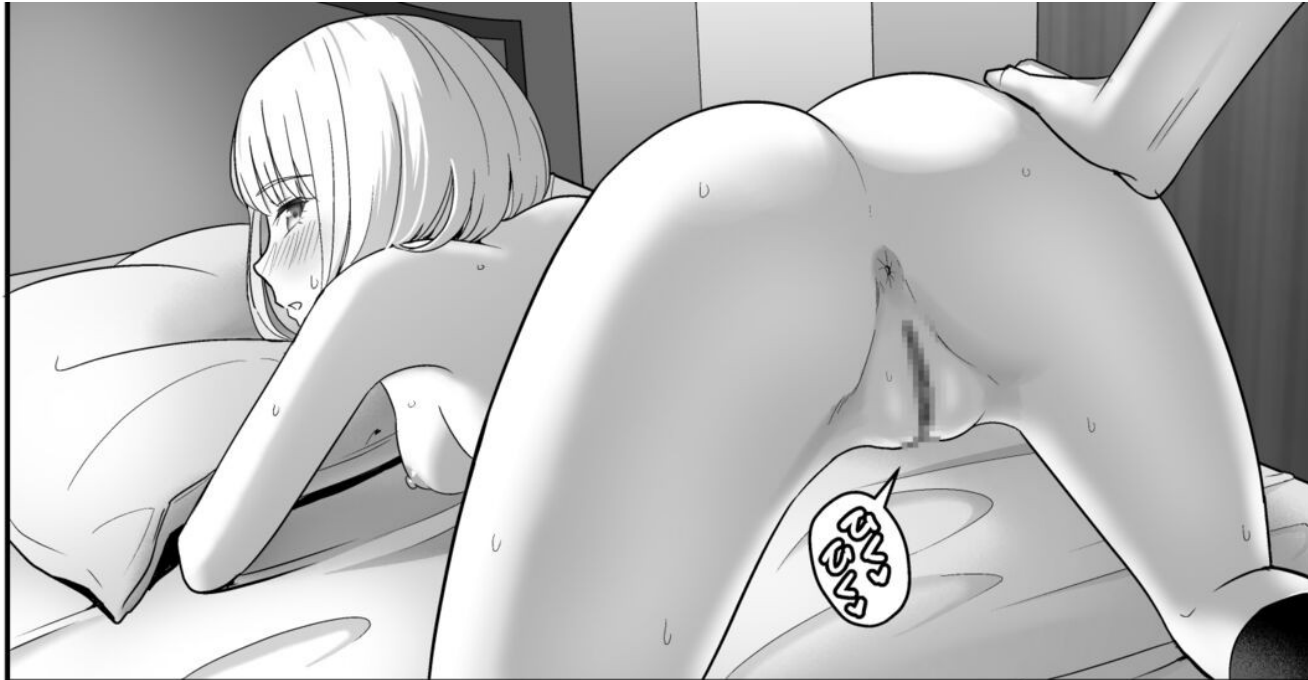




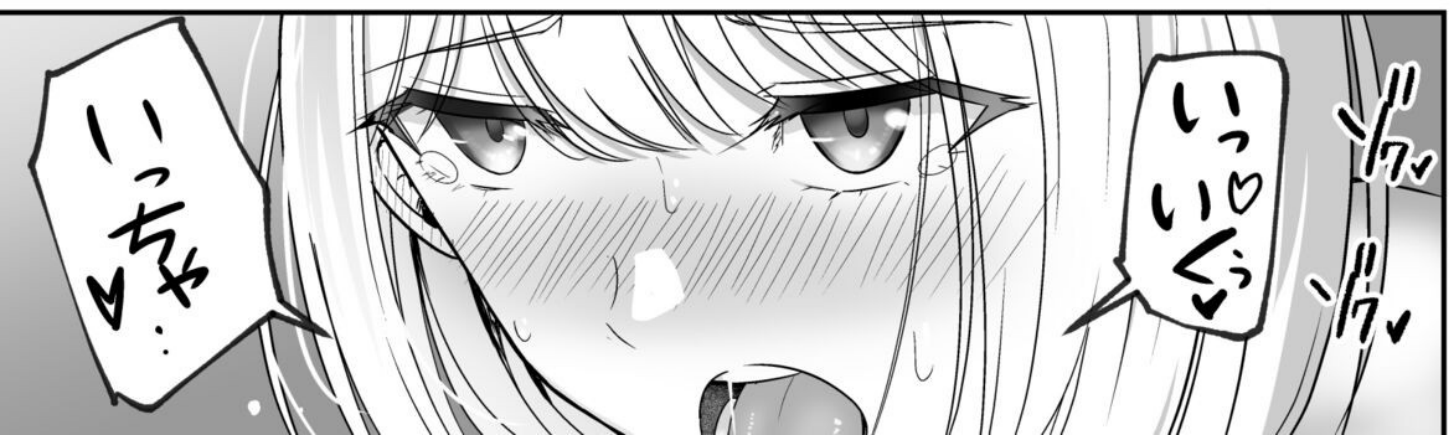
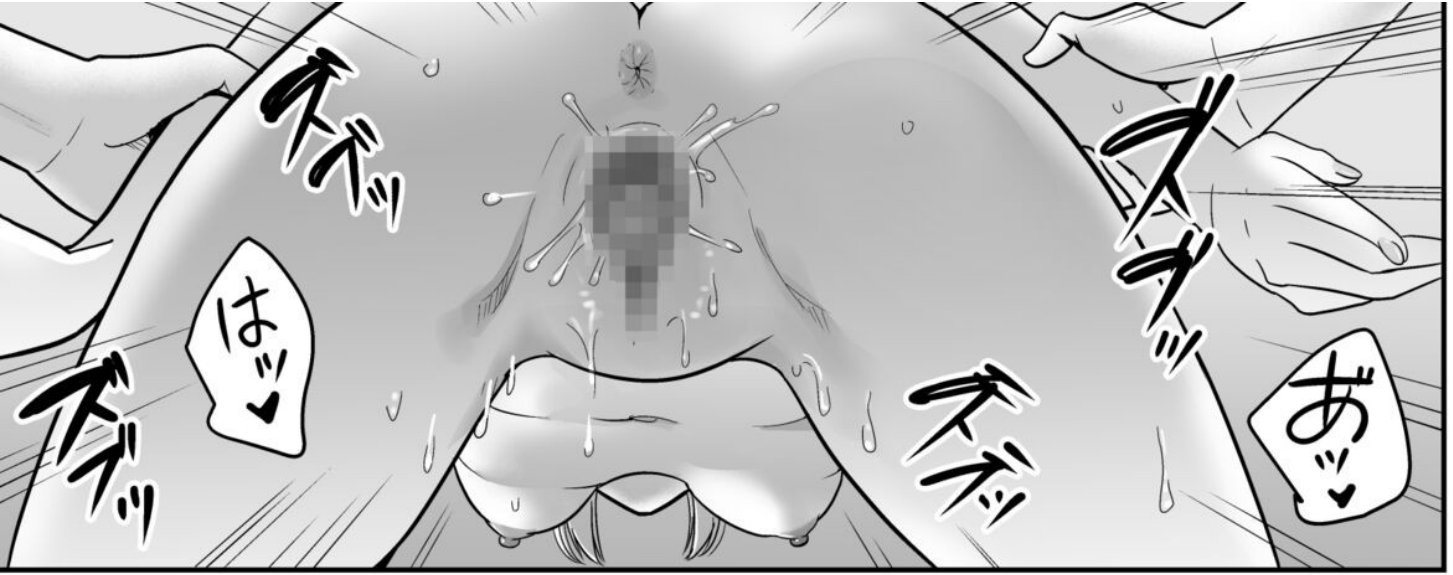








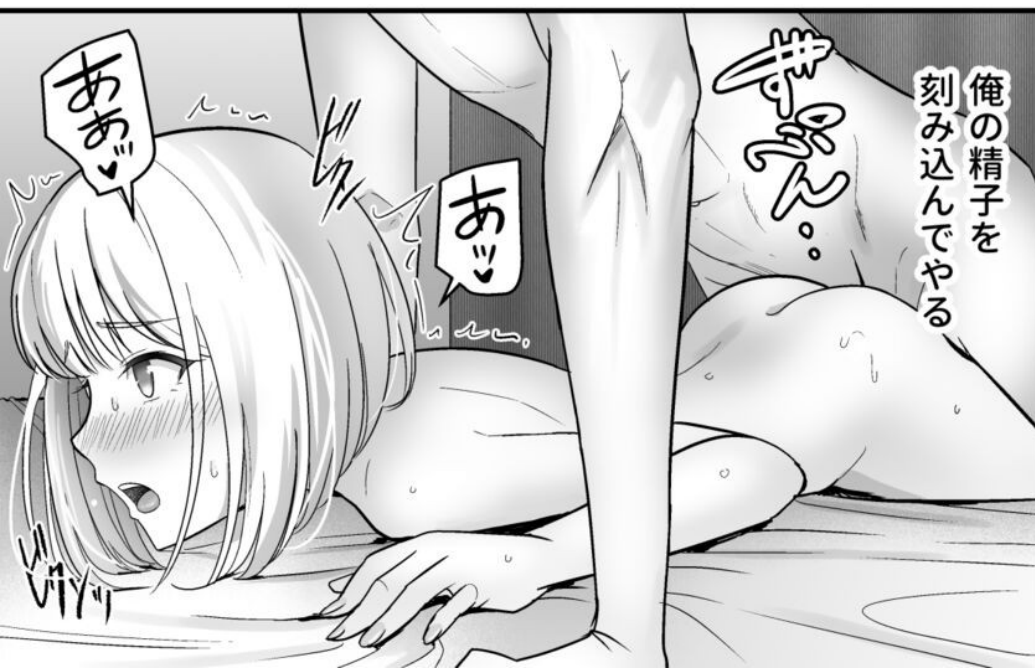


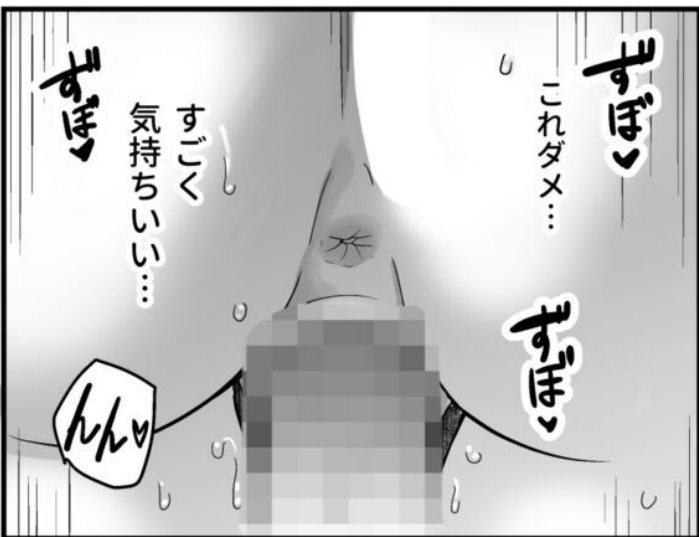


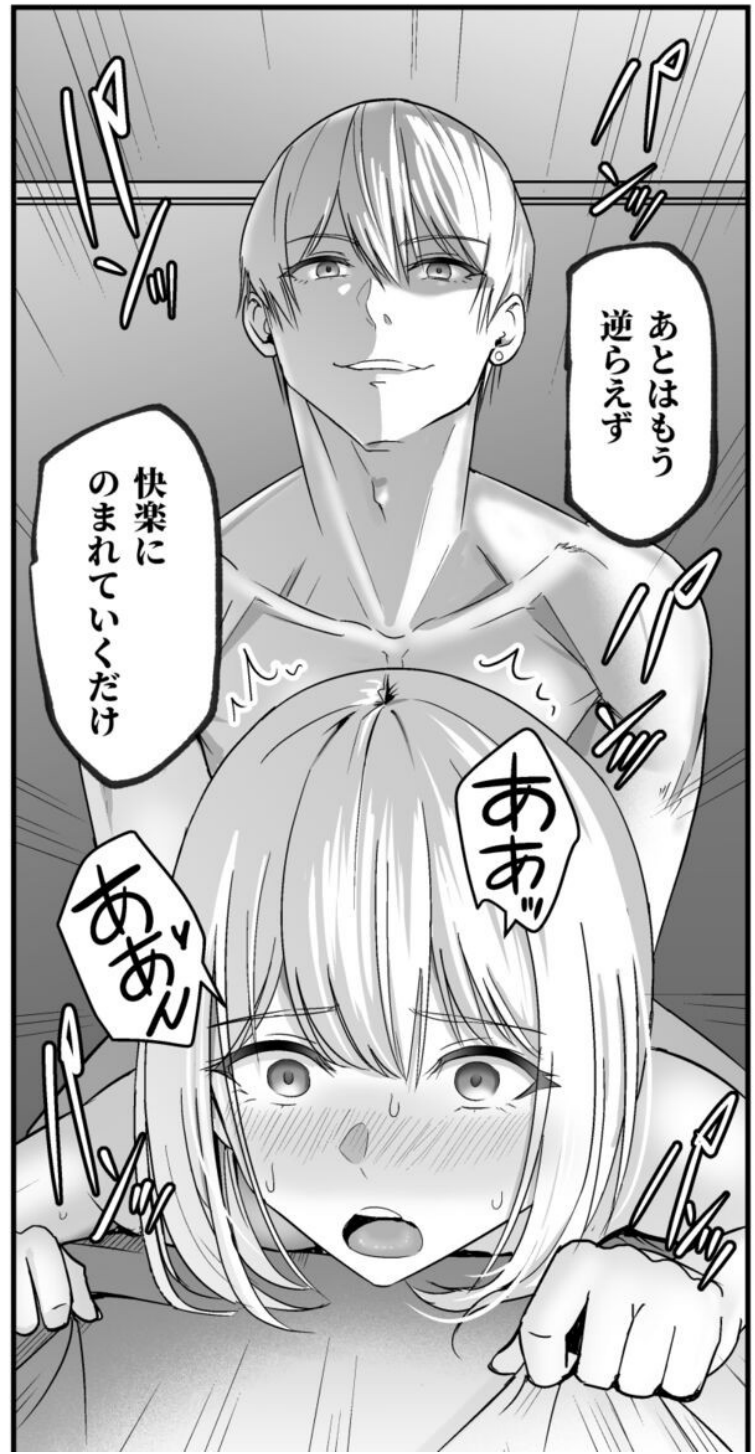
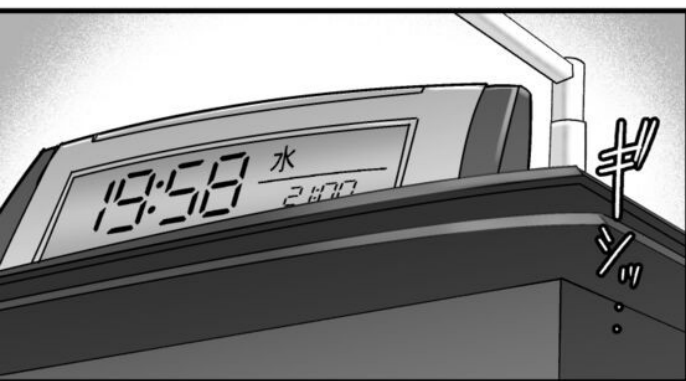


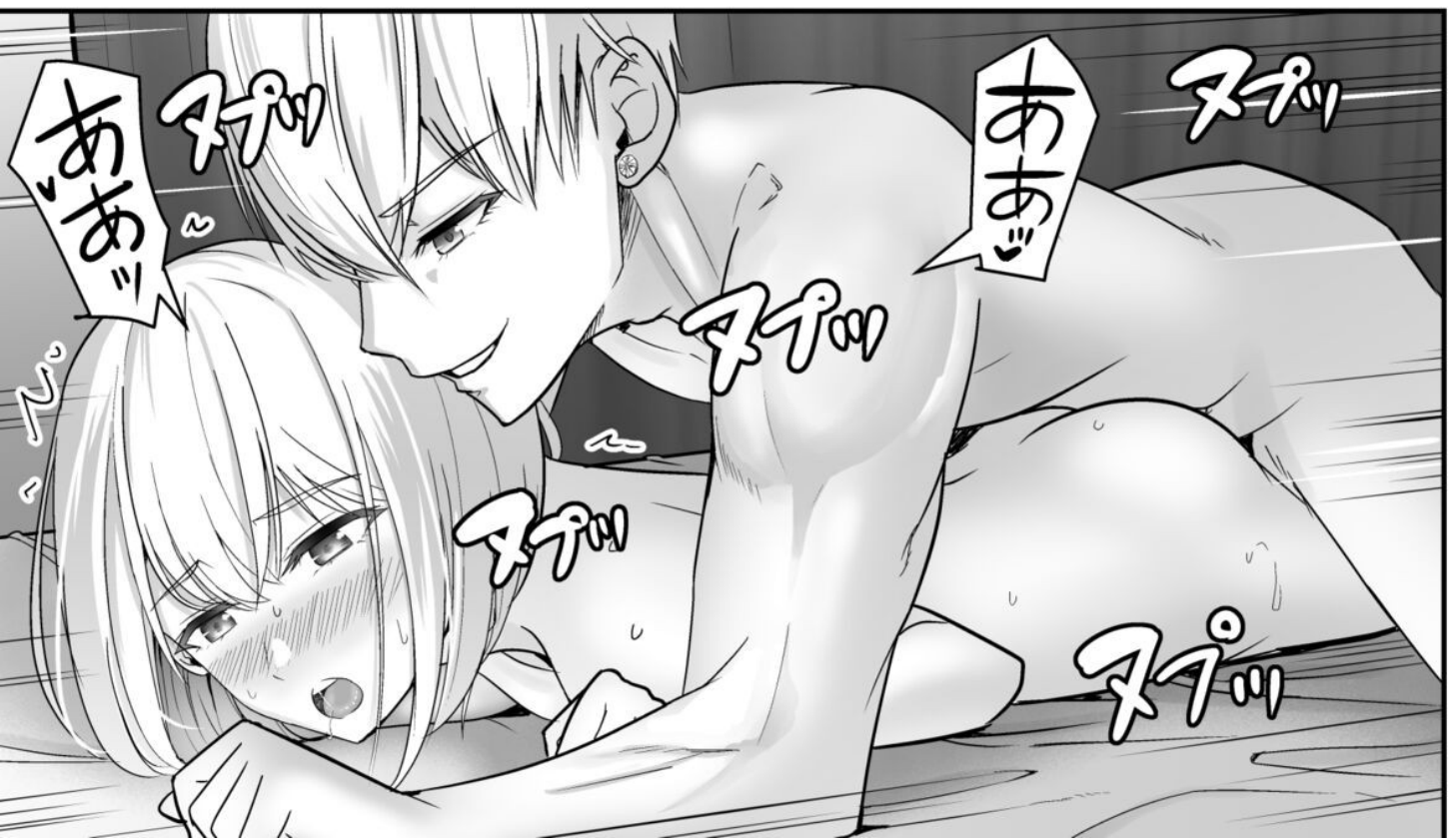
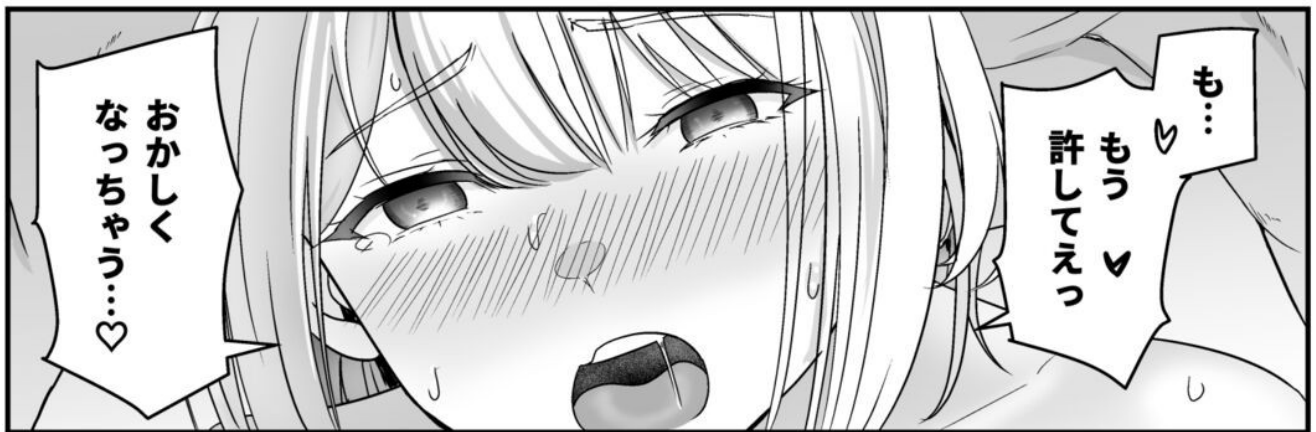


ここで確実に
墮としきる

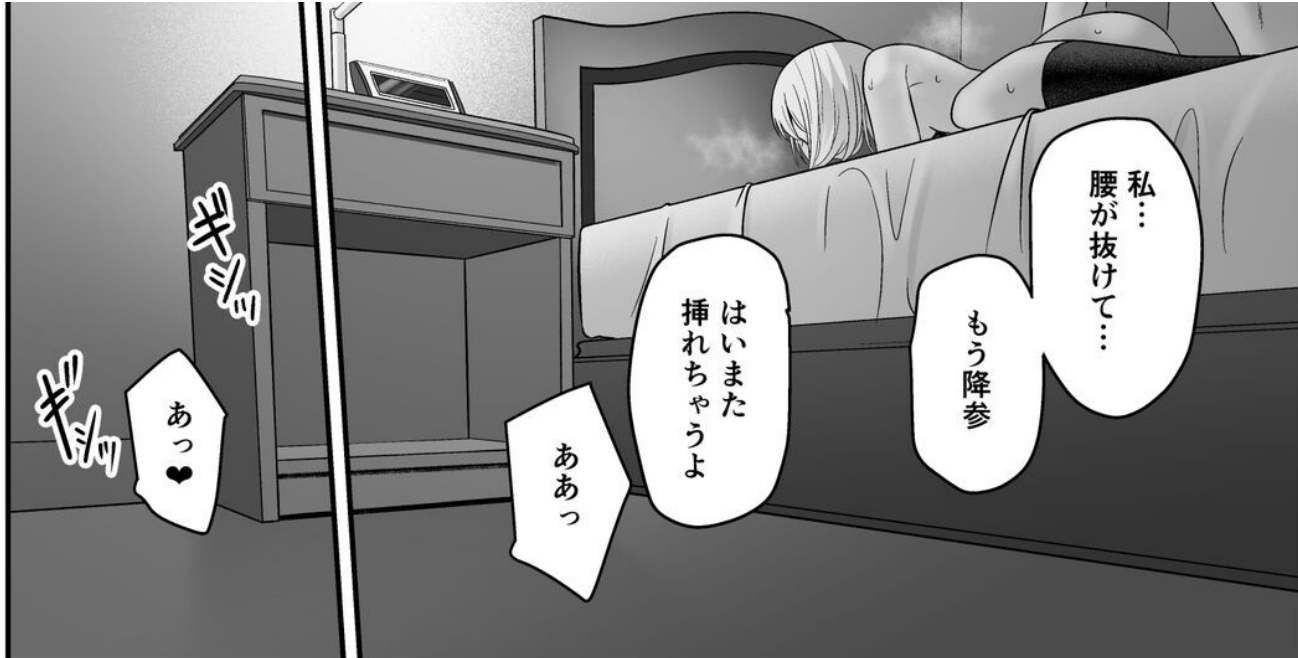


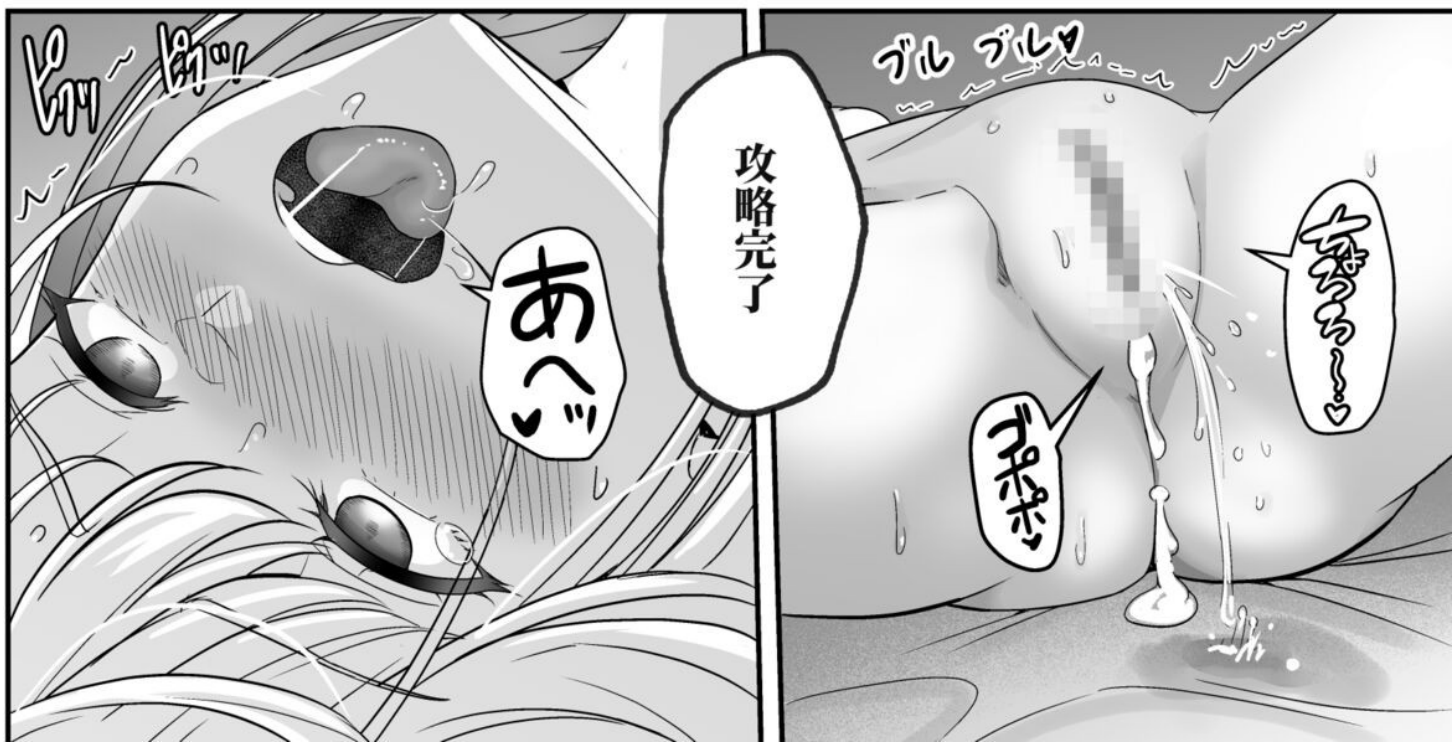




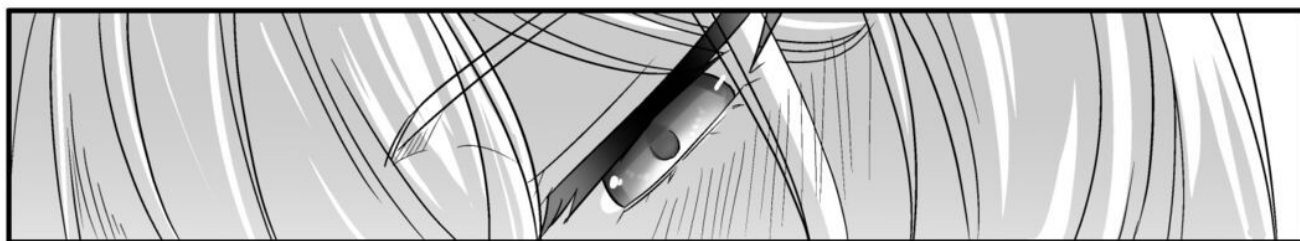












あとがき

ここまで読んでいただきありがとうございました！
満足していただけましたでしょうか。

今回は第4弾で、完全にニコルちゃん回となっております。
ページ数も150を越えてかなりのボリュームとなりました。
ようやく出せてほしかったところもあります。
楽しんでいただけましたら幸いです。

君がため。の第5弾ではいよいよ3人目が登場予定です。
配信時期は全くの未定ですがまたコツコツ制作しくつもりです。
Mitsuhaシリーズのラスト10冊もいずれ出す予定です。

Fantia、FANBOXもやっていますのでよかったらのぞいてみてください。
活動を応援してくださっていた方々には大変感謝しています。
ありがとうございました！

それではまた

2024年7月 シュクリーン

君がため。4

発行：シュクリーン

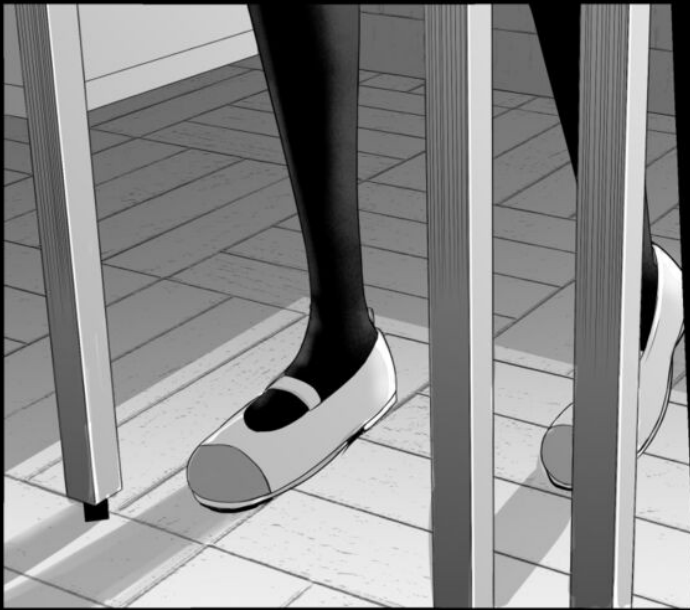
著者：シュクリーン

mail : syukuri_nn2106@yahoo.co.jp
pixivID 14271305
X syukuri_nn20

18歳未満の方は閲覧禁止となっております。
本作品の無断転載はお止めください。

君がため。

CHAPTER 8

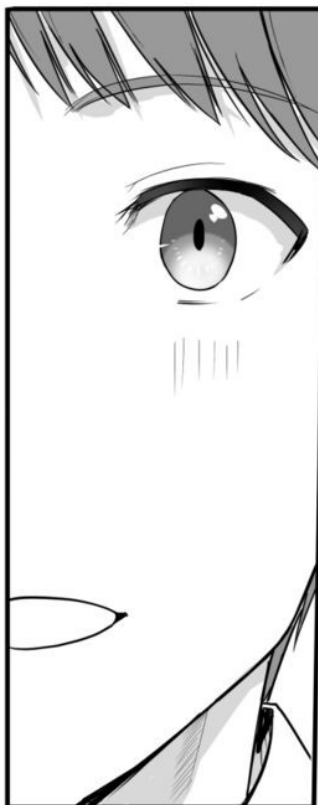


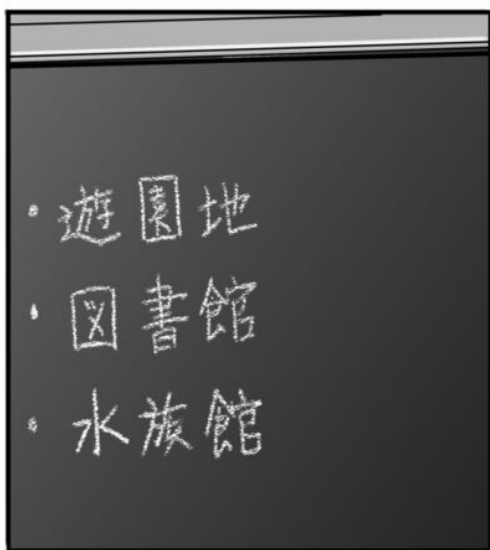
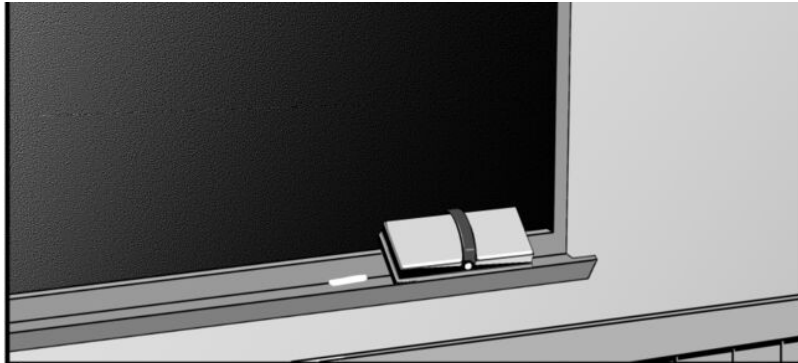








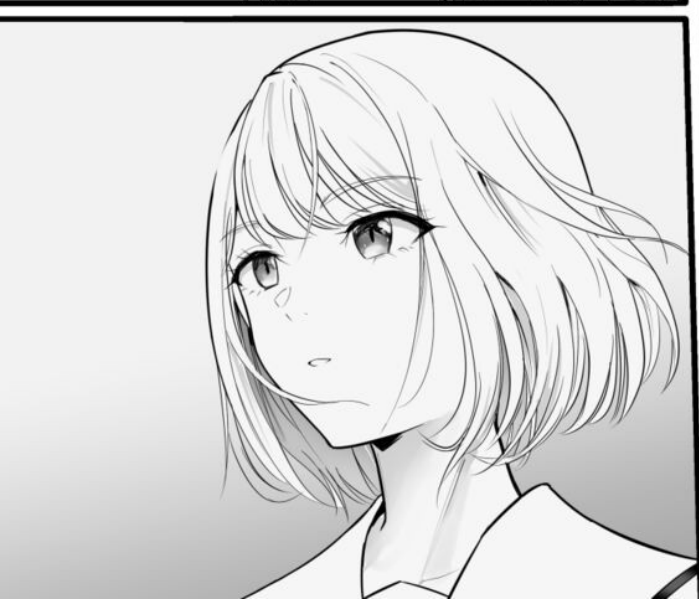
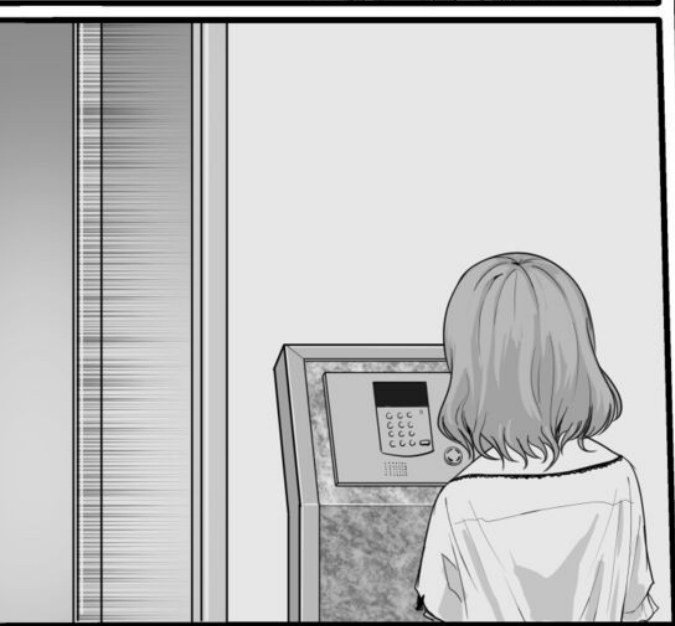


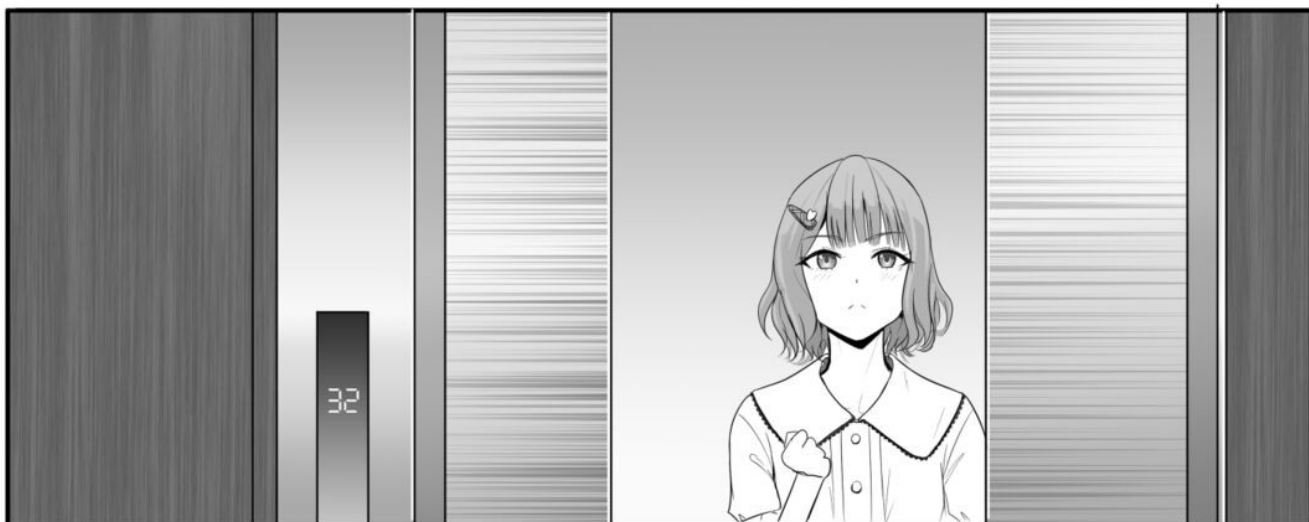






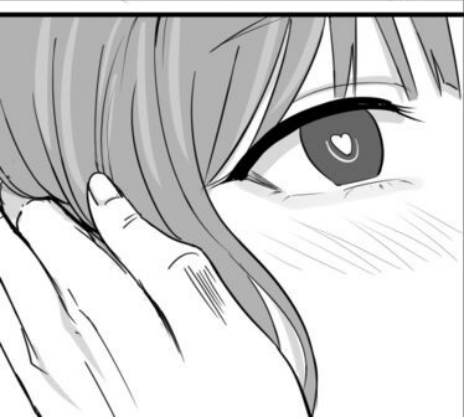


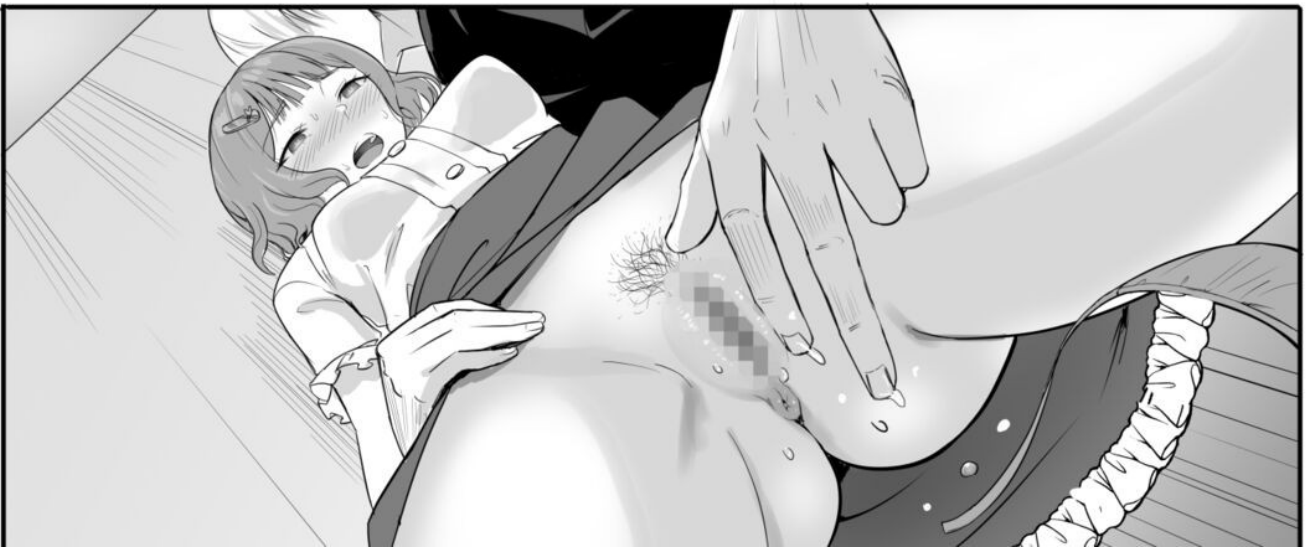
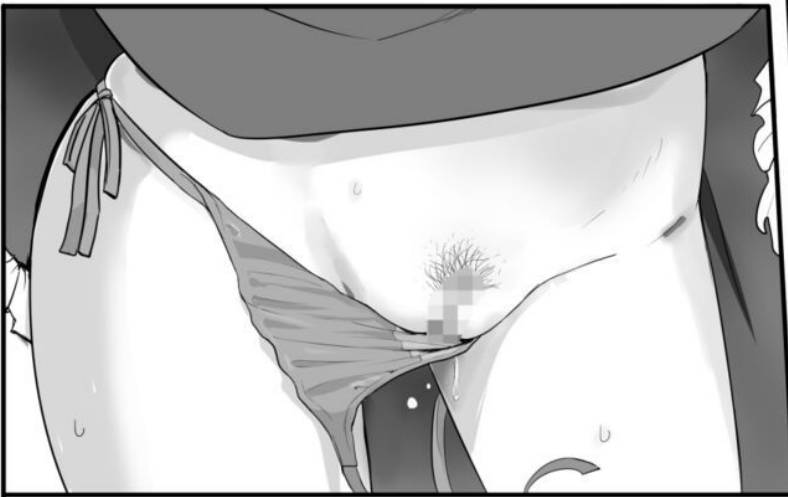
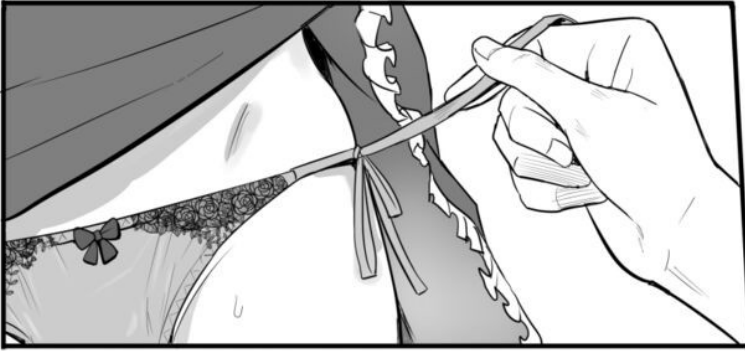


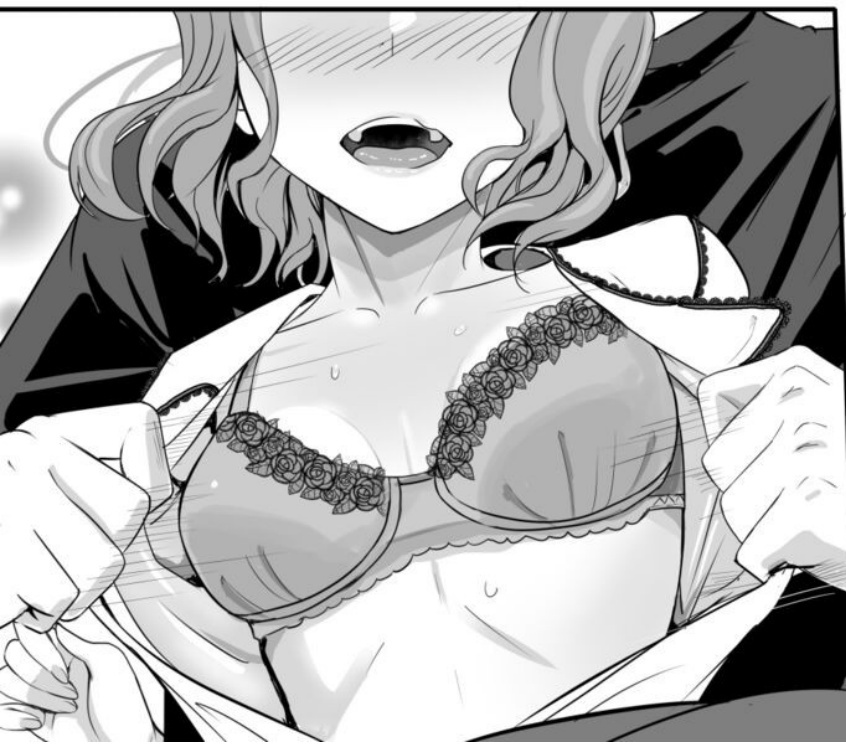
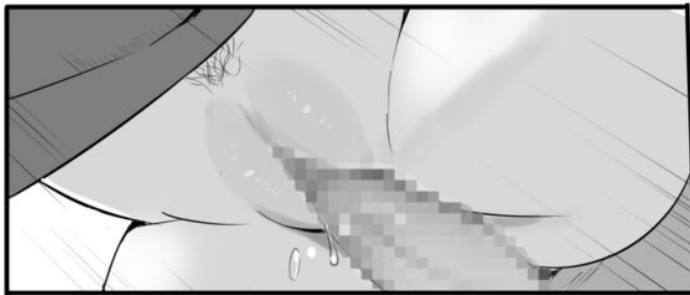


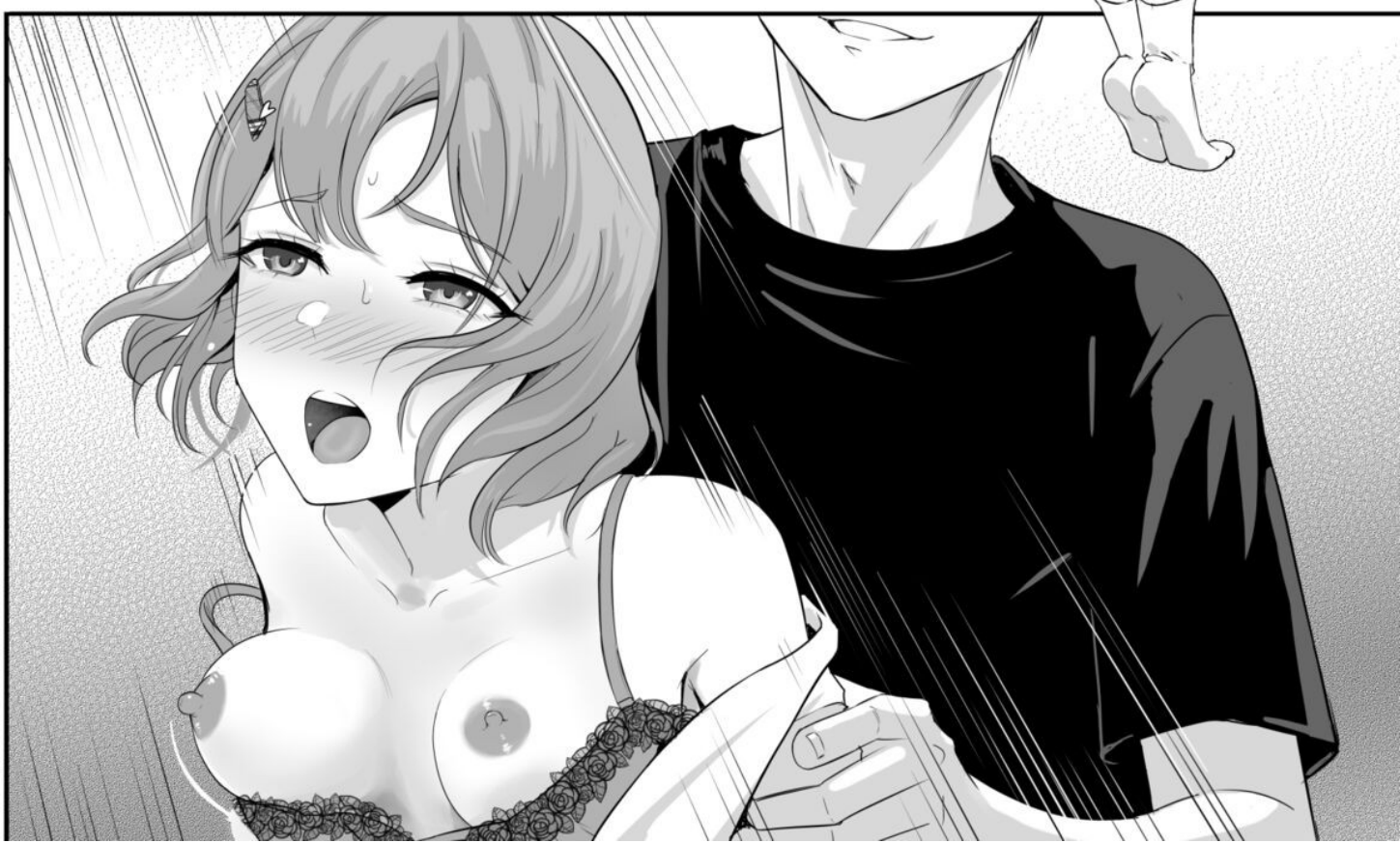
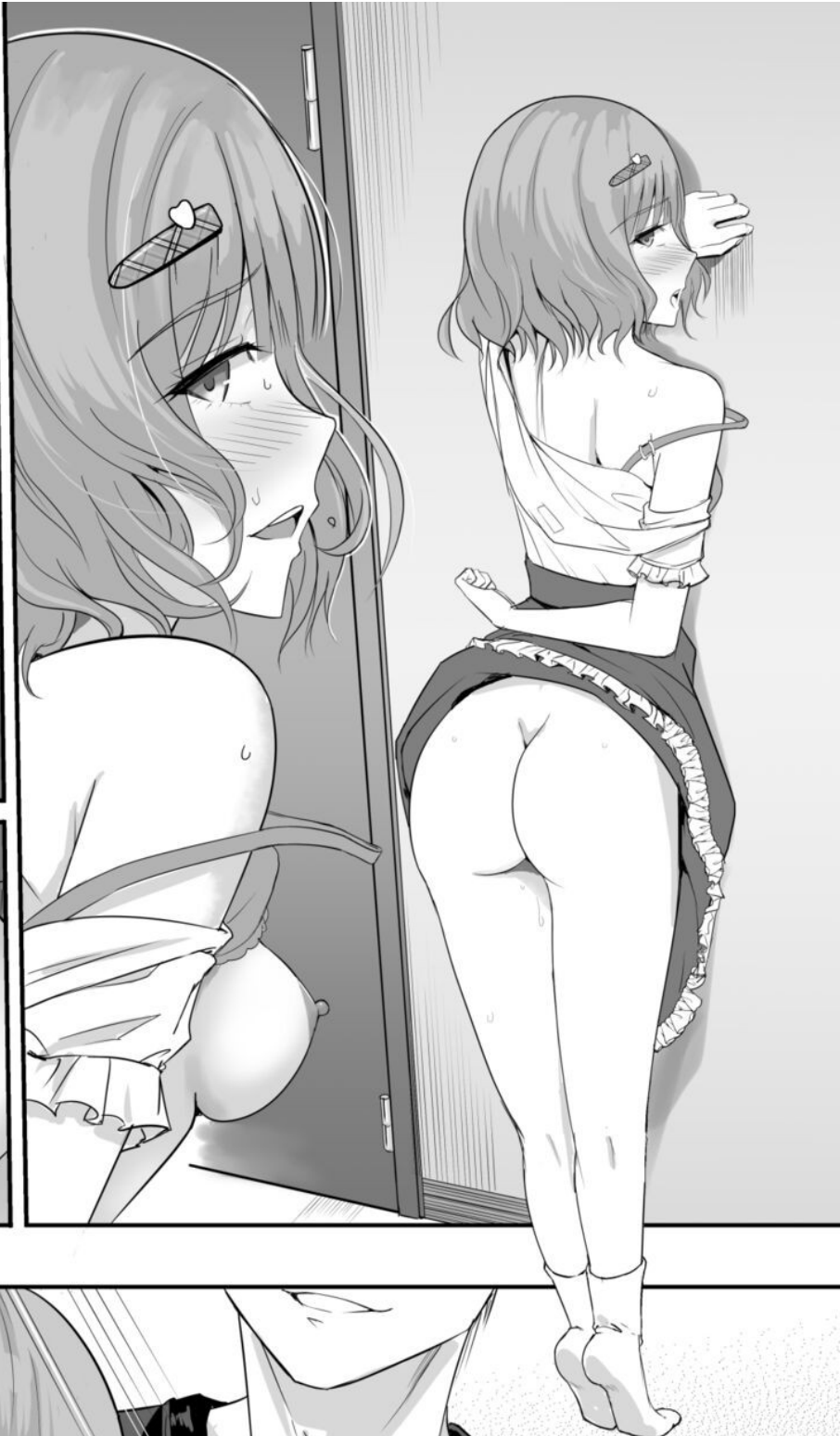
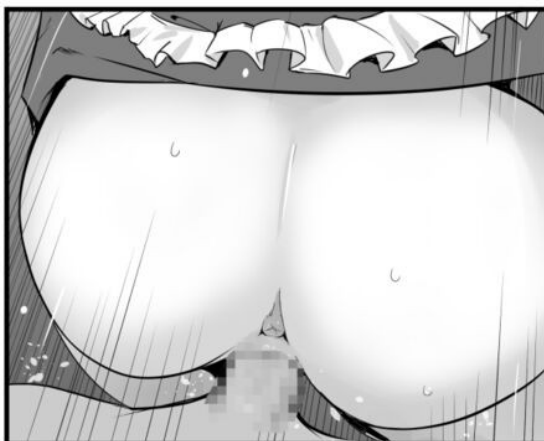


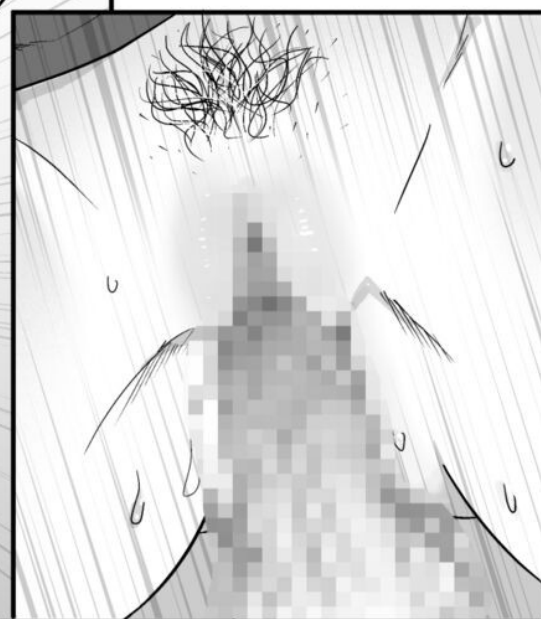




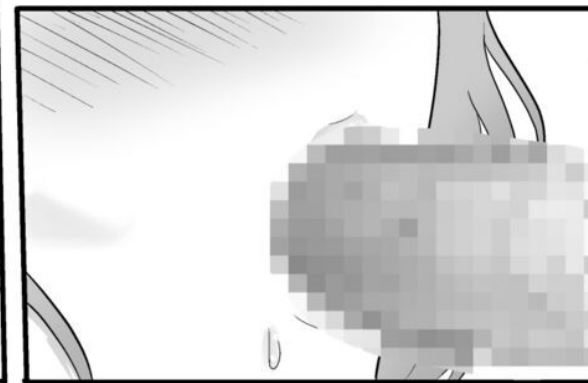


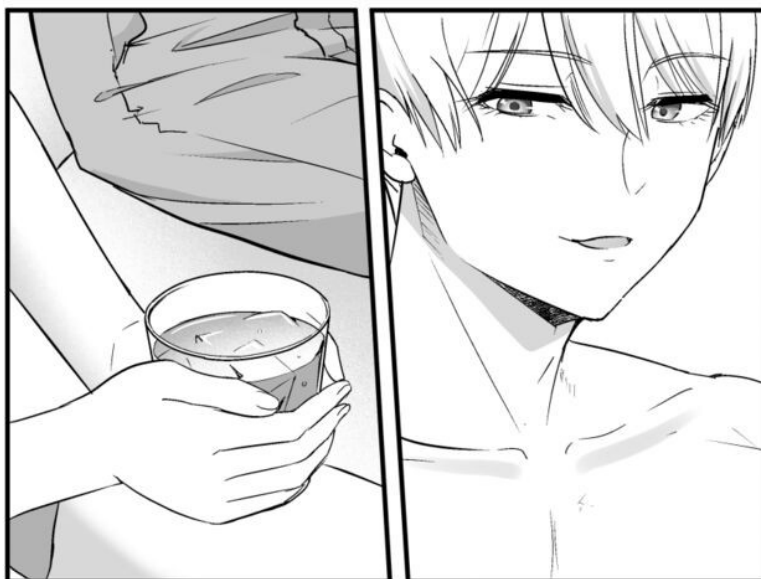
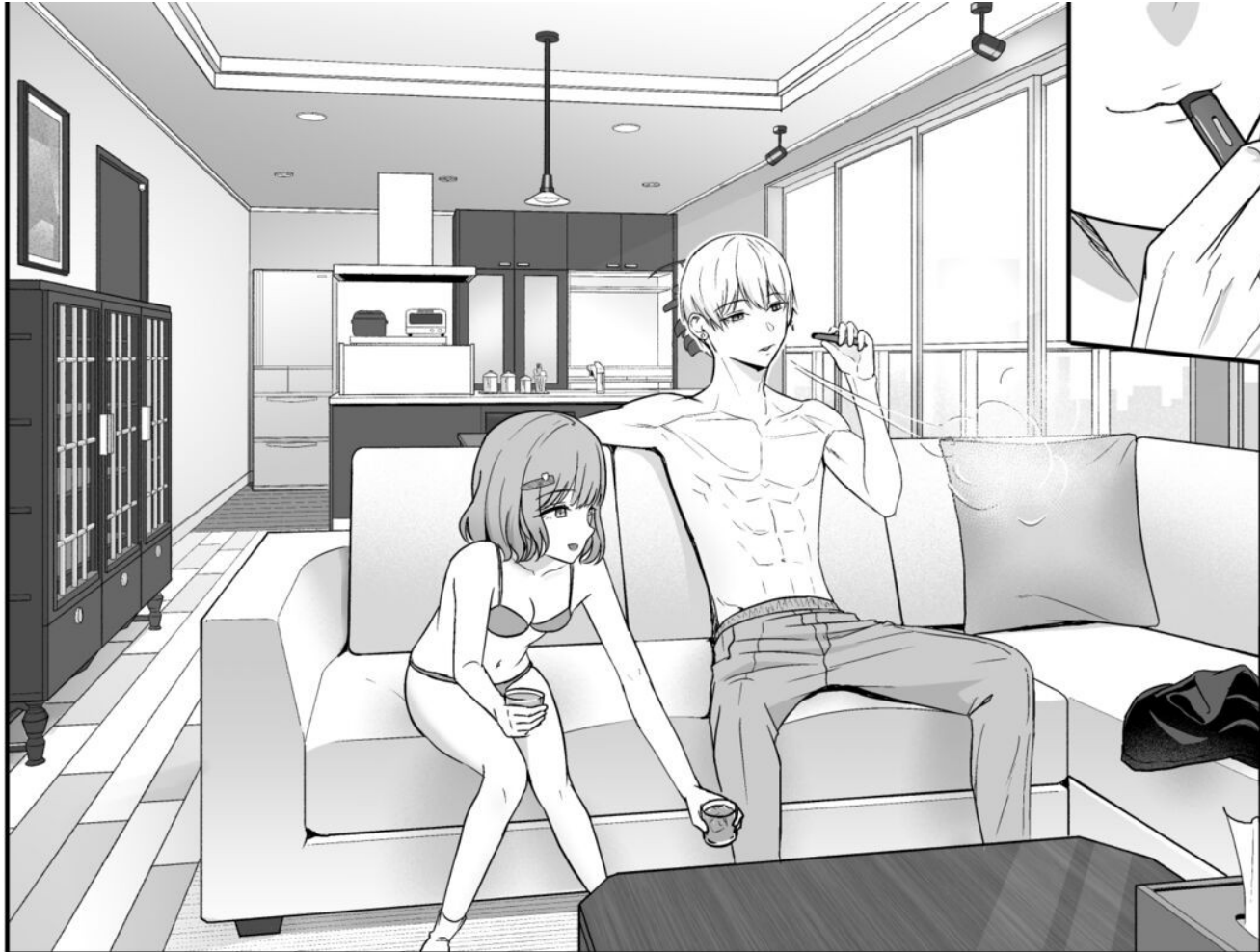


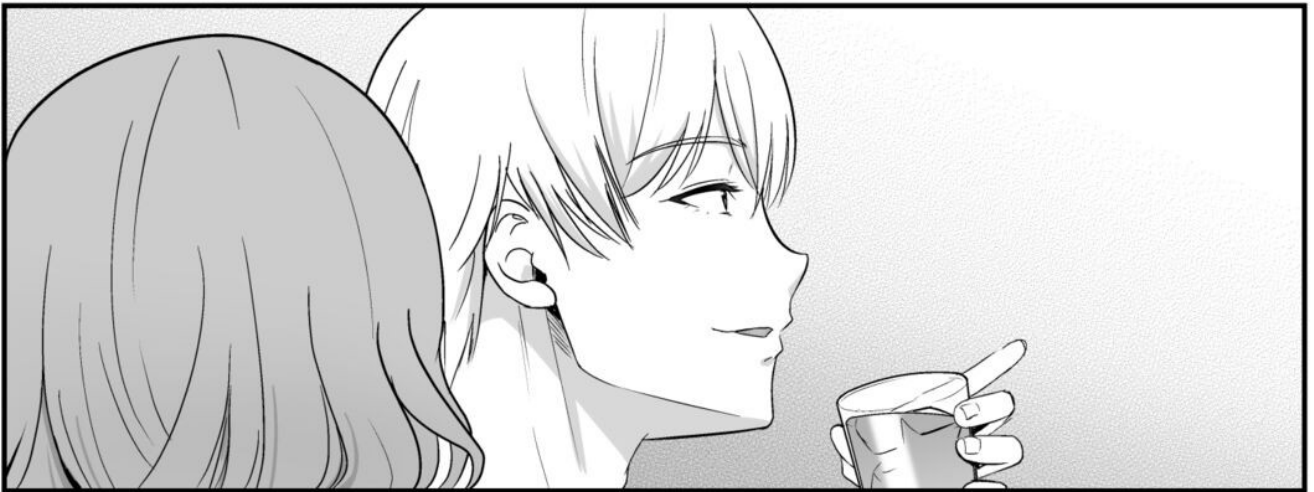
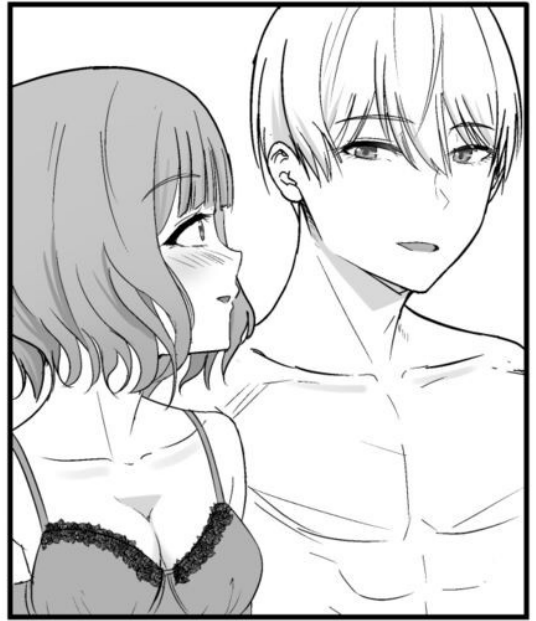


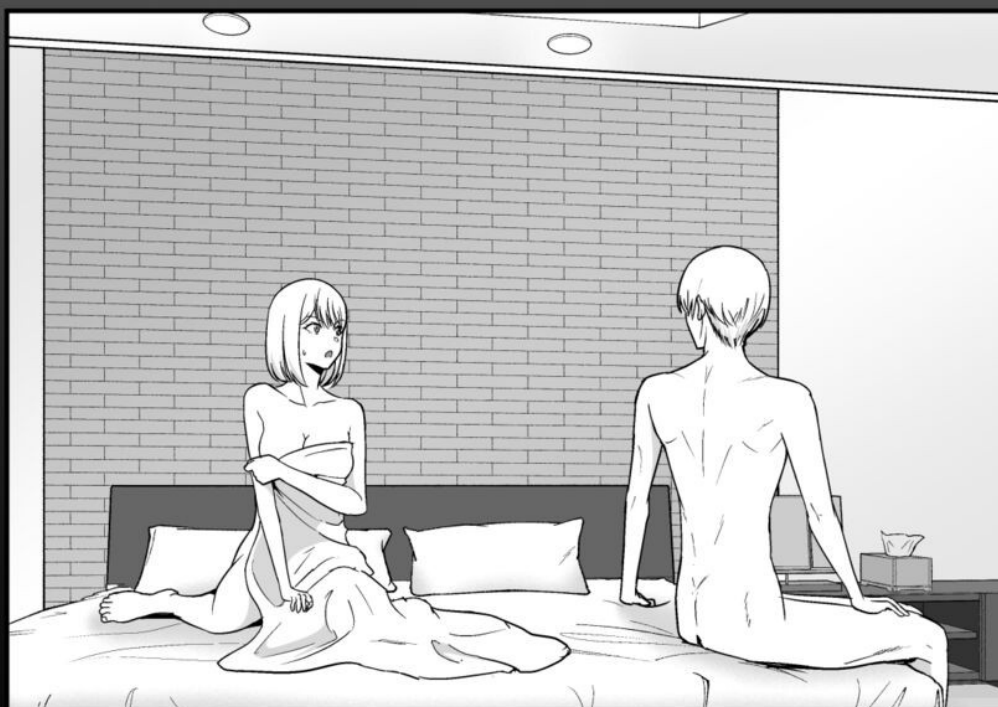
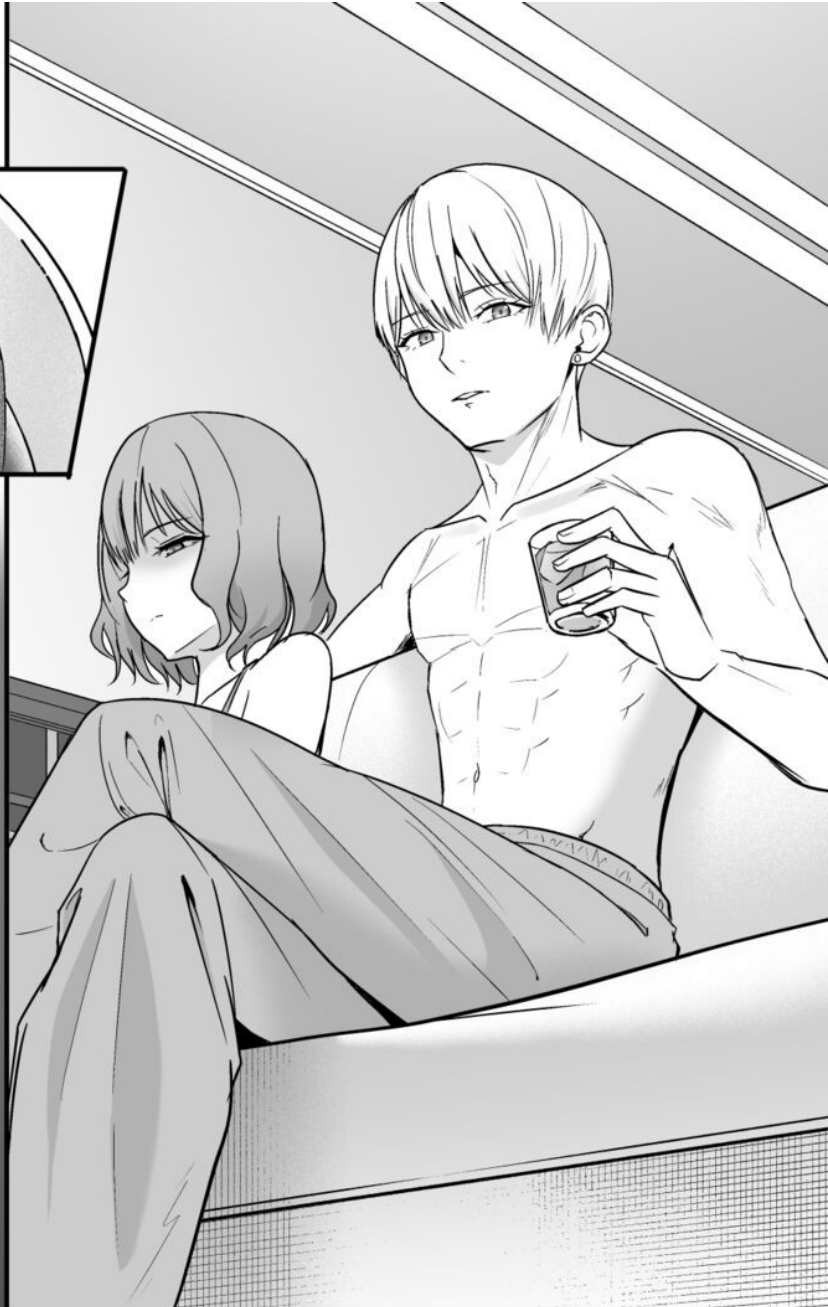
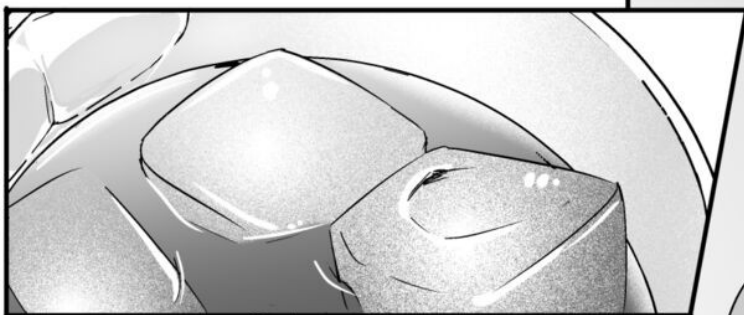


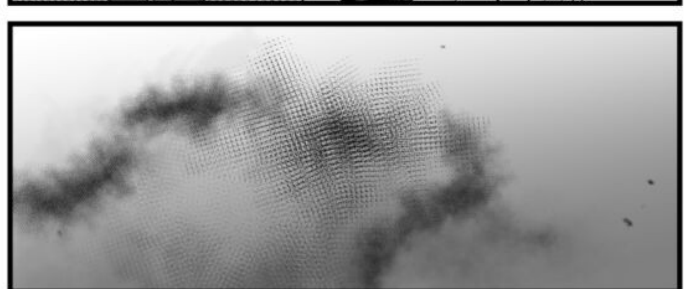
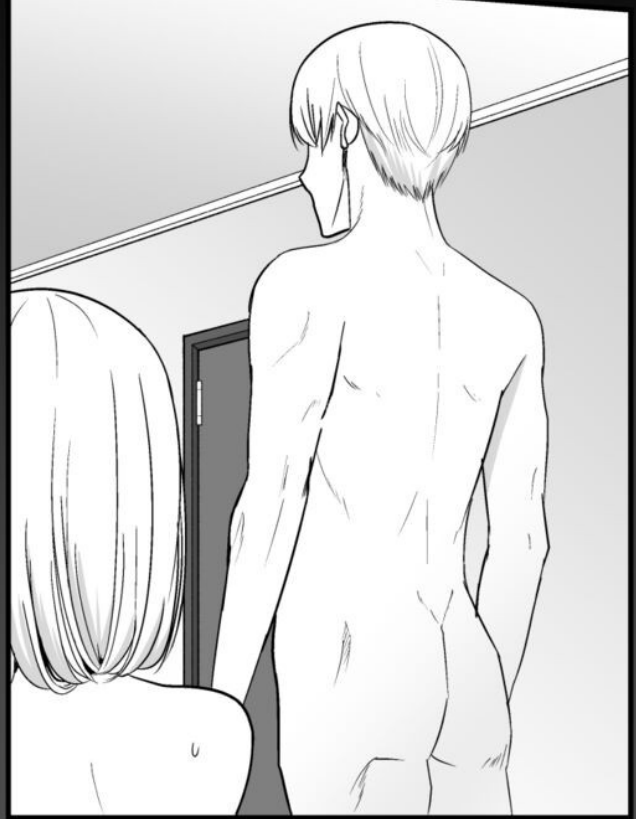
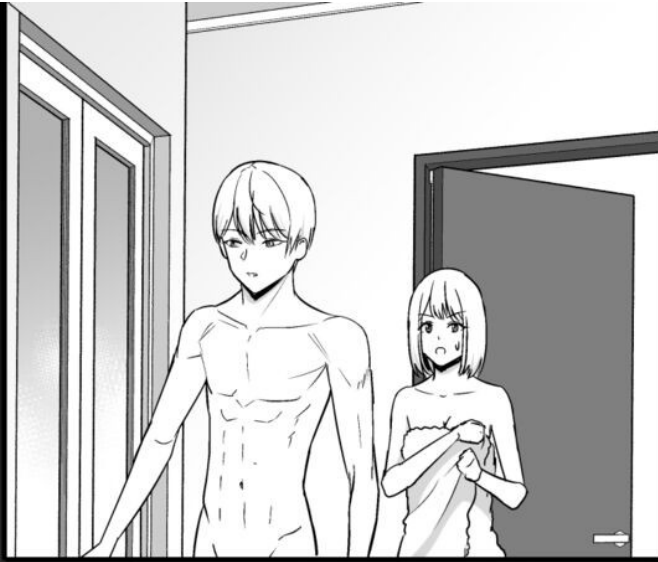


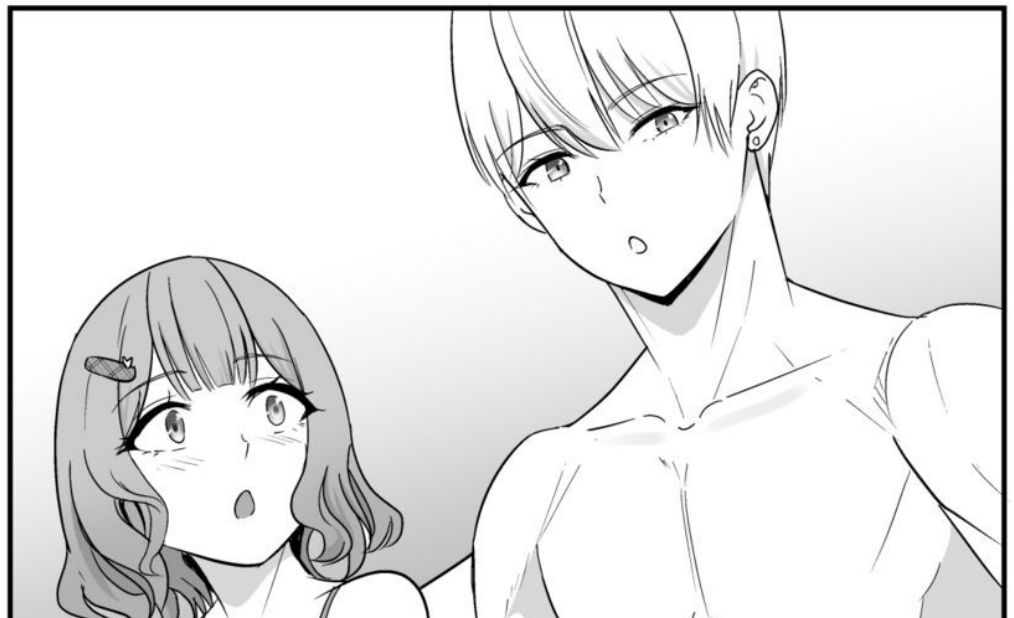
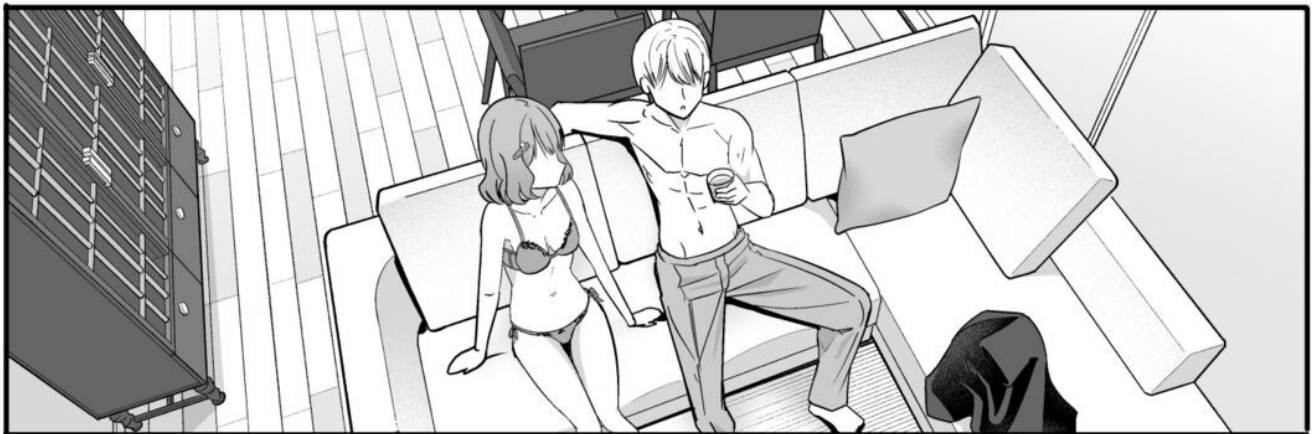


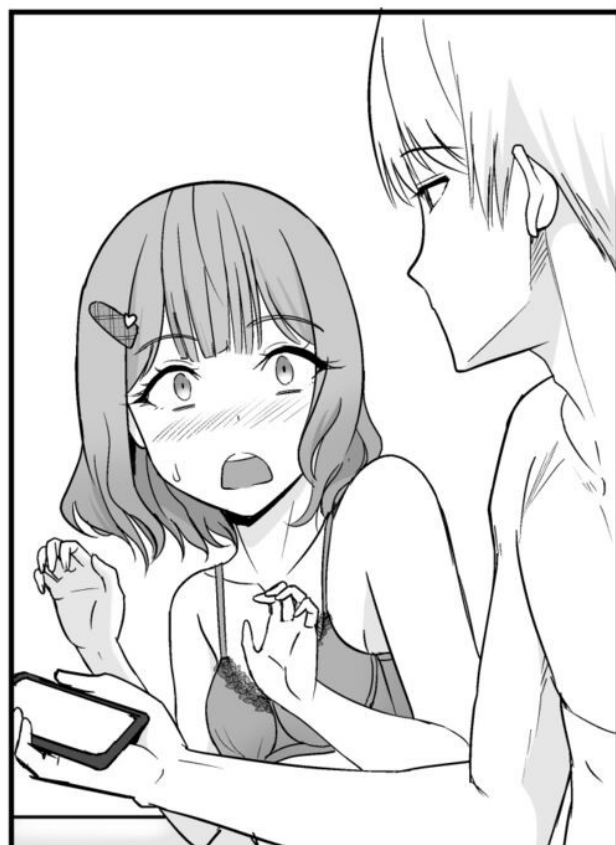




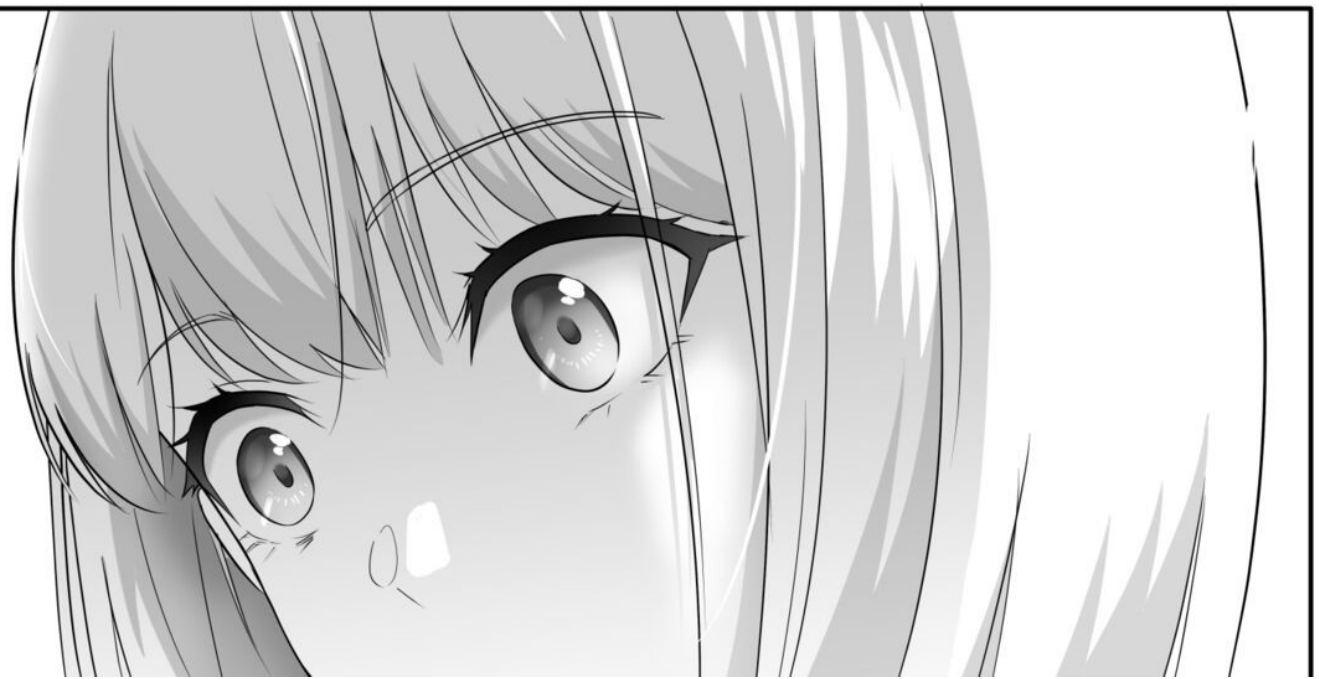
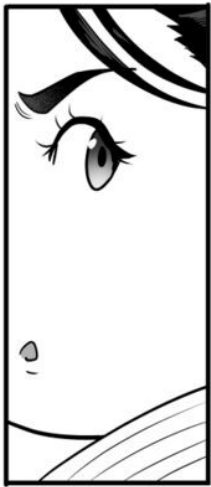
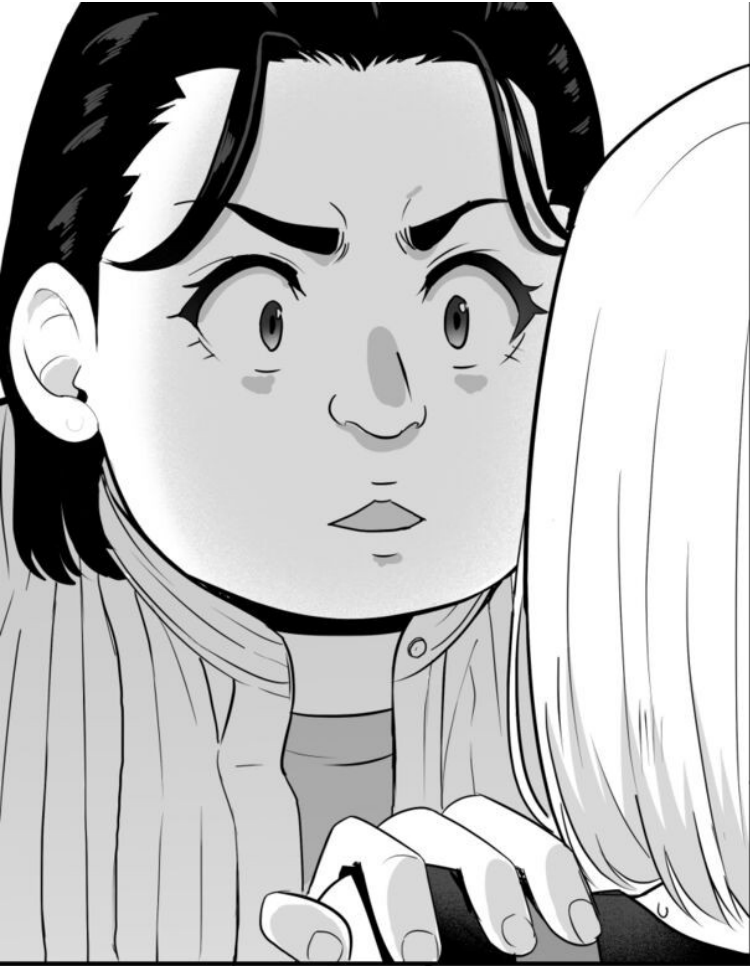




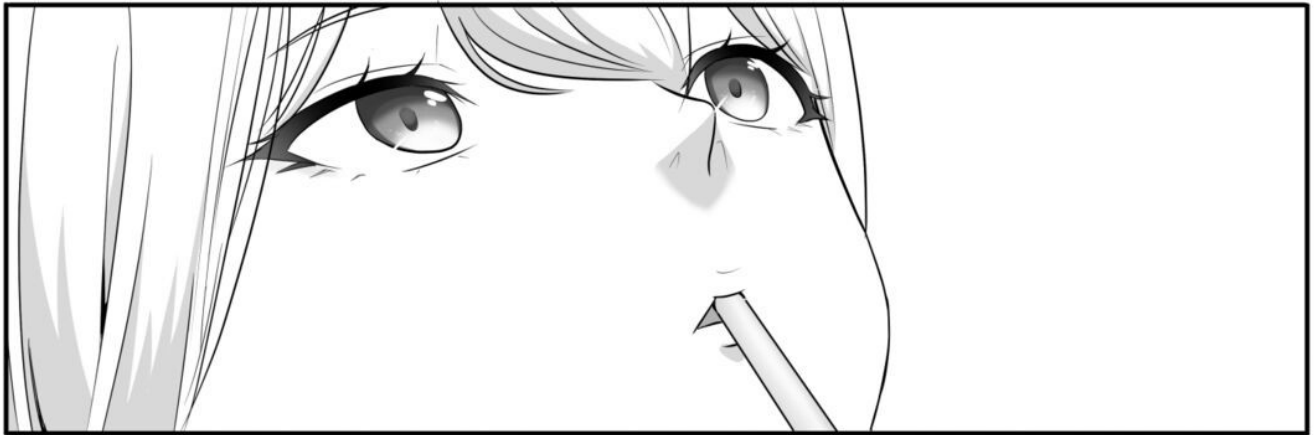
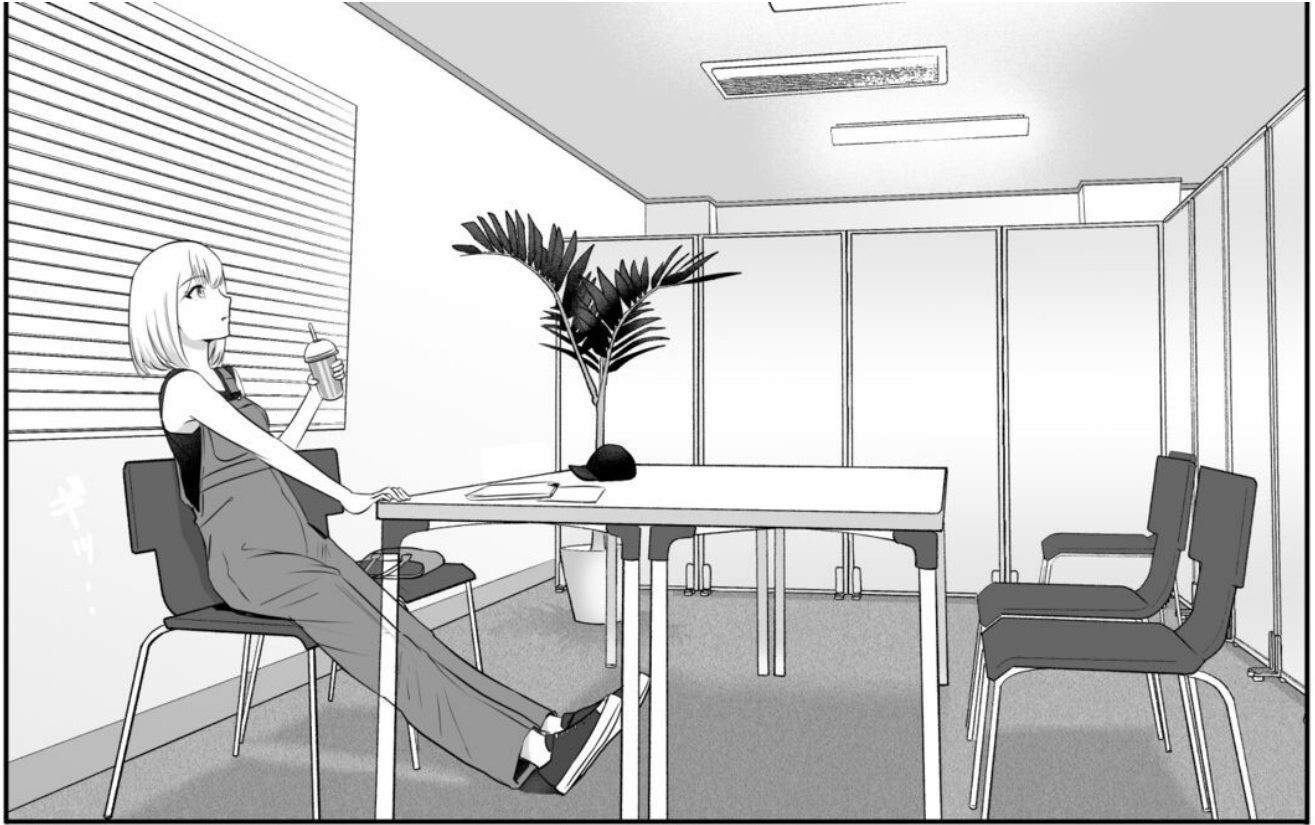


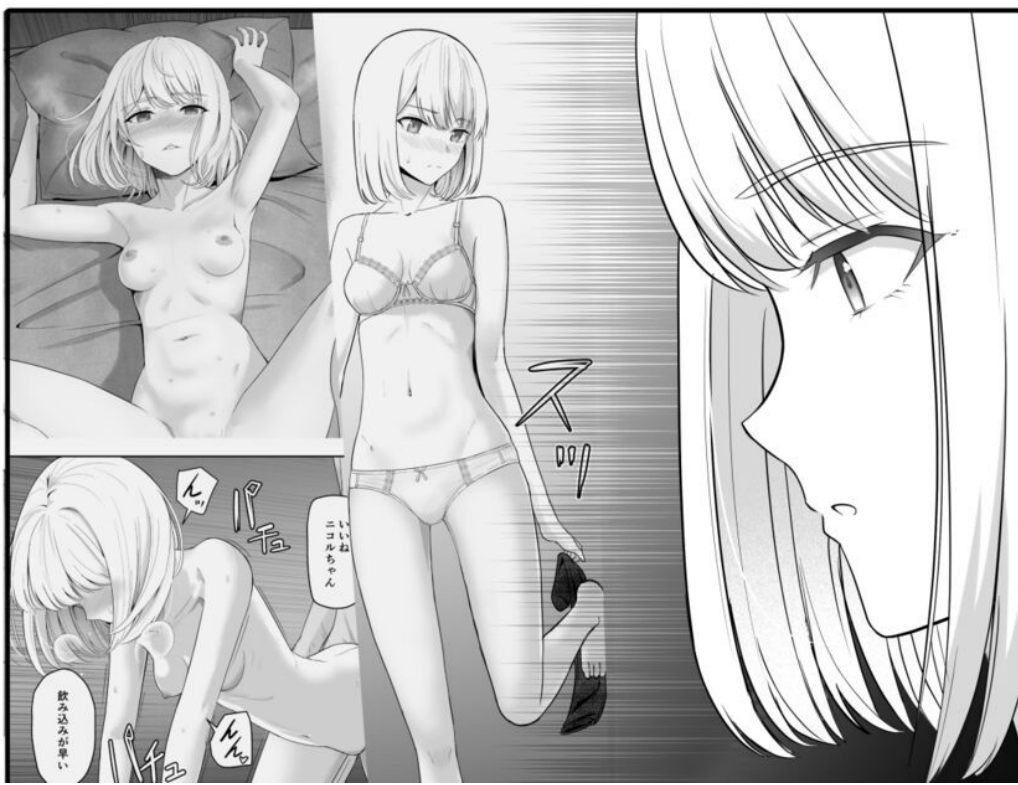
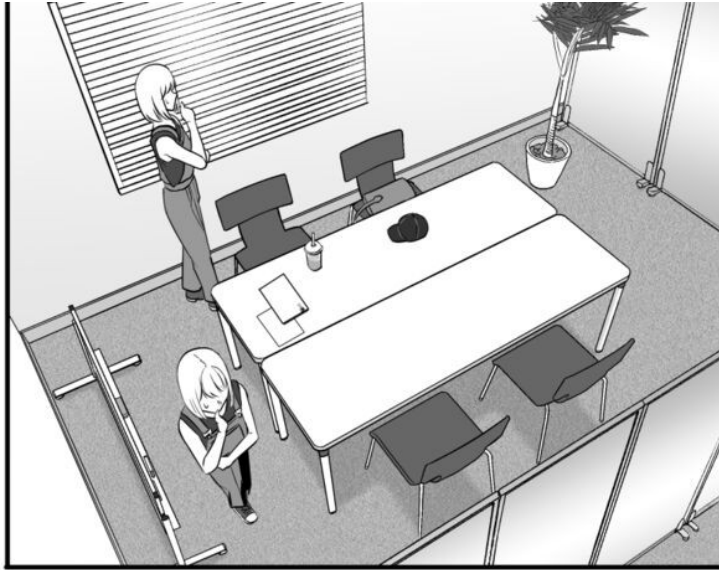


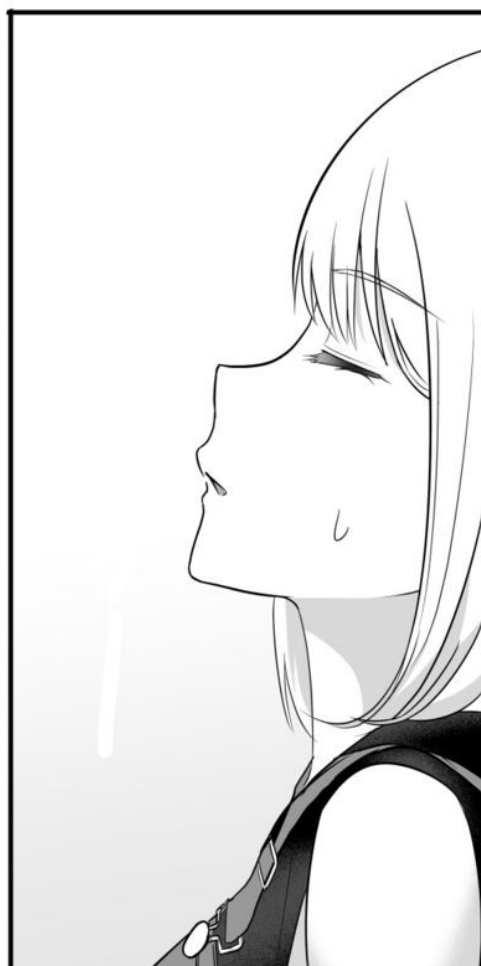
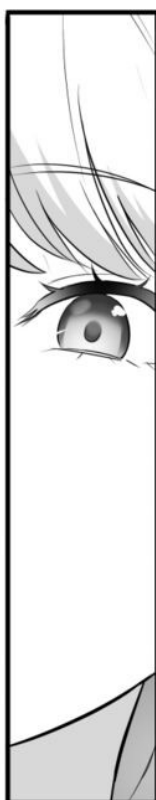
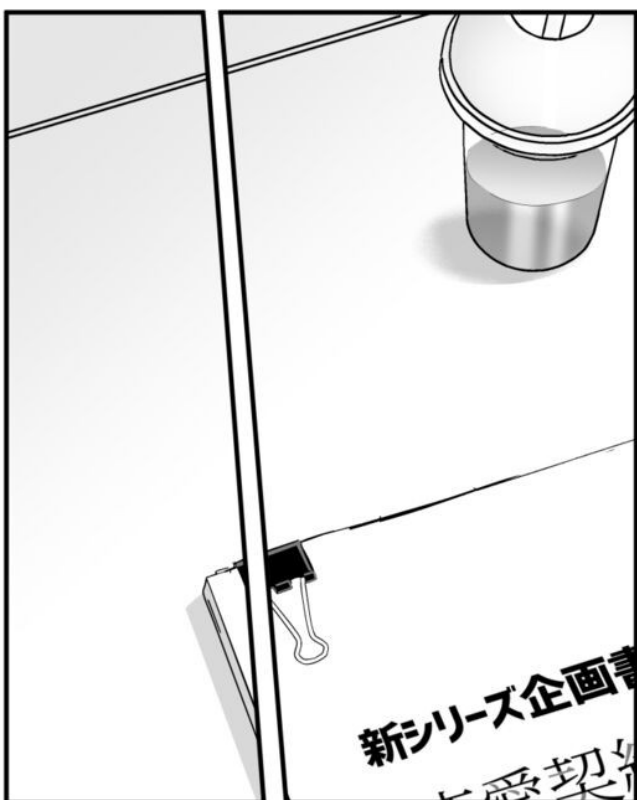
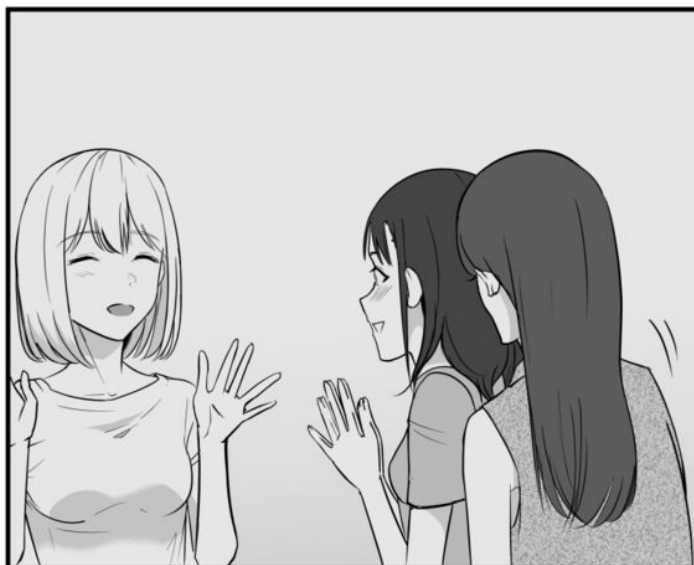
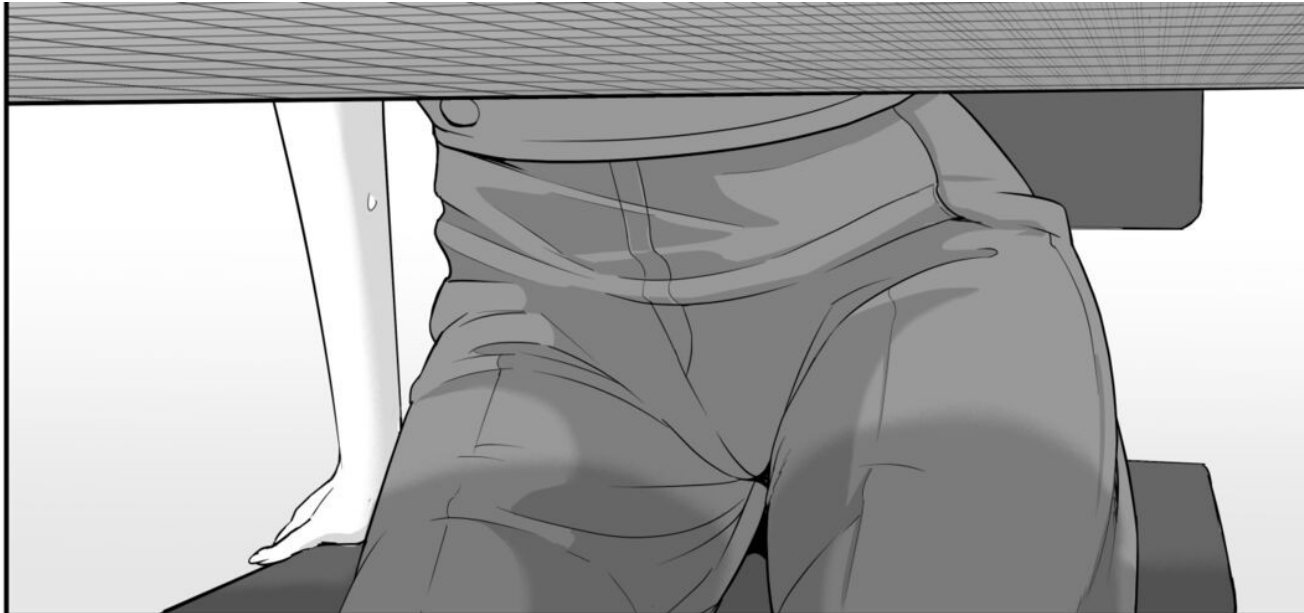






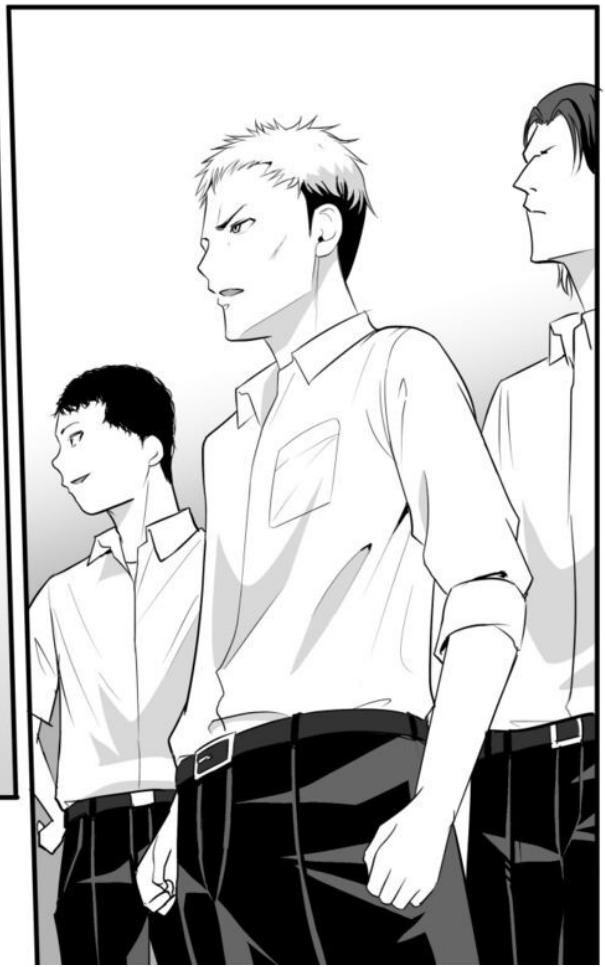
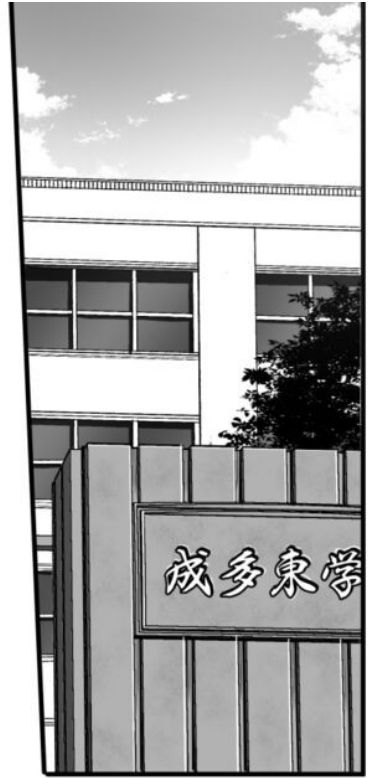


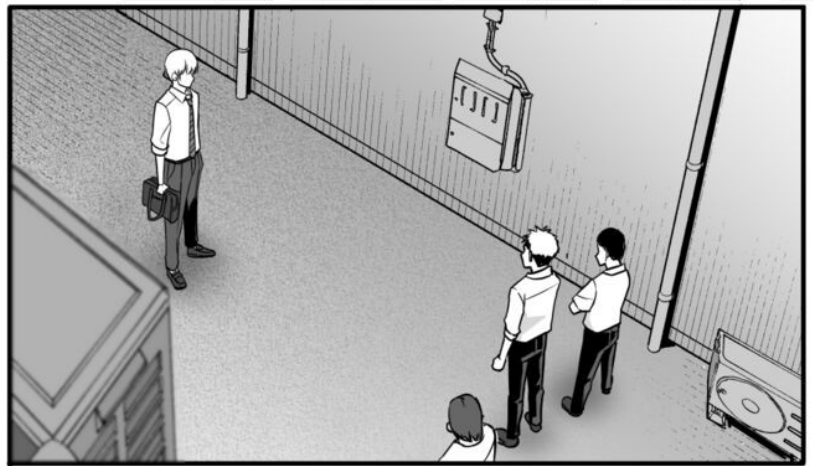
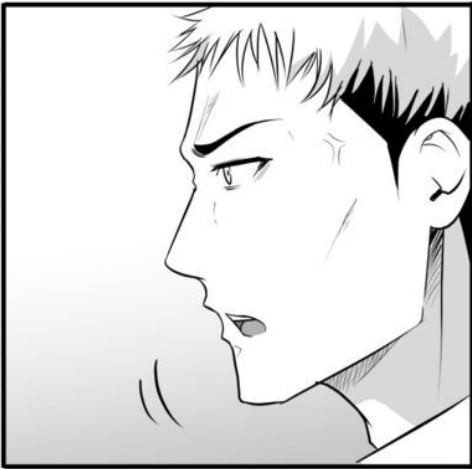


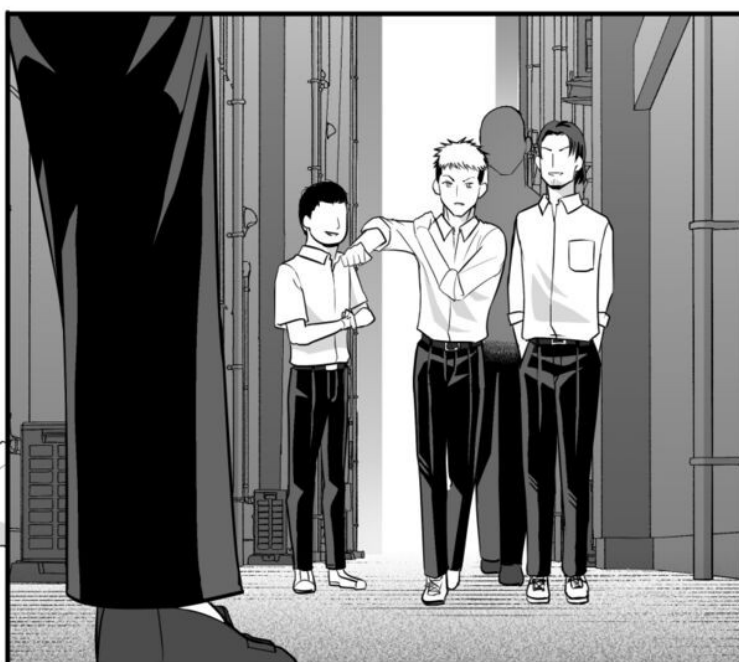


君がため。

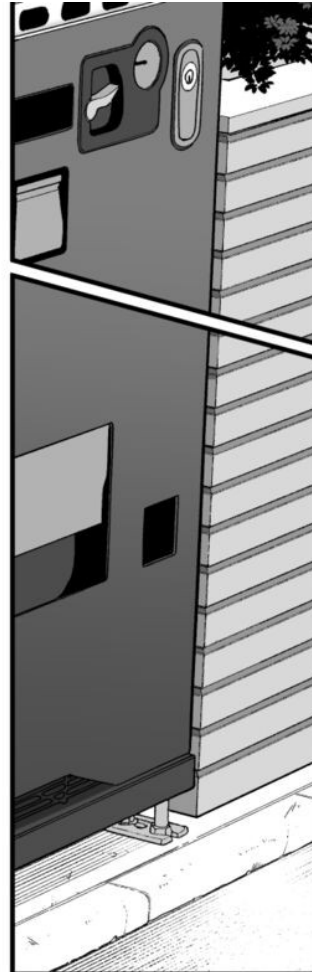
CHAPTER 9

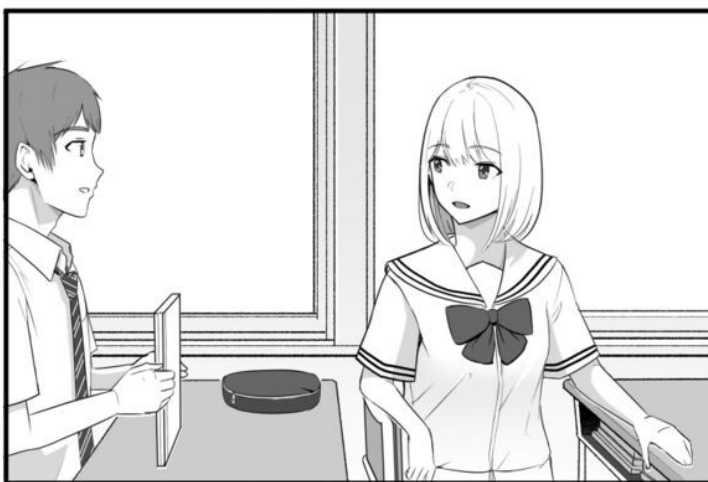
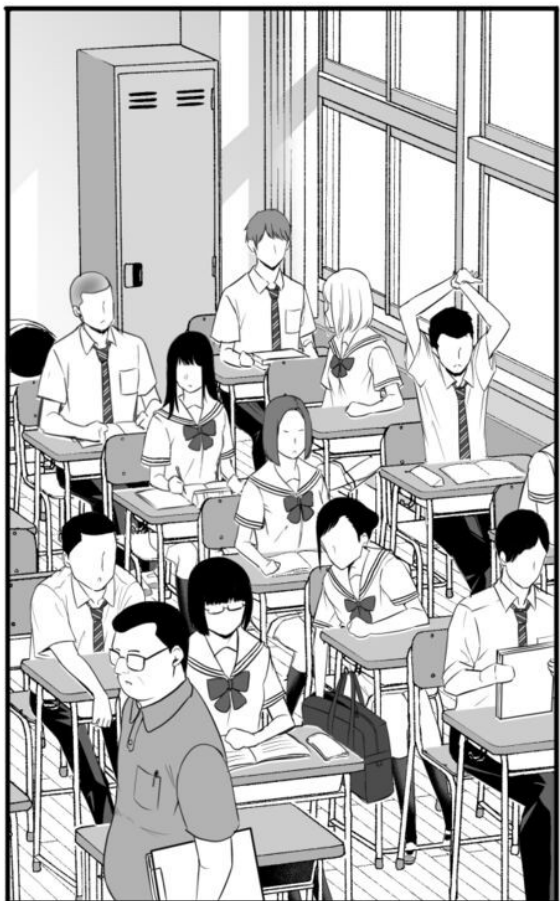


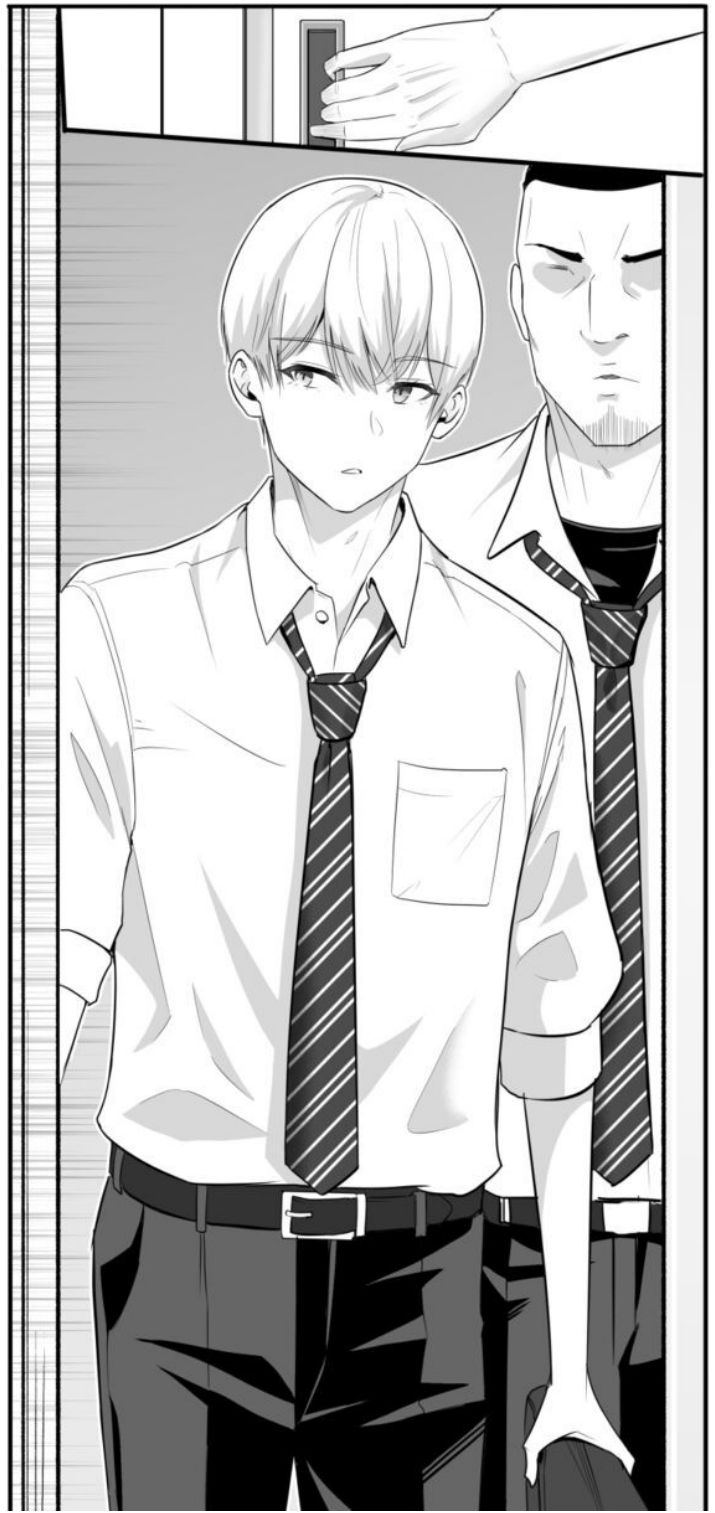
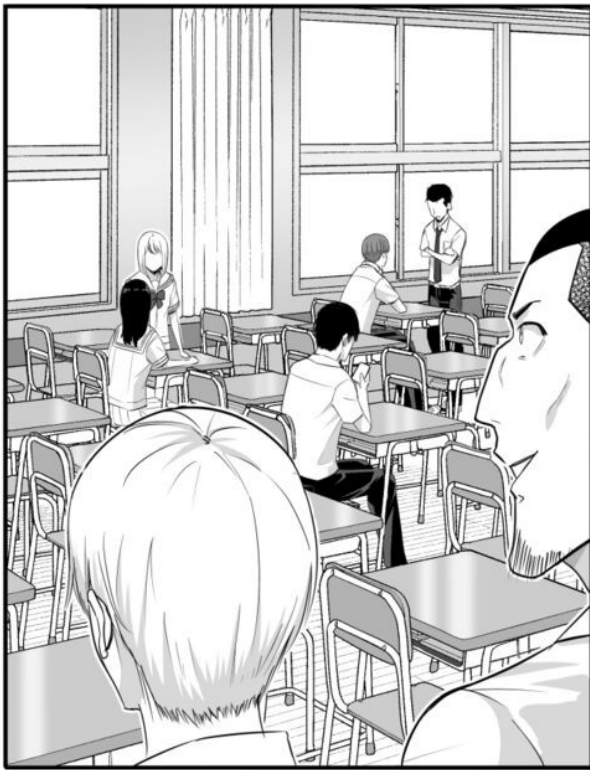


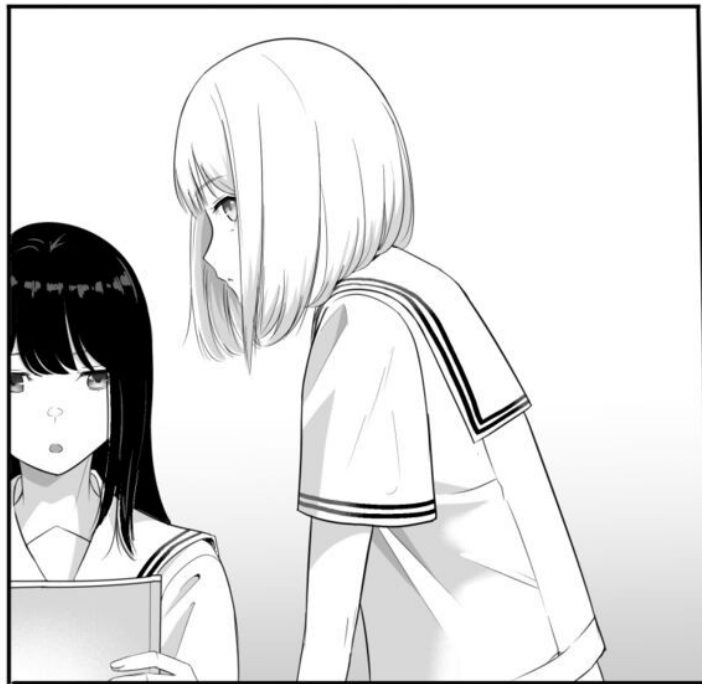
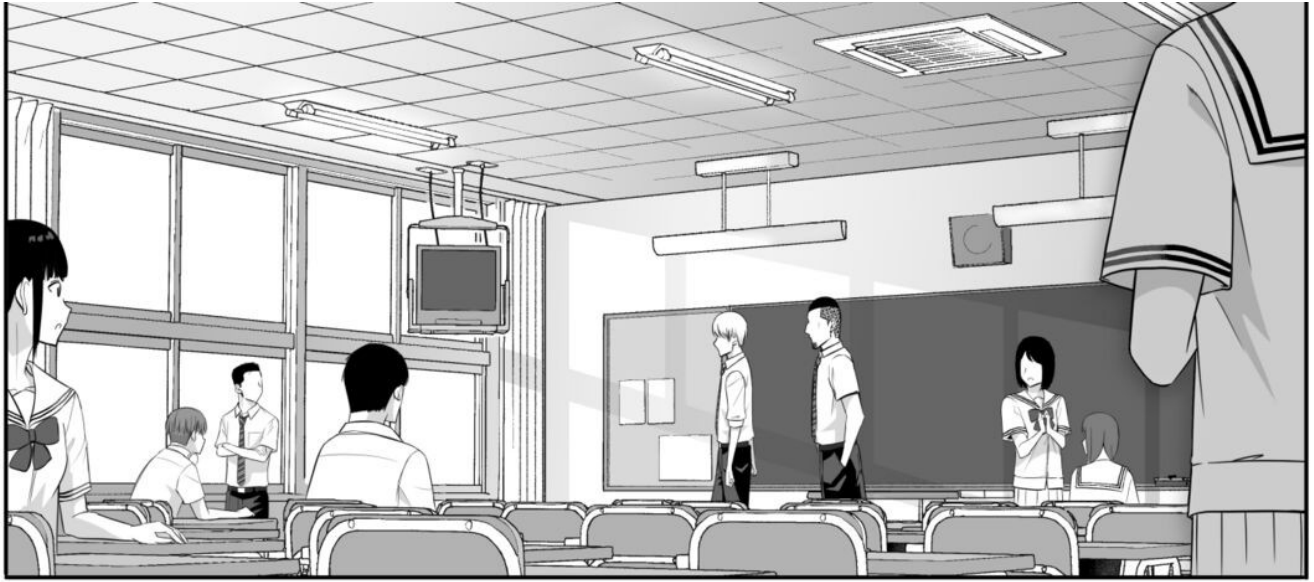


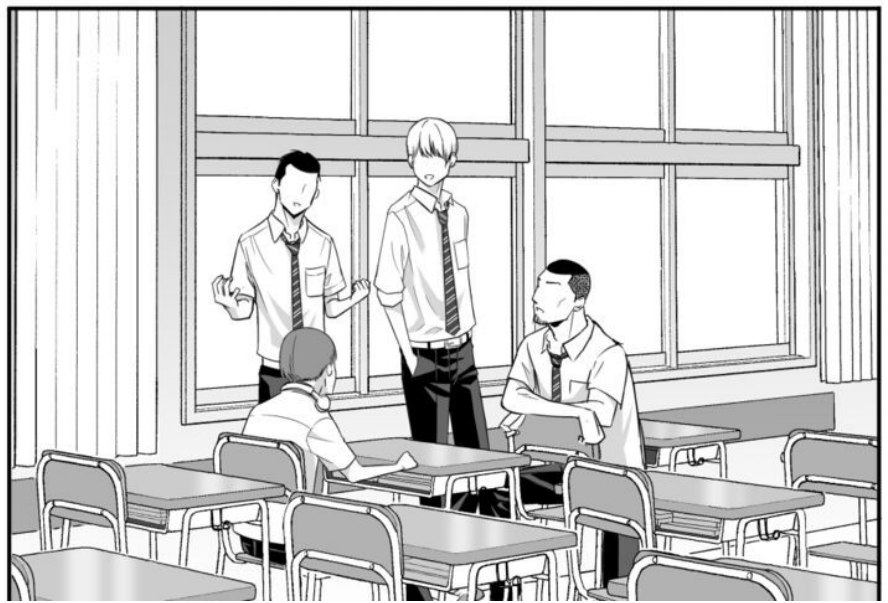
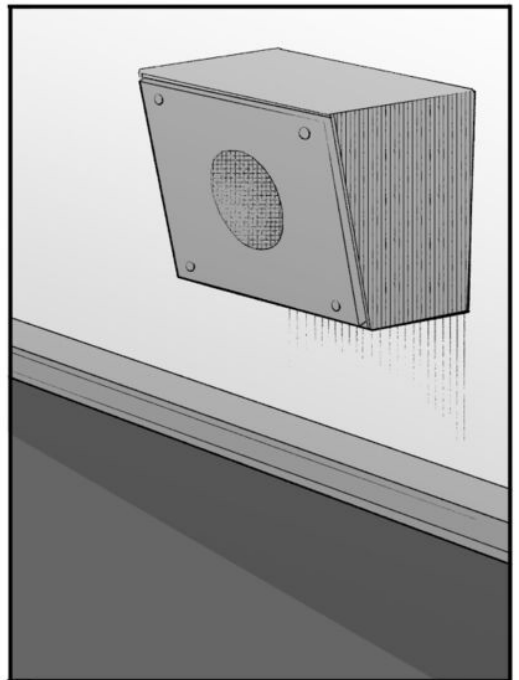
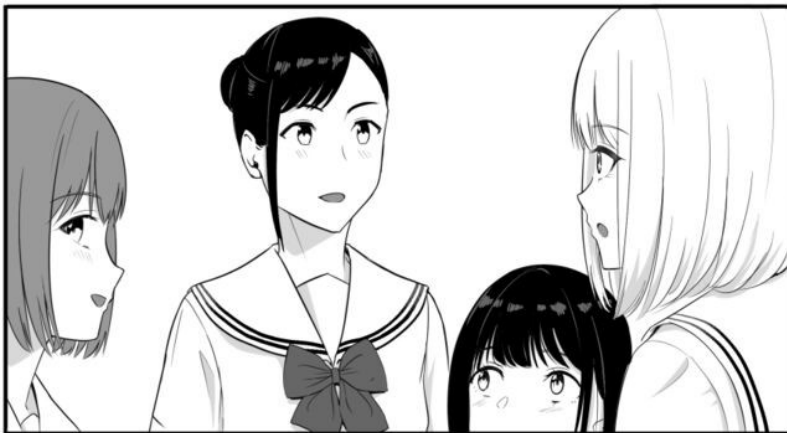
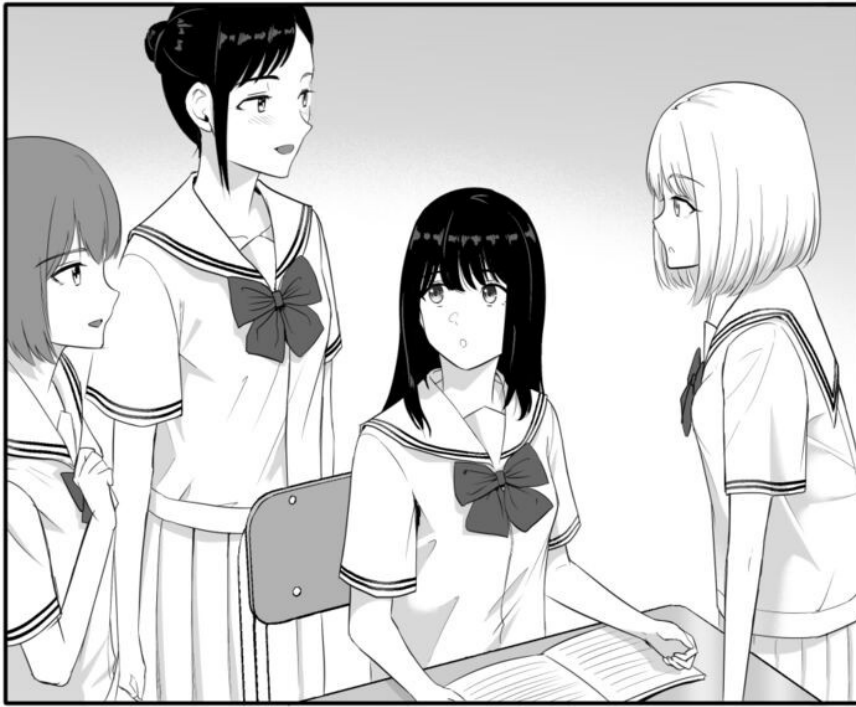


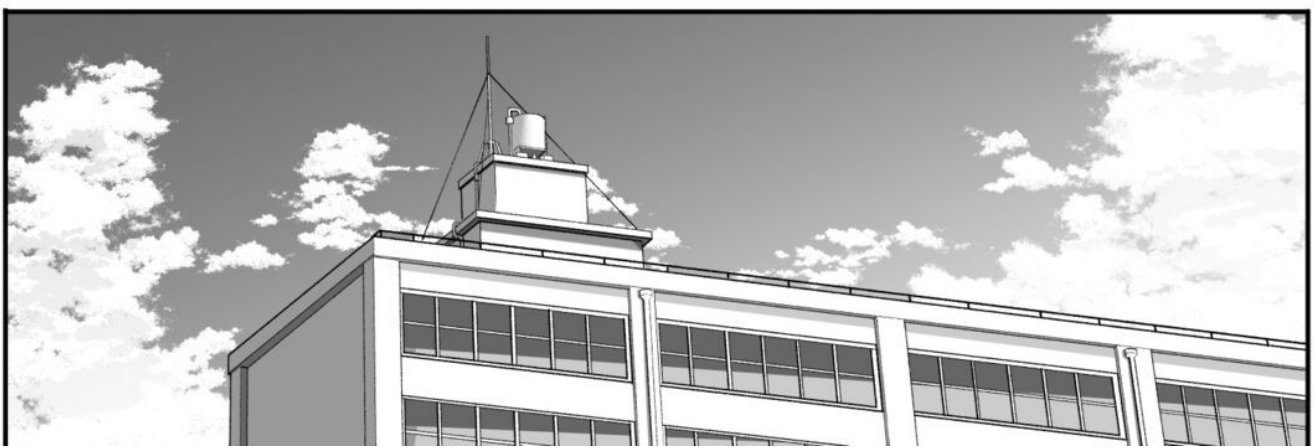
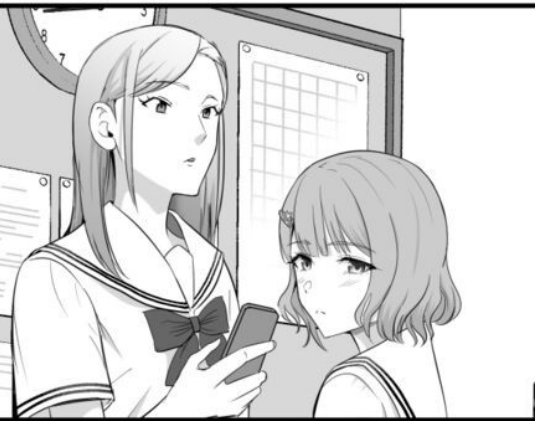
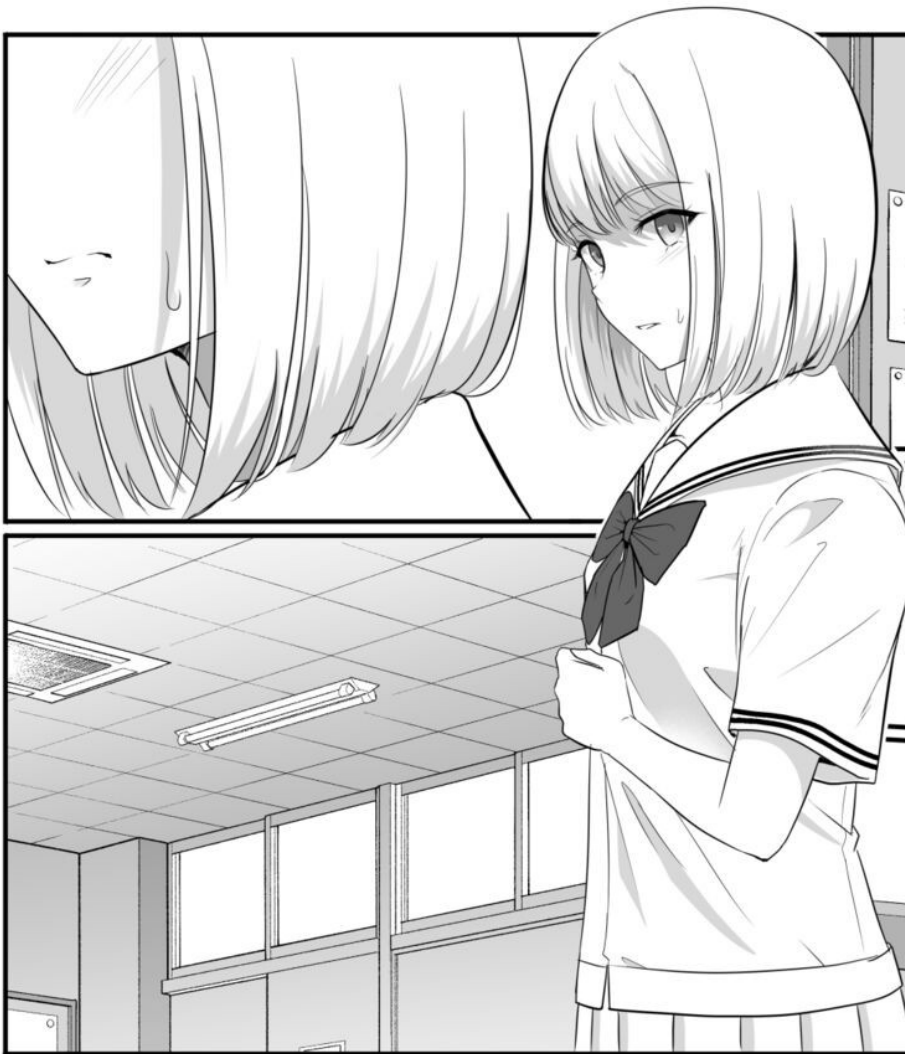
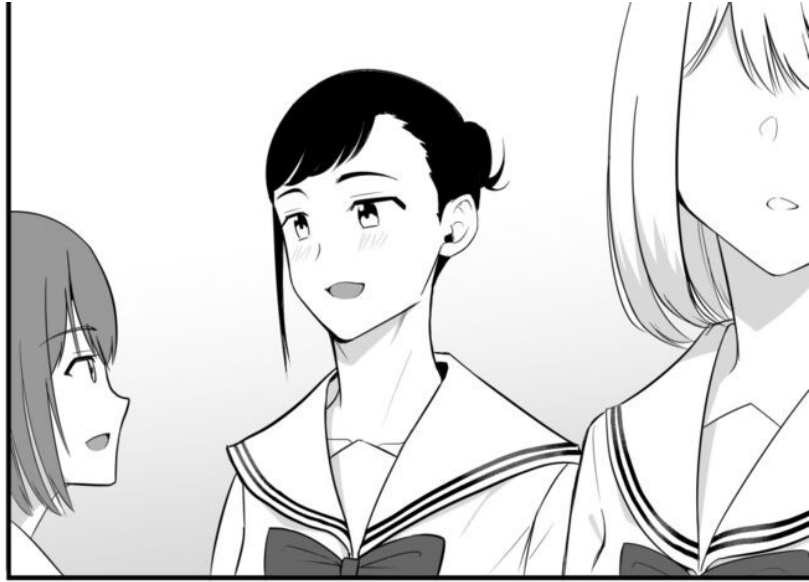


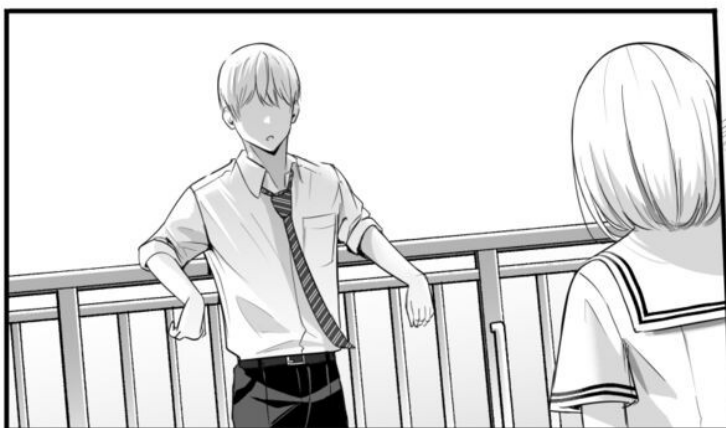
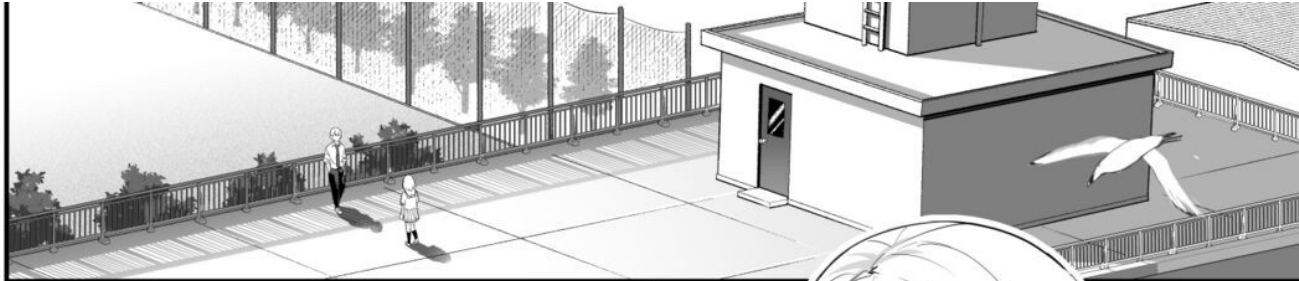


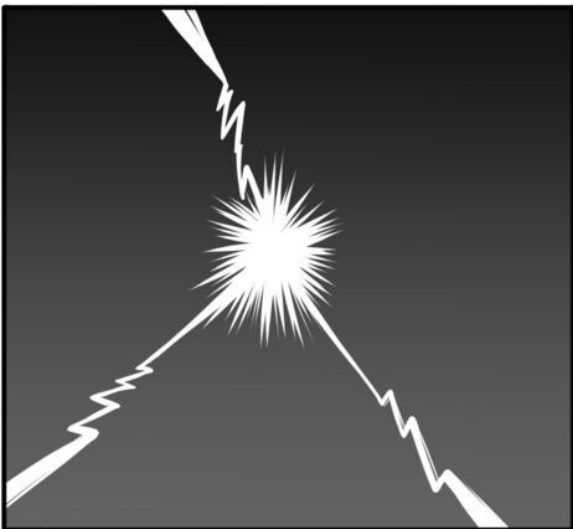
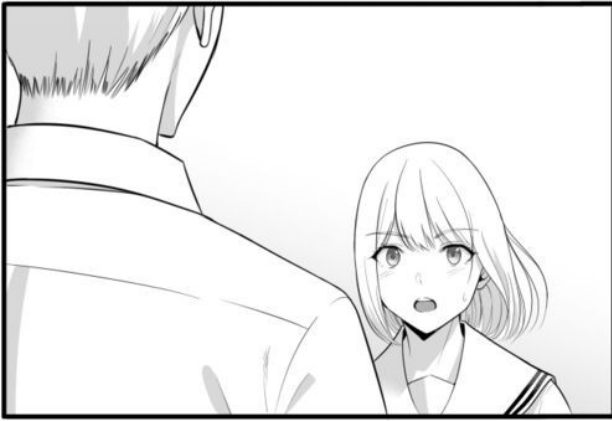


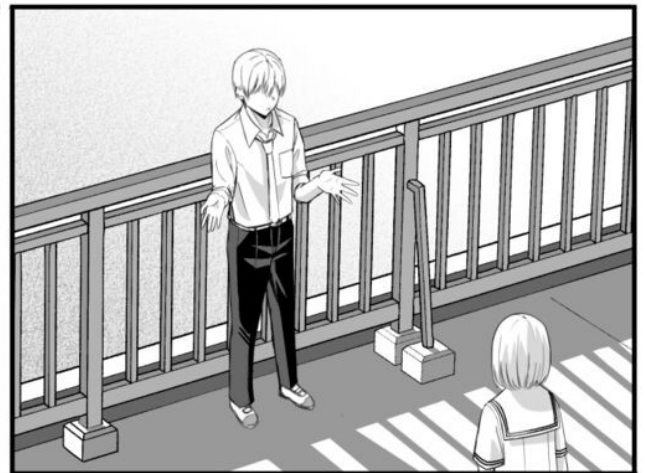
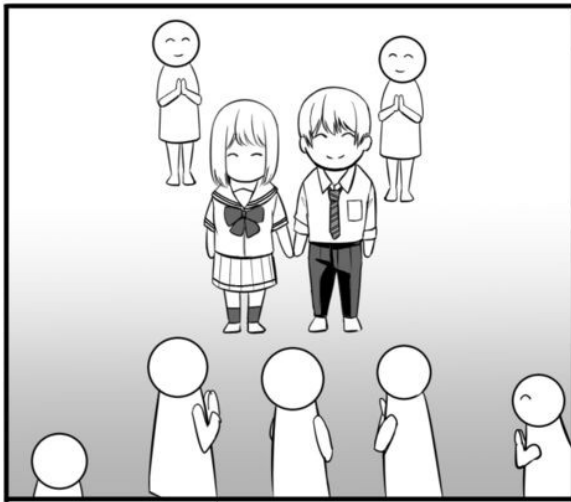


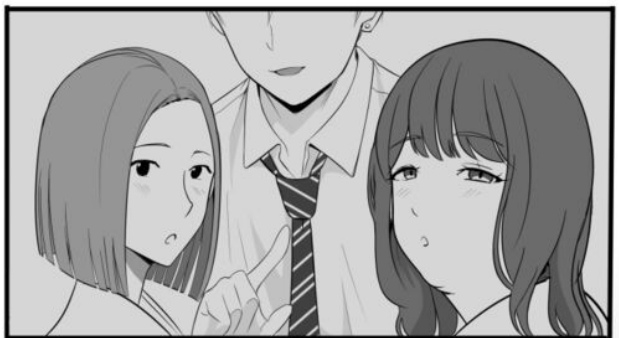
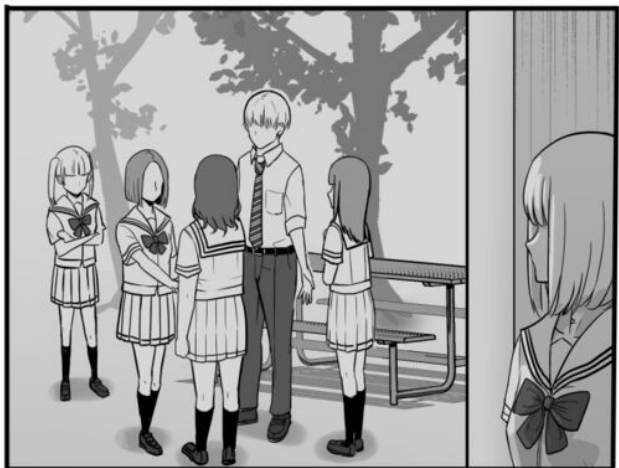


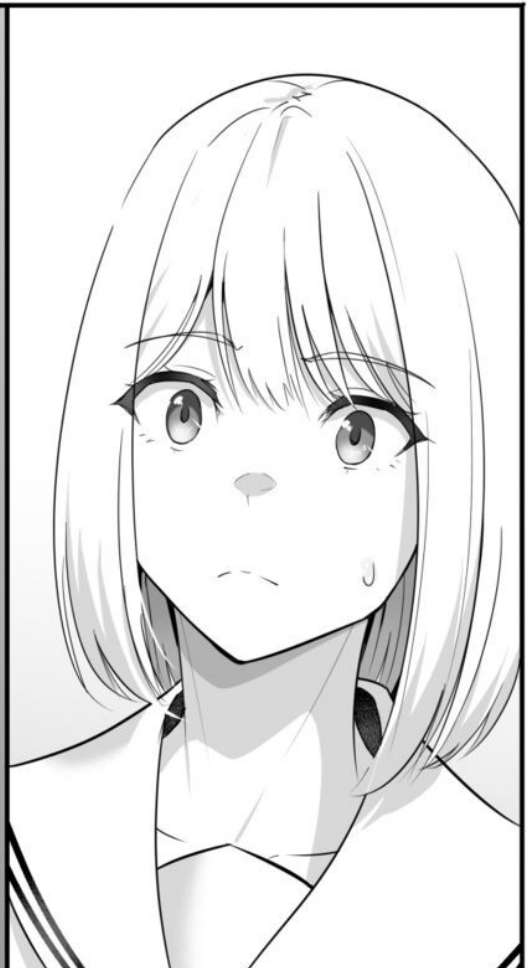
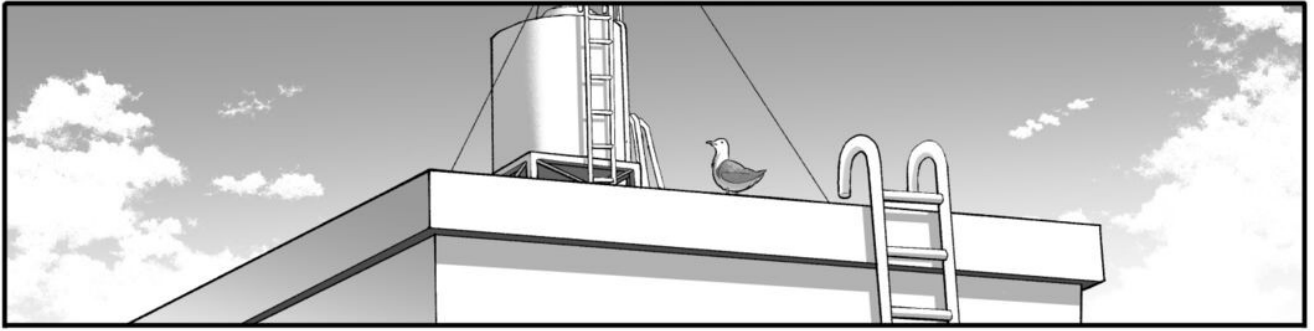


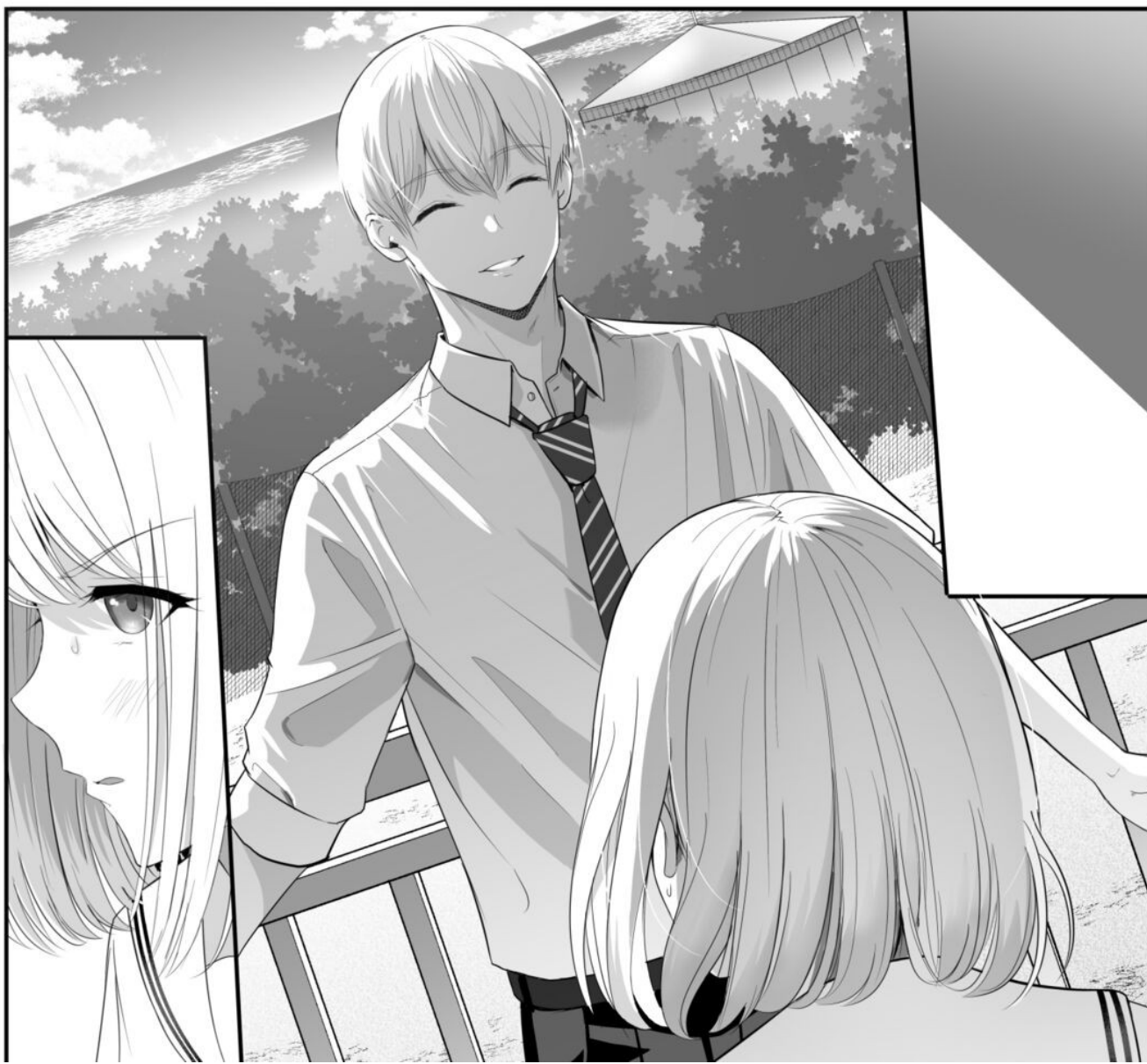




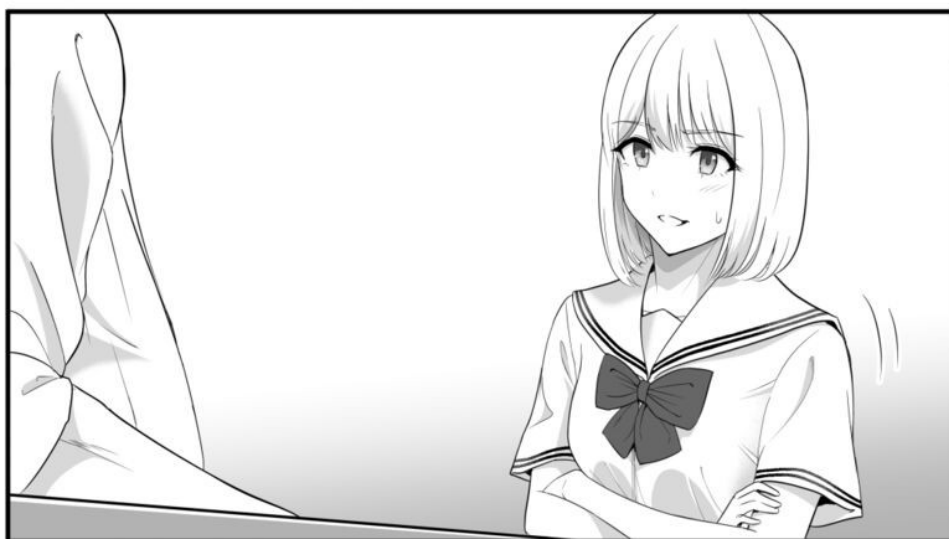
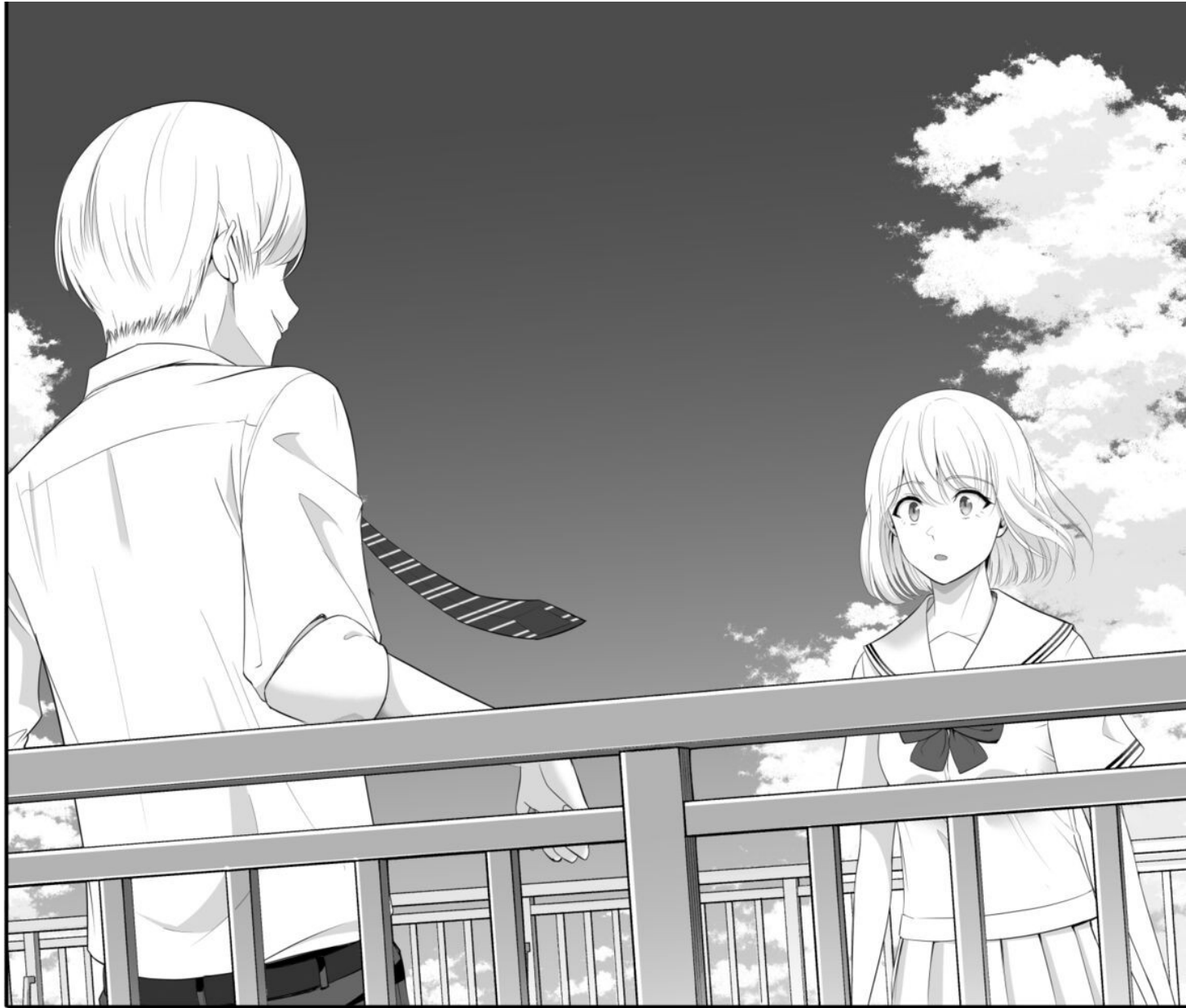


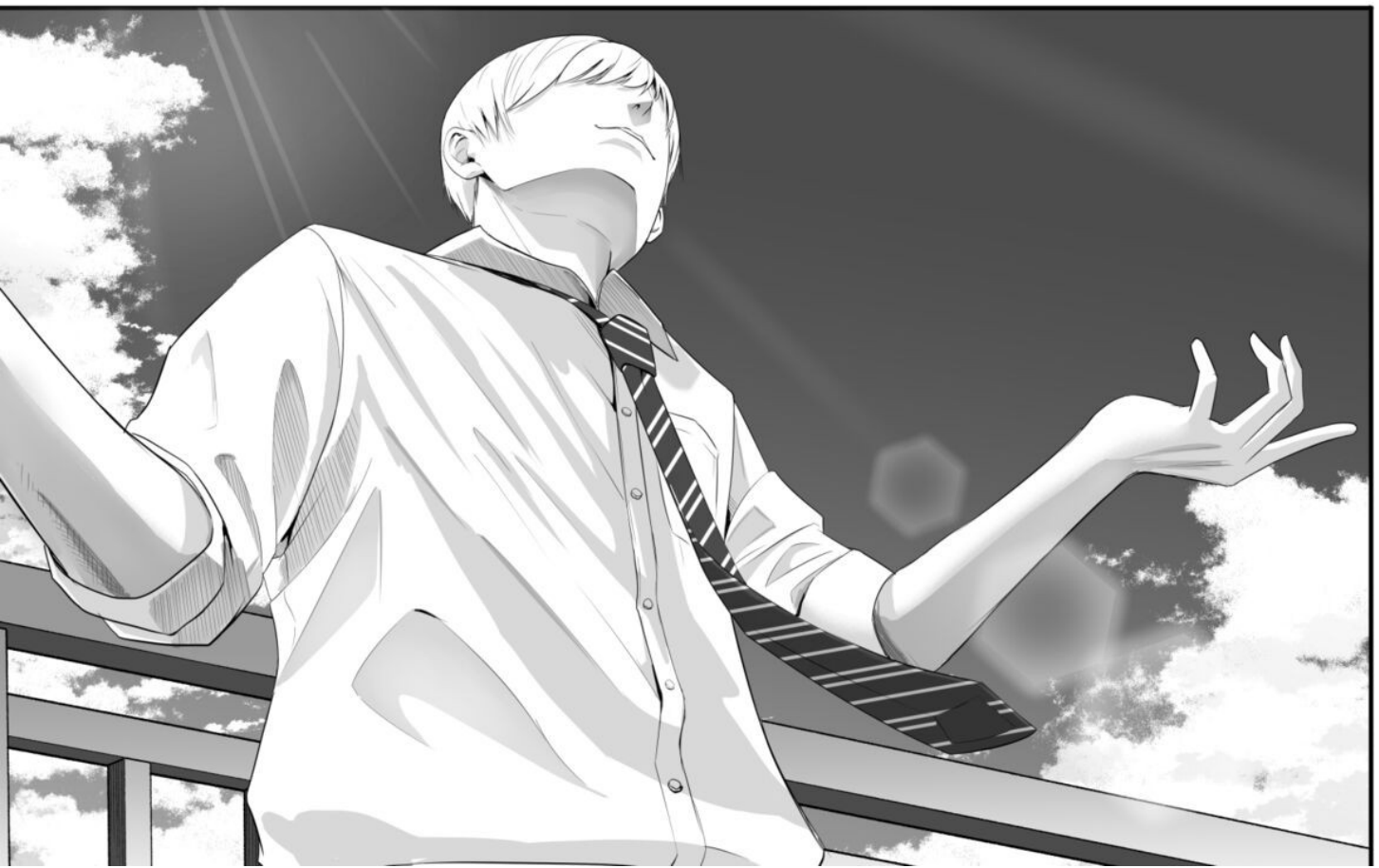
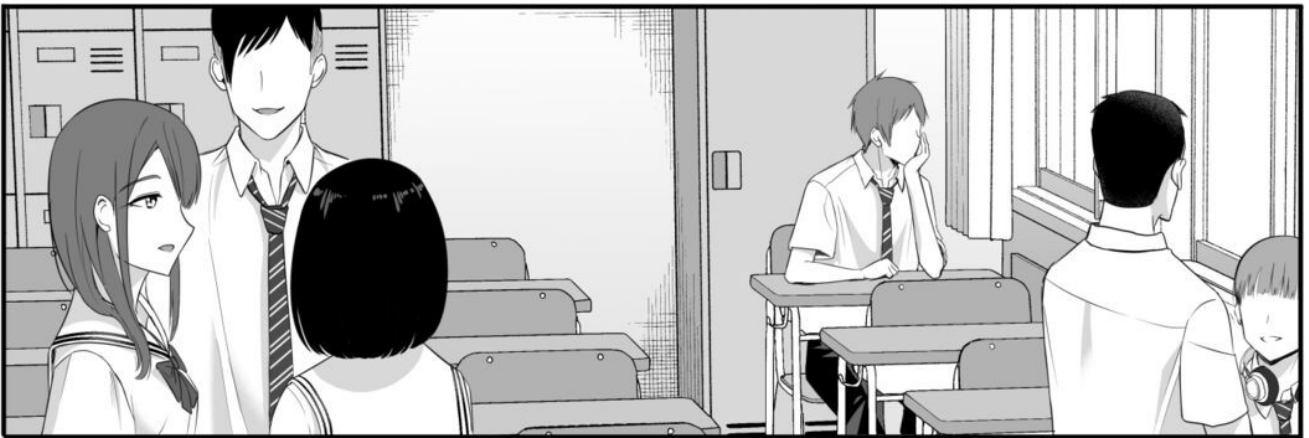


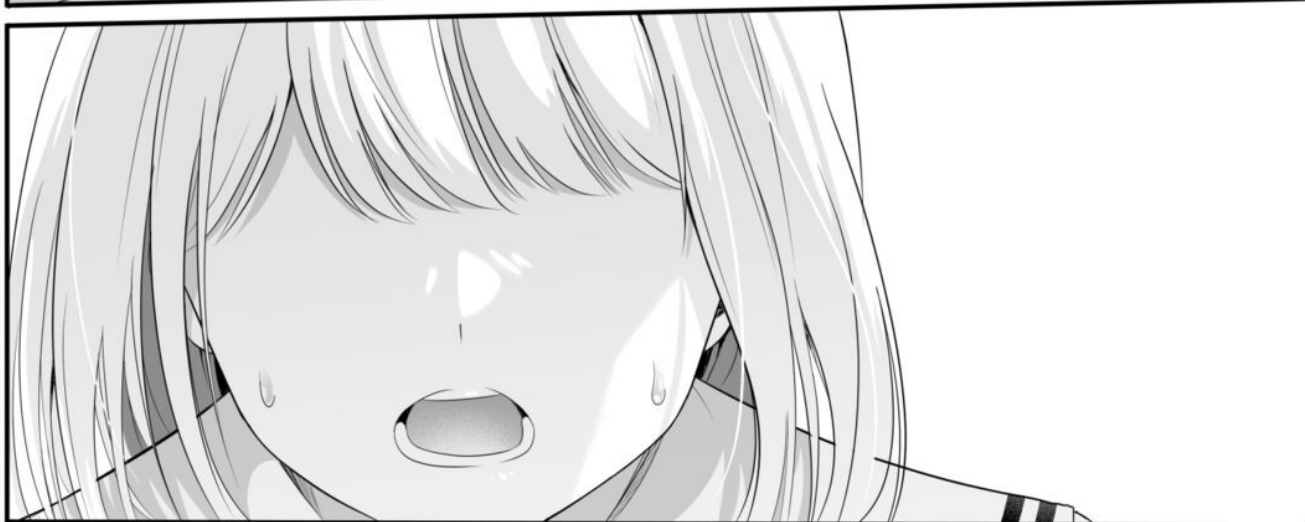


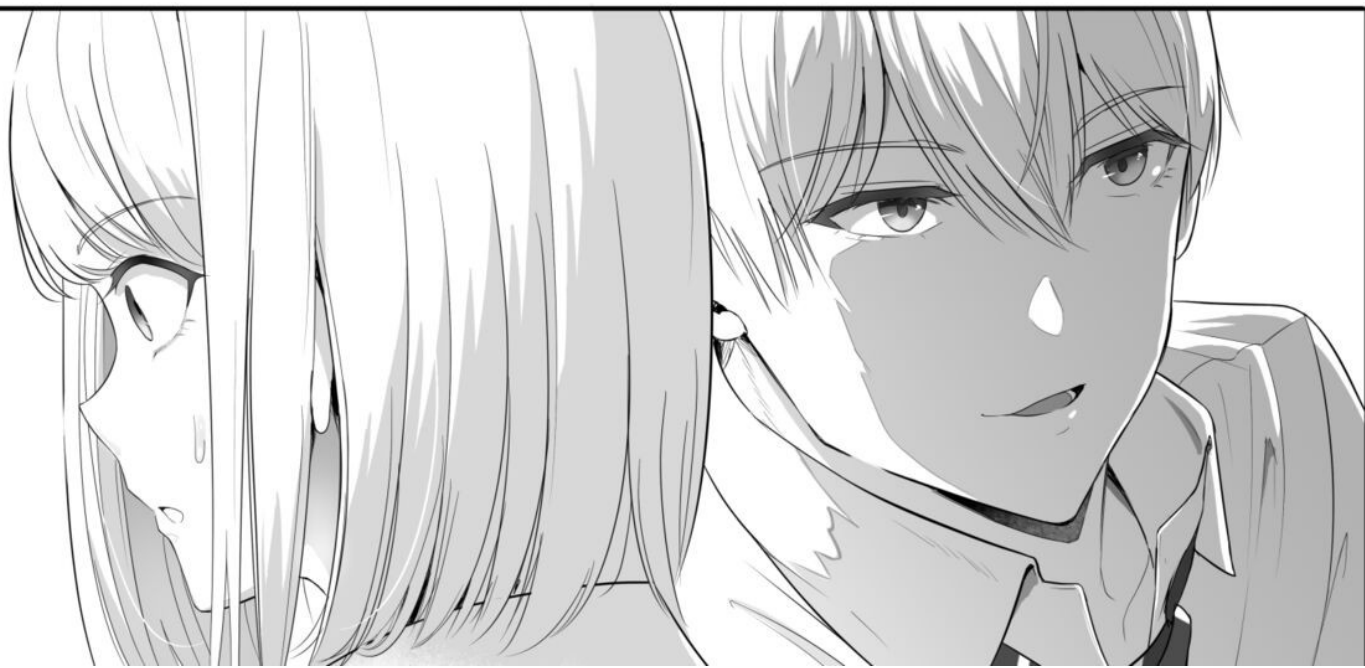
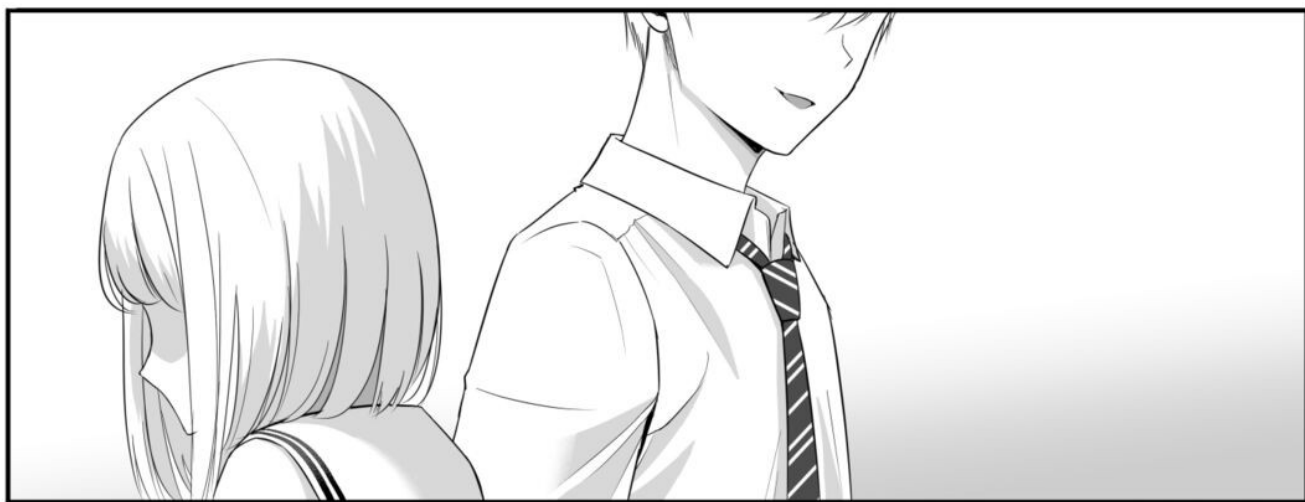
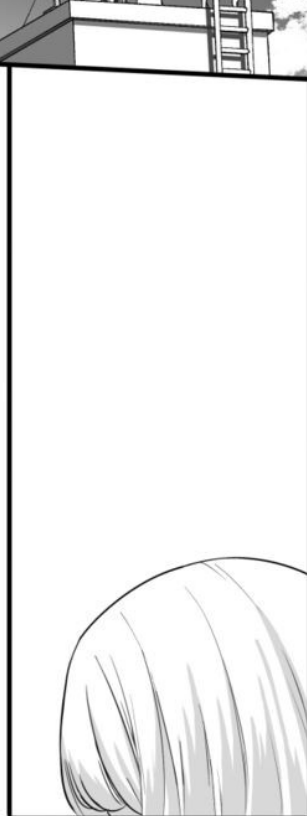


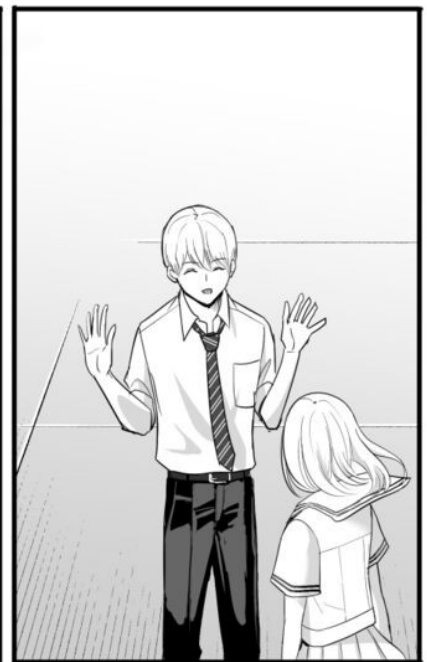
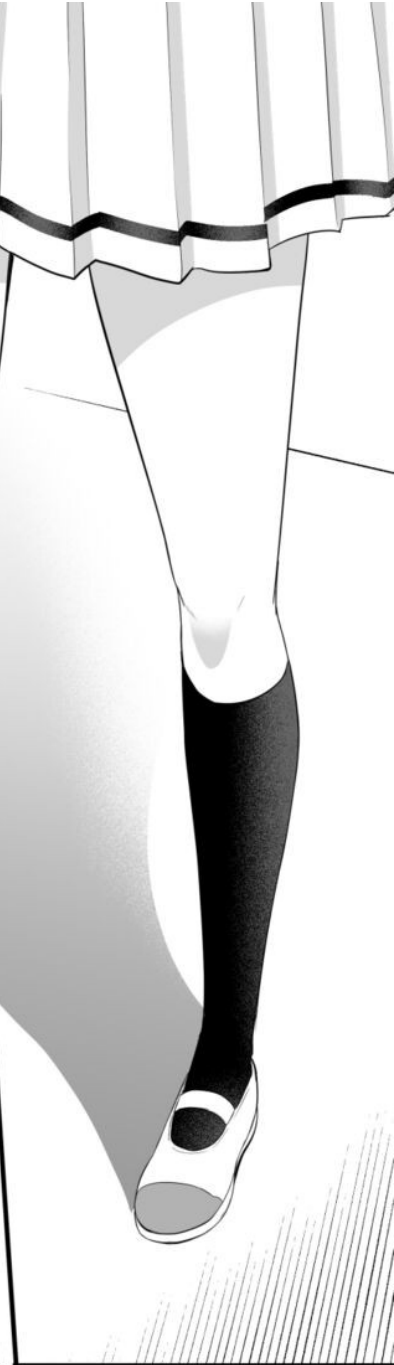


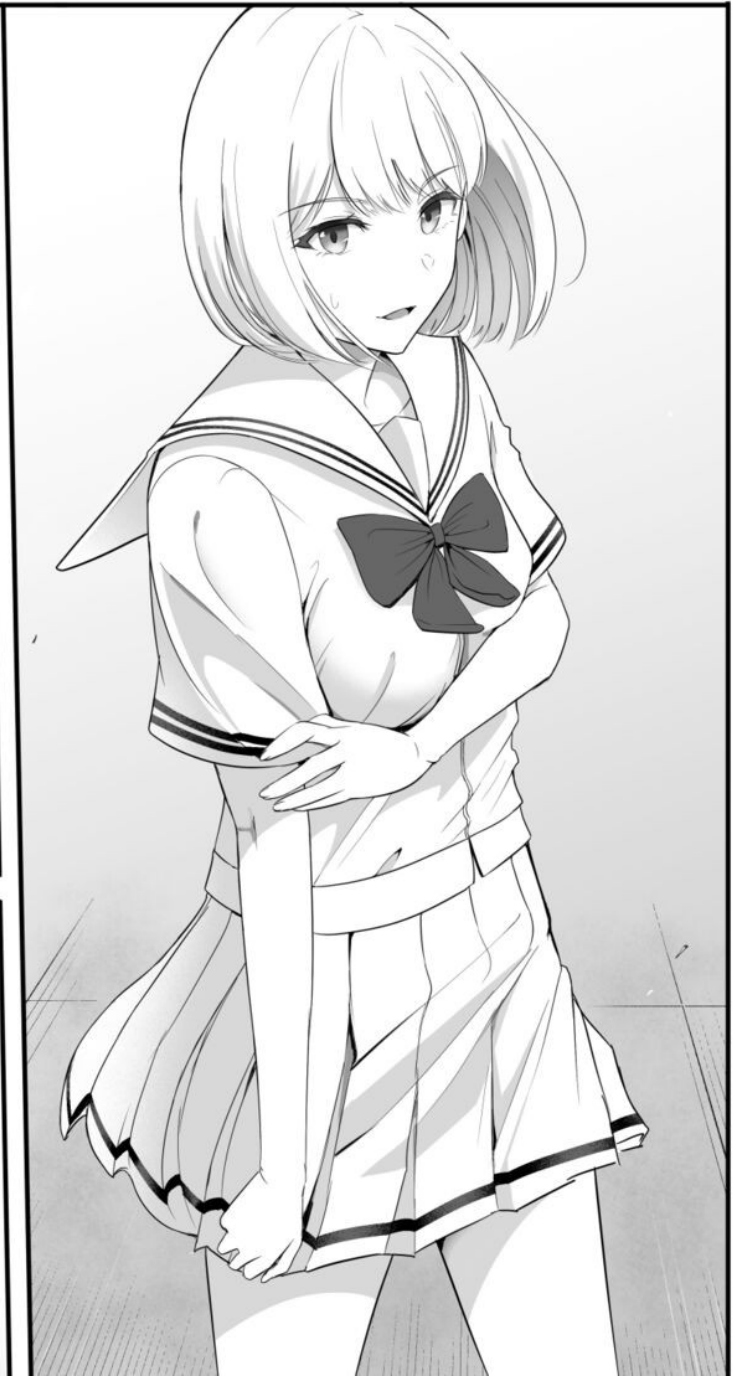
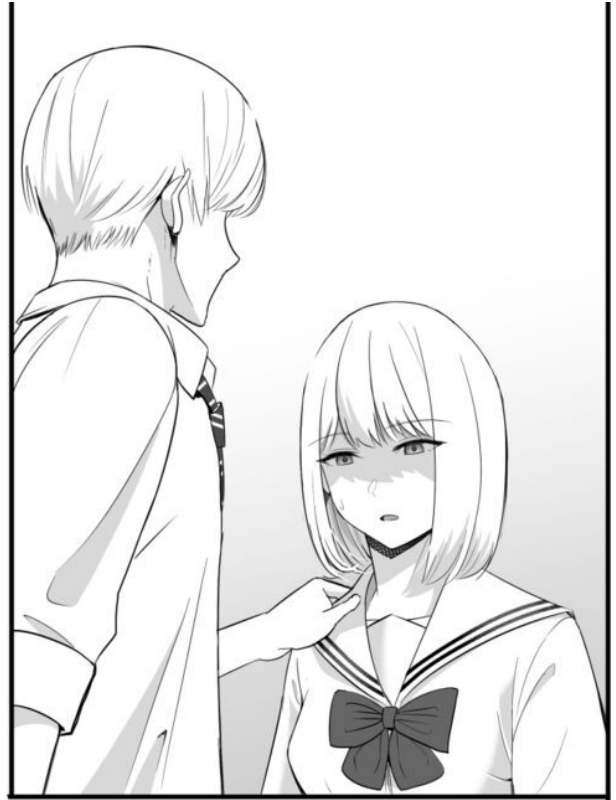
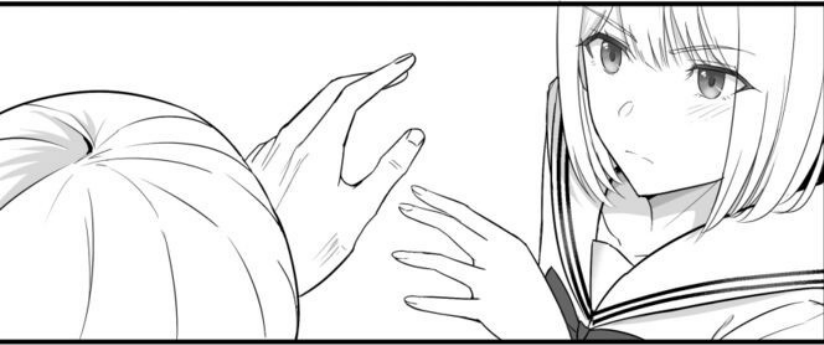


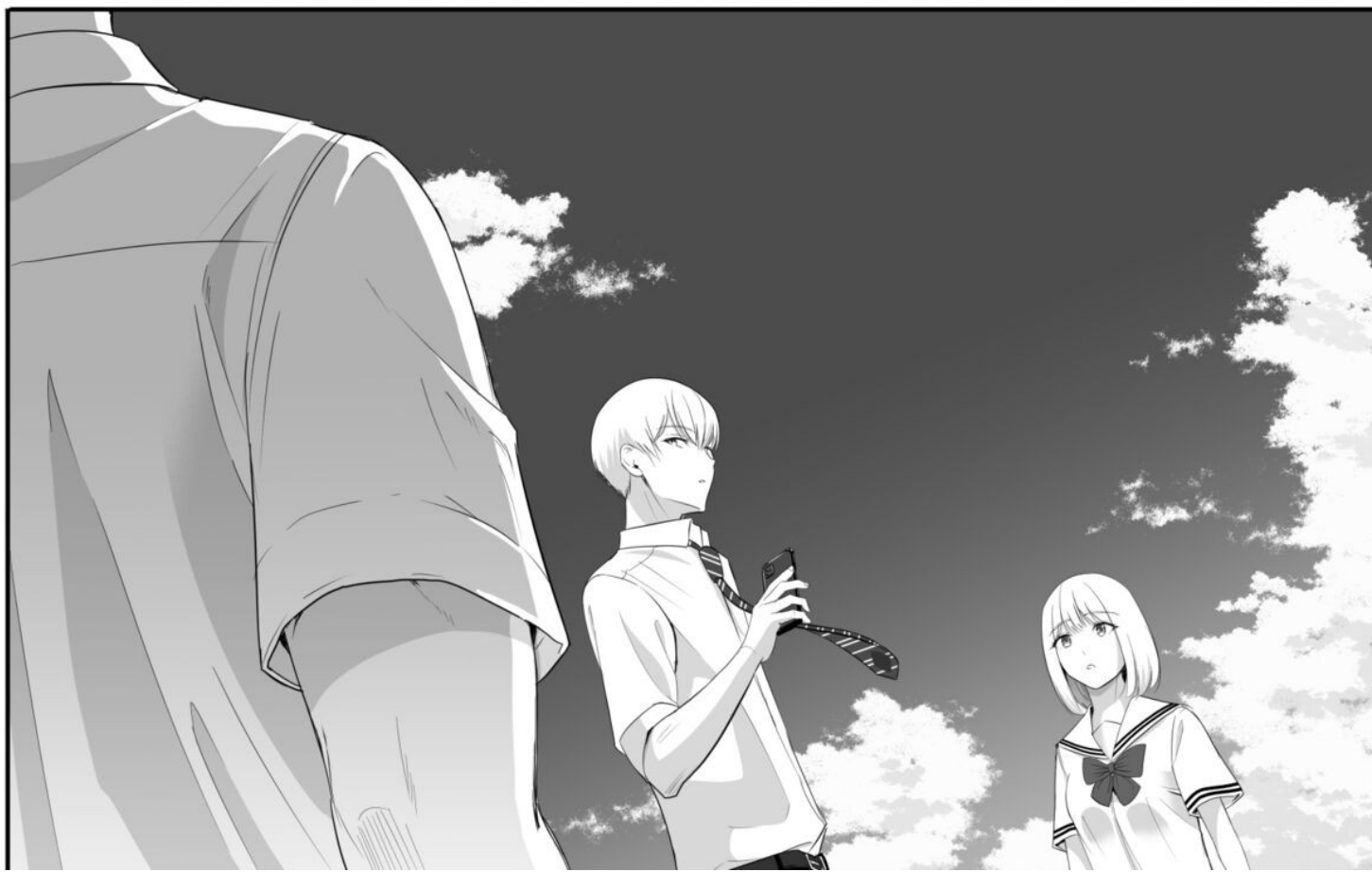
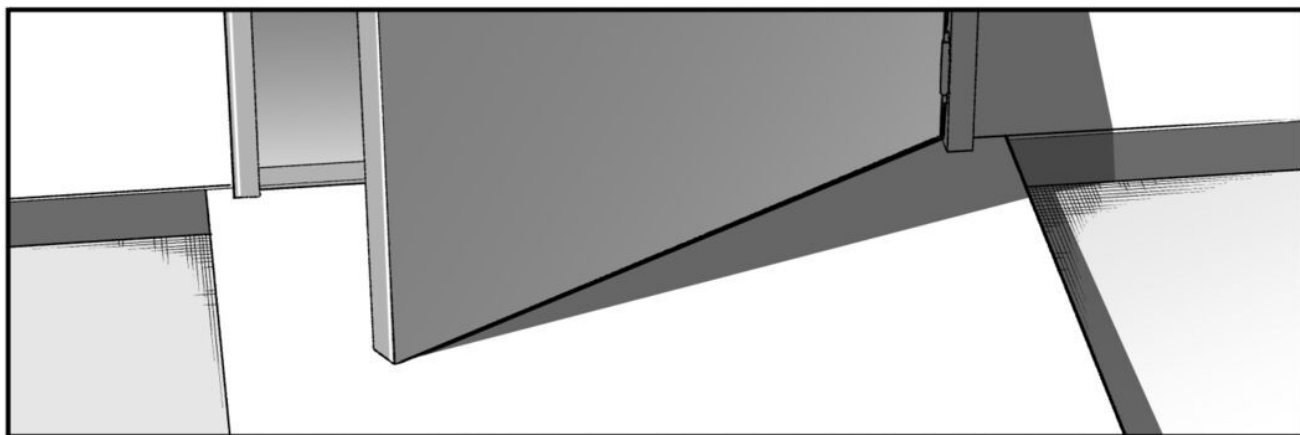
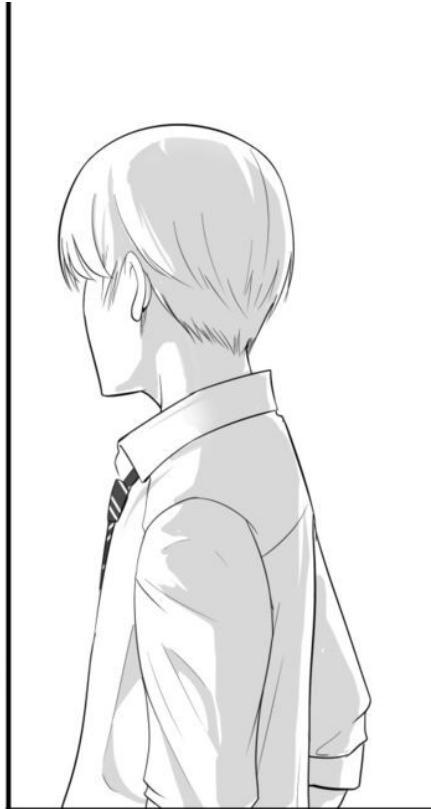


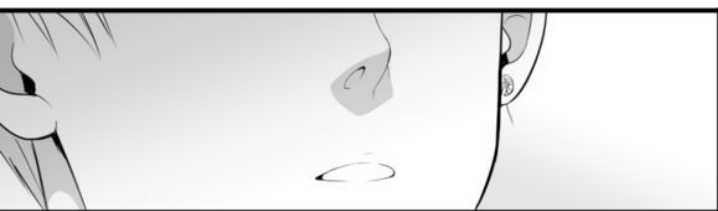
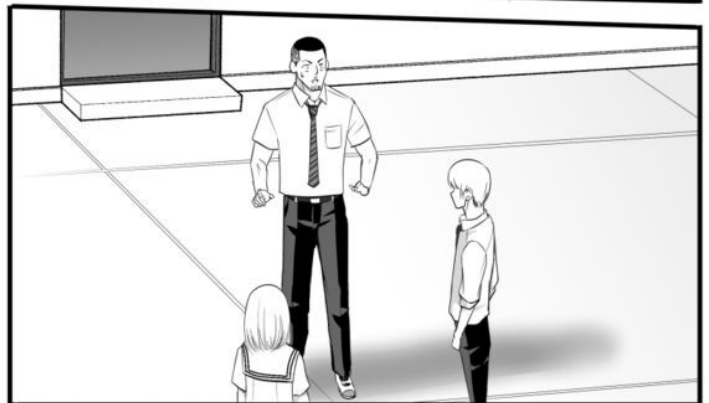
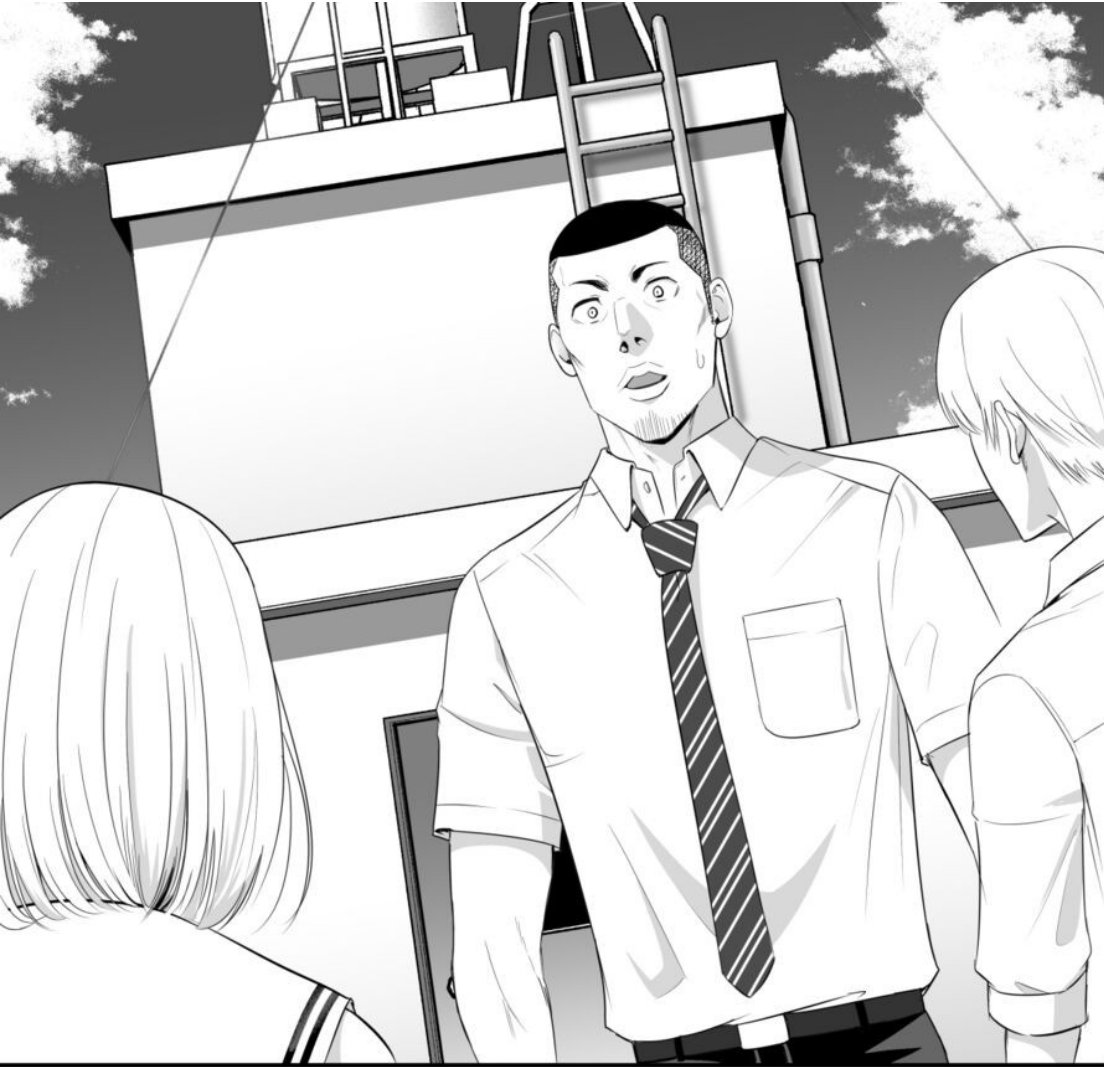


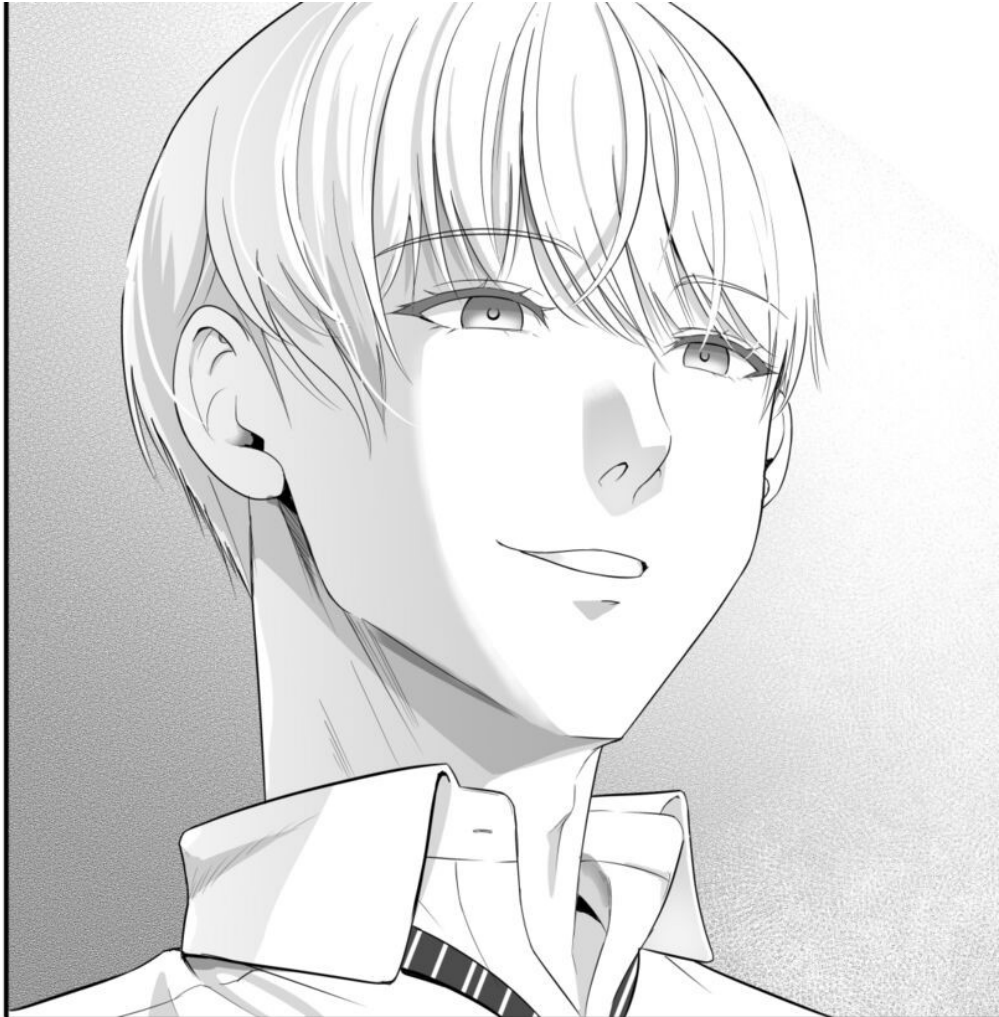












君がため。

CHAPTER 10

